第十八輯・第九號・昭和十年九月一日

大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十年八月二十五日印刷納本・昭和十年九月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と商店

日本建築協會



新裝ナレル湯淺商店殿



完備セル佐々木營業部殿

弊社最近ノ附帶設備工事

諸建築材料及附帶設備一式

設計監督・工事請負並材料販賣

三機工業株式會社大阪支店

大阪市北區中之島3丁目（大阪三井ビル内）

電話土佐堀（44）8365(3) 1776 3103

本　店　東京市麹町區有樂町（三信ビル内）

電話銀座（57）5140. 5941(9)

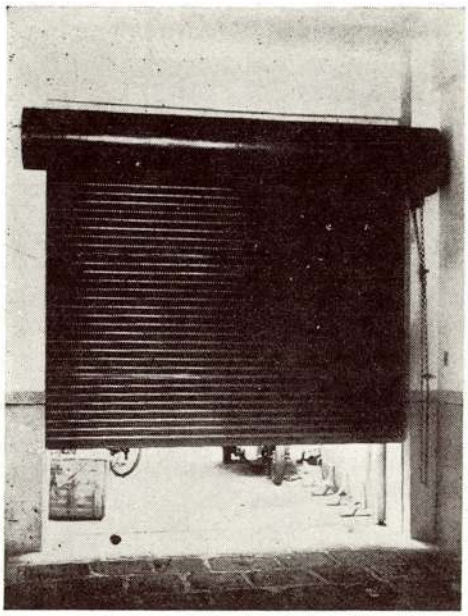
支　店　大阪・名古屋・福岡・大連・京城

出張所　札幌・新京・奉天・臺北・廣島

工　場　東洋鋼材株式會社川崎工場…川崎市渡田

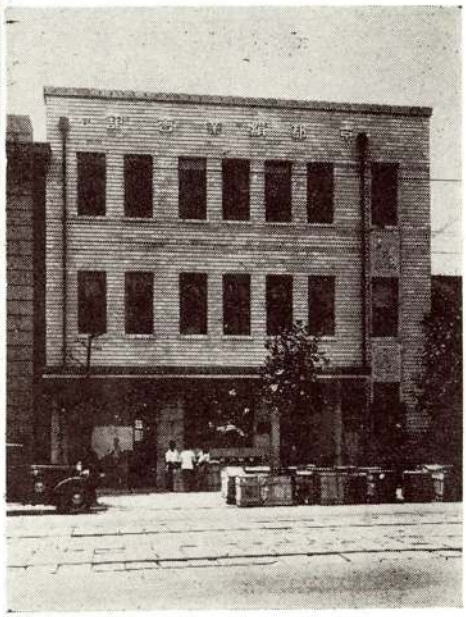
取扱店　三井物産株式會社各地支店出張所

（型錄贈呈）



京都絹織物輸出組合
非常用チエーン引シヤツター
高 9尺5寸　巾 9尺5寸

京都絹織物輸出組合
全　景　圖



製品種目

瀬川式特許スチールサツシ
瀬川式特許スチールドアー
瀬川式特許スチールシヤター
瀬川式スチールバーチシヨン
瀬川式特殊高級鋼製建具
並ブロンズドアー及メールシユート
其他一般的建築金物類

朝日建材株式會社大阪支店

大阪市東區高麗橋二丁目九番地(高麗橋野村ビル內)
電話本局(23)㊒ 4714・4715・5226(4)

本　社　東京市麹町區丸ノ內二丁目二番地(丸ノ內ビル內)
電話丸ノ內(23) 679・876

工　場　東京市城東區北砂町三丁目一二番地
電話本所(73) 5979・1821

出張所
名古屋市中區南大津町一丁目九ノ二(共濟ビル內)
電話中 2776・2777
札幌市南一條西八丁目　電話4776番
奉天市千代田通二五番地

特約店
京城府漢口通三角地　株式會社伊藤商行
大連市山縣通二一三　三祐公司

會　　告

都市武裝促進委員會記錄刊行發賣ノ件

昨夏近畿防空大演習の擧行せらるるや我協會は都市武裝促進委員會を組織して演習に參加すると共に都市の武裝即ち防空防火耐震建築の促進運動を大々的に決行し今回其の綜合記錄を上梓して關係各官公衙諸團體其他に寄贈致しました就ては尙殘本が多少ありますので特に御希望の方は御申込みにより左記實費にて頒布することに致しましたから御希望の方は本協會事務所(朝日ビル4階 電話本局4500)へ御申込みありたし

都市武裝促進委員會記錄（大サ……菊倍版 頁……395頁）　**壹　部**

實費　金壹圓六拾錢　（送料實費）

但本協會會員、賛助員の方には一部に限り特に金壹圓也（送料は協會負擔）にて御頒ち致します。

昭和10年9月

社團法人　**日本建築協會**

商標 OHNO SHUTTER PATENTED 登錄

日英米特許三一個・實用新案登錄六三個併用

大野式防火捲上ケ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式**シヤッター**
大野式**ルーブルシヤッター**
大野式融金付自働閉鎖戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐・戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉・鋼製建具類
應用特殊機械類設計製作

日英米佛獨特許三七個・實用新案登錄八四個併用

特許不二サッシ

東京市大森區新井宿七丁目
株式會社不二サッシ製作所提携

合資會社 **大野製作所**

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七三七・三七三八・三七八七

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

建築と社會

第18輯第9號　昭和10年9月發行

商店建築

目　次

商家店構への懐古 …… 佐古慶三（19）

小賣商店の店頭 …… 角尾篤彦（25）

小商店建築の平面 …… 川喜田煉七郎（39）

商店建築の家具に就て …… 小川安一郎（49）

地下商店街 …… 伊藤和夫（51）

商店照明の話 …… 內田幸夫（54）

商店建築寫眞 …… （1）

國際新建築 …… （65）

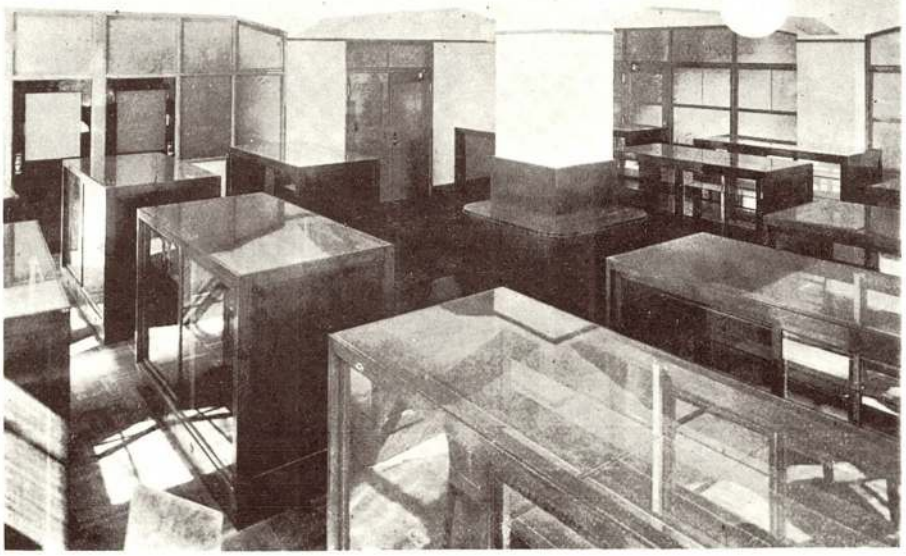
建築法規に關する質疑應答欄 …… （73）

會　報 …… （75）



外　　觀

商品見本室



淺湯七左衛門商店（大阪）

設計・湯淺建築課
施工・合名會社竹中工務店



株式會社大阪佐々木營業部

設計・清水組設計部
施工・清水組大阪支店



丸紅商店大阪支店

設計・岩本基
施工・竹中工務店

明治商店大阪支店

設計・森山松之助
施工・竹中工務店



藤井大丸（京都）

設計：
施工：上田工務店





丸三婦人服店

設計・下村泰一
施工・岡田工務店

舊店舗日本風舊式家屋の改造で、之れも2階床を打ち抜き天井を高くし、正面外廓に二重店窓を設け商品の陳列効果を大きくしたものです。店窓の構成は向側大丸に出入する大衆を目標として考案されたもので、コノ二重店窓は路巾の小さい街では効果が少ないと思ます。コノ店は相當同時に多數の顧客の集まる場合が多いので客に對する床面積が比較的大きいのです。コノ店舗は近き將來に再改築の豫想されてある耐短期性建築に屬するものです。

モトノ・セイゴ記

京都朝日ビル專門店ショウケース

之れは宮島タンス店洋家具部が引き受けたに就て私が相談を受けましたので考案したものです。之れは說明をする程の點もないと思ひますが非常に狹い床面に50餘の店輔が出陳すると云ふ上に各種各樣の商品が混亂する譯でありますから考案の基調を其の點に置て中間性最少限度の計劃即ち平たく云へば成るべく目立たないで偏しないで、ソウして丈夫にと云ふ事を目標にしたものです。ソレとビルが凡そ完成に近づいて大體の輪郭も略想像されましたのでソレも考慮に入れた譯です。ビルの設計者石川氏が私のスケツチを見る迄は擬寶珠や勾欄や京の四季等が出るのではないかと心配して居られたと云ふ事です。

モトノ・セイゴ記



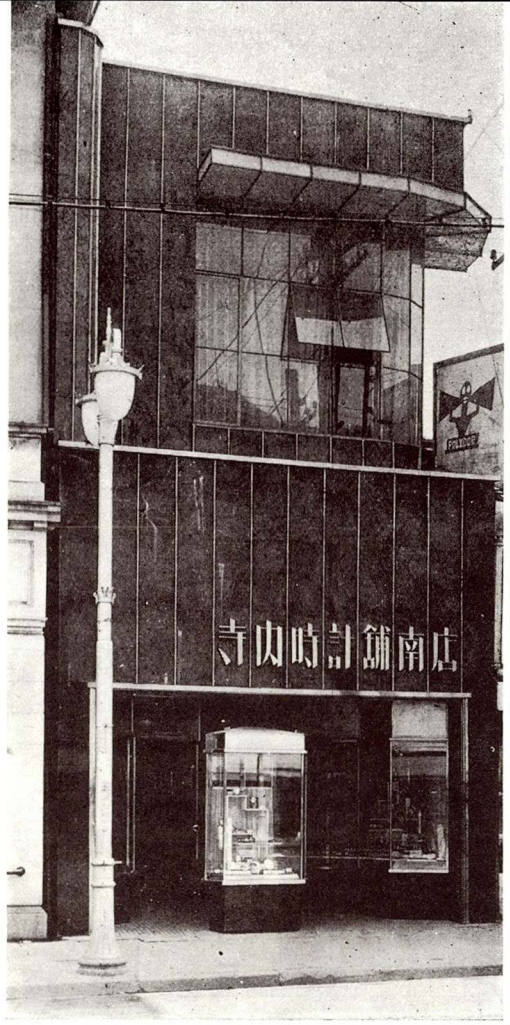
寺内時計店（京都）

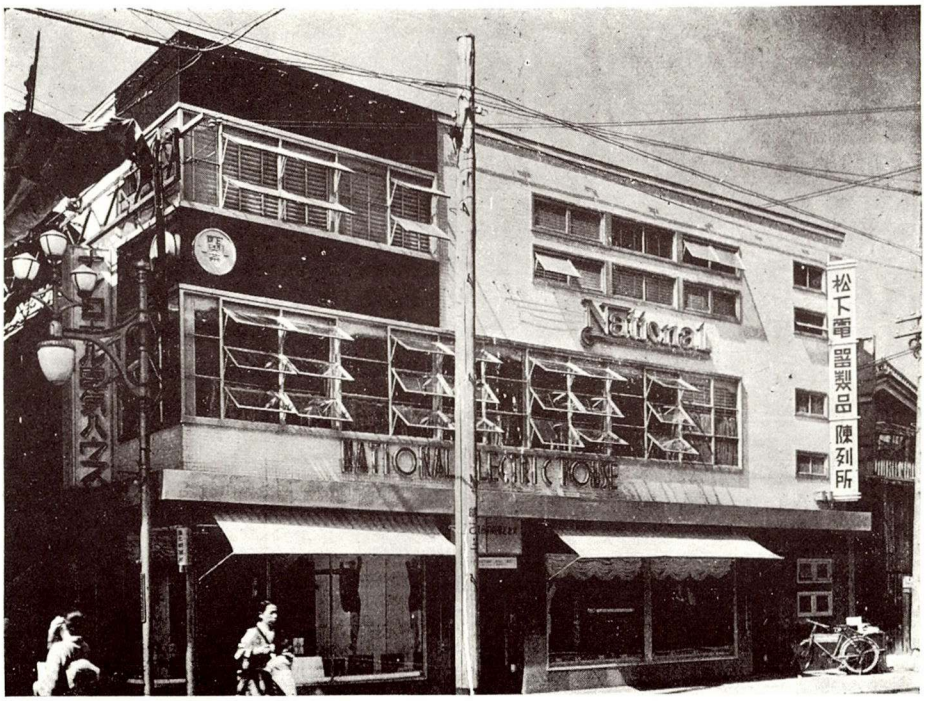
計設・下村泰一
施工・岡田工務店

舊店舗の改造で在來の舊式の日本風店舗であつた爲めに外廓の主要な構造材を殘して餘の部を全部改造したものです。2階床を打ち拔いて內部天井を非常に高くしたものですソレによつて內部に豊かさが出來ますけれども在來の2階家構造材の爲めに相當大きな障害を受けて居ます。商店の性質上建築材料は相當撰擇されたものを用ひてあります。金屬部はホワイトブロンズ。アルマイト等混用。壁體はテツコ。天井及壁上部を日本襖紙張りにしたものです。

外部上半は黑大理石張りで、店窓中央に晝間歩道に引き出す突出移動式窓を設けたる事は法規の範圍內で店窓効果を大きくする方法と云へます。

モトノ・セイコ記





ナシヨナル電氣ハウス（大阪）

設計・竹中工務店設計部
施工・竹中工務店



カタヤマ商店（大阪）

改築設計・　カタヤマ商店



カクマツ屋（大阪）

改築設計・　カクマツ屋

施　　工・　寺井洋家具店



外　　觀

中原家具裝飾店（大阪）

設計・安藤邦男

施工・福岡文一事務所

內　　部

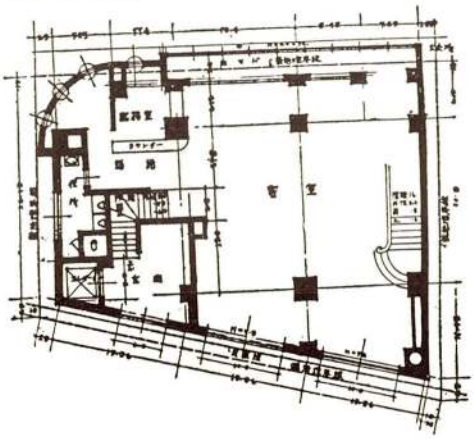




松竹アドビル（大阪）

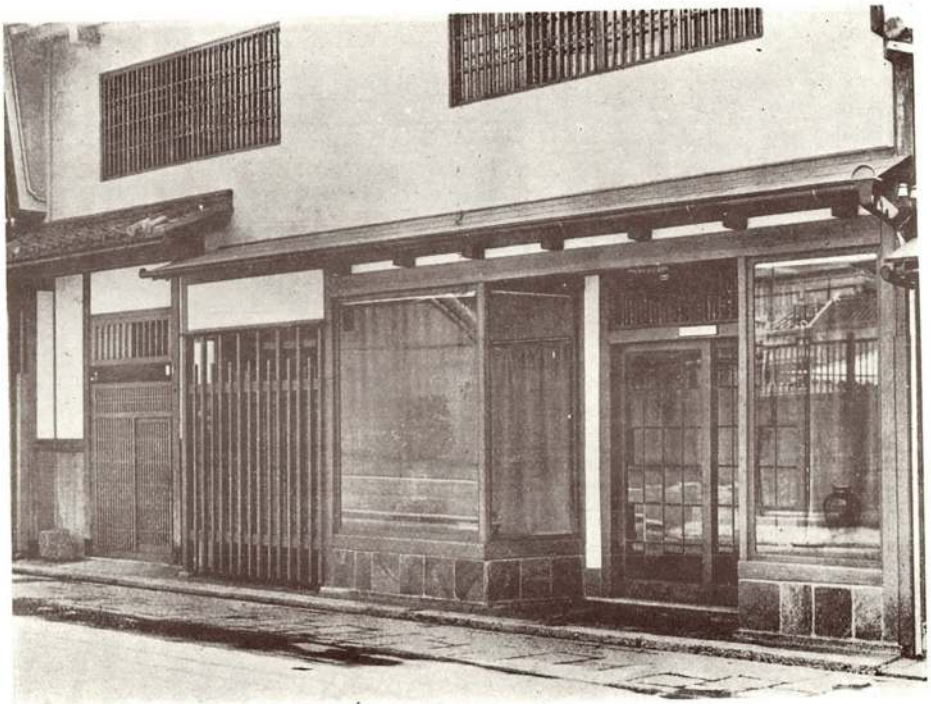
設計・ 本間乙彦事務所
施工・ 大阪木村組

1階平面圖



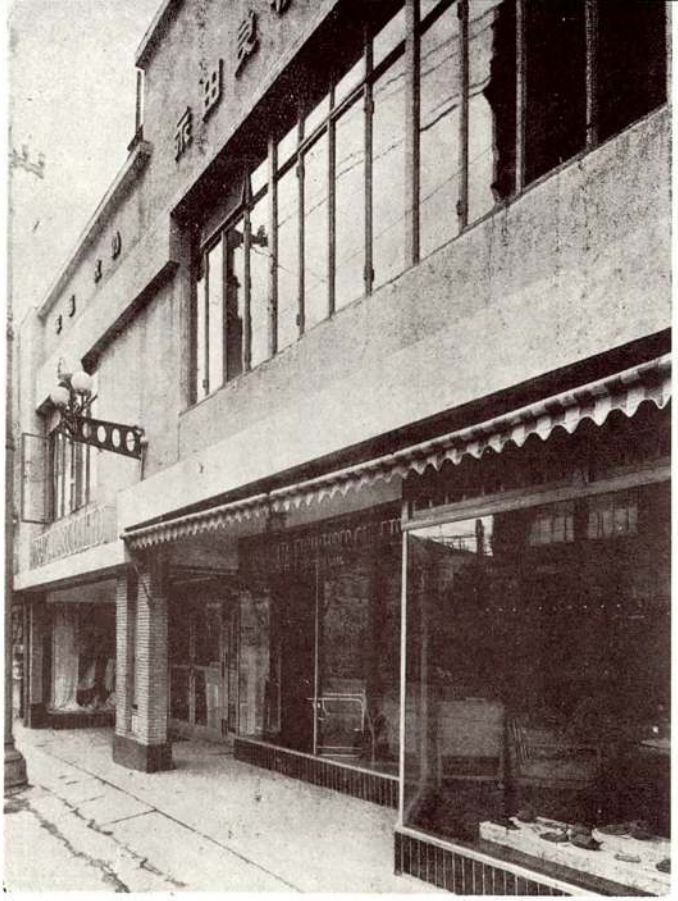
小澤商店（大阪）

設計・ 笹川愼一
施工・ 藤木工務店



永田良介商店（神戸）

設計・永田善從
施工・永田建築事務所



美津濃運動具店（神戸）

設計・小林謙三





ミナト商店（神戸）

設計・永田善従
施工・永田建築事務所



太田商店（神戸）

設計・永田善従
施工・永田建築事務所



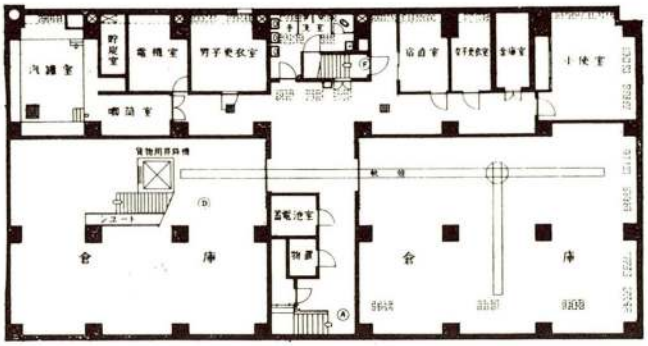
石本商店（神戸）

設計・永田善從
施工・永田建築事務所

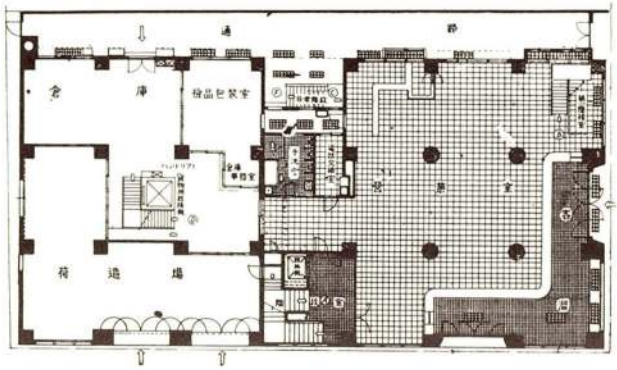
石野貞雄商店（神戸）

設計・瀧川榮亮
施工・大阪橋本組

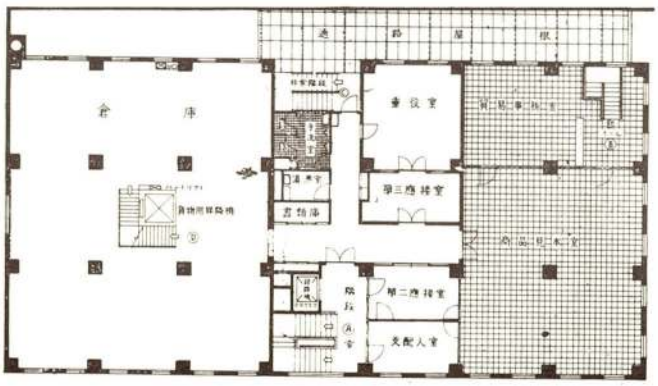




地階平面圖



第一階平面圖



第二階平面圖

株式會社湯淺七左衛門商店新築工事概要

位置　大阪市南區末吉橋通二丁目十番地（長堀橋北詰）

建物高さ　地盤面より7階食堂扶壁上端まで 21,68メートル(71.55尺)

地盤面より塔屋上端まで 24.81メートル(81.90尺)

建物面積

總延面積　3,844.63平方メートル(1,165.04坪)

各階内譯

地　階	603,70平方メートル	(182.94坪)
第1階	634.95平方メートル	(192·41坪)
第2階	575.45平方メートル	(174.38坪)
第3階	575.45平方メートル	(174.38坪)
第4階	549.92平方メートル	(166.64坪)
第5階	522.23平方メートル	(158,24坪)
第6階	160,61平方メートル	(48.67坪)
第7階	193.35平方メートル	(58.59坪)
塔　屋	28.97平方メートル	(8.78坪)

工　程

起工　昭和9年8月4日

竣工　昭和10年8月20日

各階室配置

地階　宿直室、金庫室、男子更衣室、女子更衣室、小使室、手洗室、電機室、蓄電池室、汽罐室、貯炭室、排水喞筒室、汚水喞筒室、物置、貯水槽、汚水淨化槽、倉庫

第1階　營業室、玄關、客溜、第1應接室電話交換室、階段室、湯沸室、手洗室、倉庫、倉庫事務室、檢品包裝室、荷造室

第2階　商品見本室、貿易事務室、重役室支配人室、第2應接室、第3應接室、ホール、階段室、書類庫、湯沸室、手洗室倉庫

第3階　第1會議室、第2會議室、社長室第1客室(洋風)、第2客室(和風)、第4應接室、休養室、第1及び第2店員私物室、階段室、湯沸室、洋風浴室、手洗室倉庫

第4階　店員室(自第1號室至第6號)、喫煙室、第3店員私物室、階段室、手洗室倉庫

第5階　講堂、第5應接室、圖書室、第4店員私物室、階段室、手洗室、倉庫

第6階　倉庫

第7階　食堂、厨房、物置、階段室、洗面室、浴室、脫衣室、屋上庭園、神社

塔屋　昇降機機械室、水槽室

構造大要

基礎　地表下19尺まで總掘りとなし敷及び側に捨コンクリート打ちの上防水層を設

けたる鐵筋コンクリート基礎床版なり

主體　鐵筋コンクリート造り一部鐵骨鐵筋コンクリート造り地下1階地上本館側5階、倉庫側7階建て耐震耐火構造、但し壁體のうち部分的に輕量鐵骨間仕切り又は煉瓦積みとす。

階段は本館側は鐵筋コンクリート造り、倉庫、本館の一部及び非常階段は鐵骨造りとす。

屋根は鐵筋コンクリート陸屋根にして總て防水層の上にシンダーコンクリートを打ち褐色クリンカータイル敷き又はモルタル仕上げとす。

樣式　近世式

外裝　1階南側及び西側は本磨き折壁石張り、東側及び北側は人造石洗出し及びモルタル仕上げ、2階以上は四圍とも釉藥掛乳白色タイル張りとす、尙扶壁笠石は錆御影石小叩き仕上げなり。

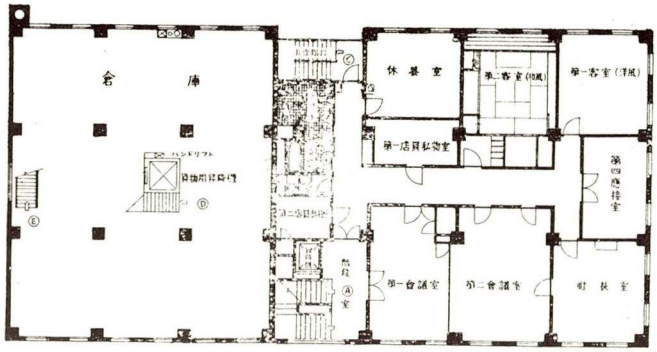
内裝　天井は主として白漆喰塗り仕上げとす、但し社長室は桐柾市松張り、第2客室は杉柾板竿緣一部網代天井講堂はテッキス張り、地階はプラスター塗り仕上げとす。

壁は主として白漆喰塗り仕上け、但し講堂はコルク吹付けペンキ塗り仕上げ其の他室により壁紙張り又は砂壁仕上げとす腰は營業室は甲丸タイル張りにして巾木に勿來石本磨きを使用し1階より3階までの階段室は小形角丸タイル張り、其の他室により釉藥掛タイル磁器タイル又はチーク、オーク、タンギール、樺羽目等とす、但し倉庫は各階ともモルタルペンキ塗り仕上げ床は主としてオークフローリングブロツク又はリノリユーム或はモザイクタイル張りにして其の他は人造石磨出し又はモルタル仕上げなり。

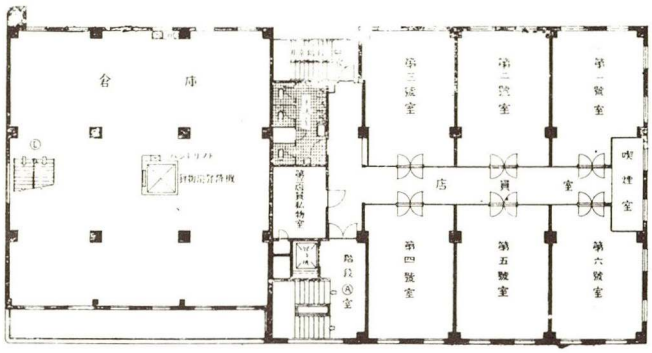
建具　各階の外部に面する窓は總てスチールサツシ取附け、更に本館側にはスチールシヤツター倉庫側には防火鐵扉を附す本館と倉庫との境界にはスチールドーア及びシヤツターを設け本館内各室の間仕切用として部分的にスチールパーテイションを建込む、各室出入口に取付けたる扉のうち木造のものは檜、オーク、チーク、タンギール等使用のフラッシドーアにして其の他は總てスチールドーアを使用しドーアクローザー並にシリンダーロツクセットを附す、非常階段を包む大硝子窓には網入硝子及び6耗厚透明硝子を嵌込みたるスチールサツシを用ふ。

附帶設備

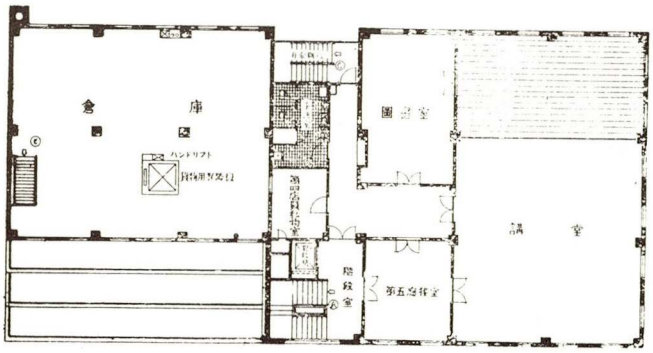
(1)電氣設備　(2)衛生設備　(3)煖房換氣設備　(4)昇降機設備　(5)瓦斯設備



第三階平面圖

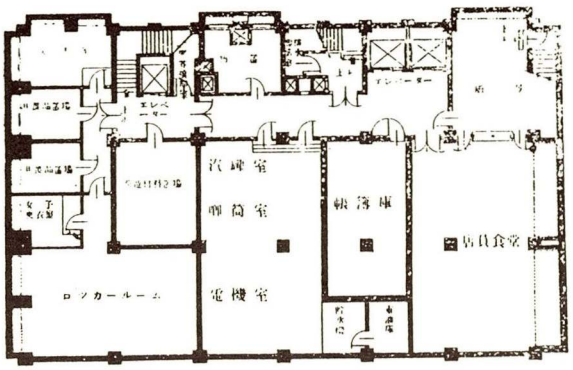


第四階平面圖

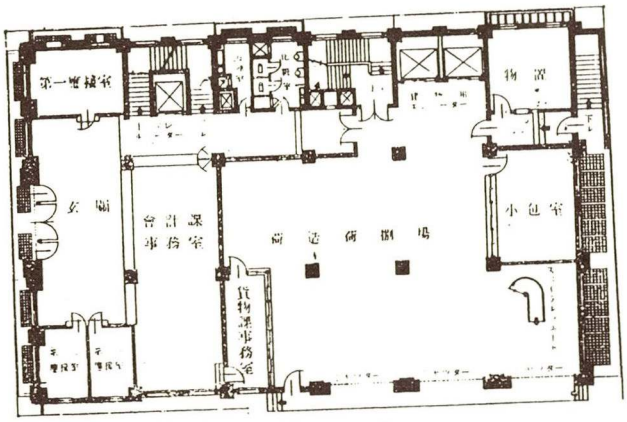


本館側第五階　倉庫側第六階平面圖

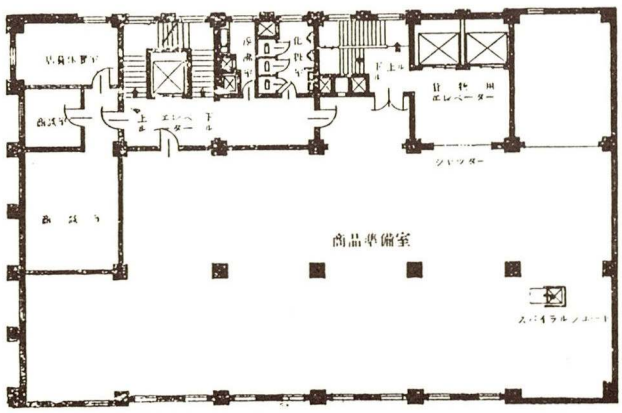
株式會社大阪佐々木
營業部新築工事概要



地　　階



一　　階



二　　階

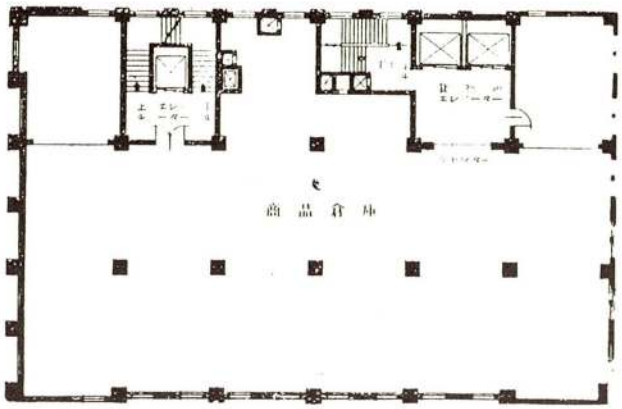
位　置　大阪市東區安土町２丁目15番地、18番地及19番地

敷地面積　1,084.674平方米
建築面積　662.847平方米
總延面積　5,697.990平方米
各階面積
地　階　687.143平方米
1　階　662.847平方米
2　階　630.001平方米
3　階　630.001平方米
4　階　630.001平方米
5　階　630.001平方米
6　階　577.862平方米
7　階　577.862平方米
8　階　577.862平方米
屋上1階　66.603平方米
屋上2階　27.807平方米

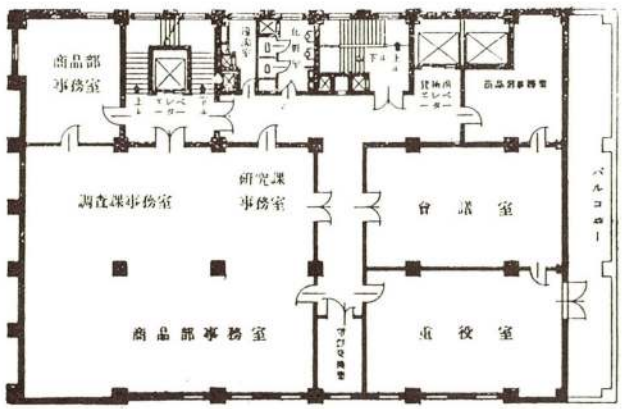
建物高　地盤面より屋階扶欄上端迄　31.00米地盤面より屋上2階扶欄上端迄　39.20米

室の配置
地階　汽罐室、電機室、重油庫、貯水槽、塵芥燒却室、女子更衣室、ロッカー・ルーム、帳簿庫、店員食堂、厨房、荷造材料置場、用度品置場、店夫室、豫備室
1階　玄關、內玄關、應接室、事務室、貨物課事務室、荷造荷捌場、發送口、入貨口、小包室、化粧室、湯沸室
2階　商談室、店員休養室、商品準備室、化粧室、湯沸室
3階、4階、5階　倉庫
6階　事務室、會議室、重役室、電話交換室、化粧室、湯沸室
7階　陳列室、應接室、化粧室、湯沸室
8階　講演室、ステーヂ、物理試驗室、化學試驗室、暗室、應接室、化粧室、湯沸室、ファン・ルーム
屋上1階　物見塔、昇降機械室
屋上2階　昇降機械室、貯水槽

主體概要
基礎　松杭打ち鐵筋コンクリート造
構造　建物の主體は總て耐震耐火の目的を有する鐵骨鐵筋コンクリート構造にして外壁、主要間仕切壁、柱、床、階段、陸屋根床等は耐震架構體を構成す
外觀　本建築の外觀は事務所建築に適應する堅實なる近世式手法に據り設計され、外壁の根石は花崗岩、腰石はチエンジコートを使用し、上部壁面軒廻り共總て釉掛タイル貼り仕上とす
各出入口及窓は鐵製建具を使用し、正面玄關、發送口、入貨口には電動式防火シヤツターを設備す
屋根　各陸屋根は防水工事を施しクリンカータイル貼りとす



三、四、五階



六階

内部　主要室内仕上の大要

客溜

床—モザイックタイル貼り　壁—腰テラゾー、上部プラスター塗　天井—プラスター塗

荷造荷捌場

床—木煉瓦敷　壁—腰タイル貼り、上部プラスター塗　天井—プラスター塗

客用廣間

床—人造石研出塗貝殻目地入り　壁—腰テラゾー、上部プラスター塗　天井—プラスター塗

商品準備室

床—米松樣甲板張り　壁—水性ペンキ塗　天井—水性ペンキ塗

各事務室

床—フロアリングブロック敷　壁—腰プラスター塗ペンキ仕上、上部プラスター塗　天井—プラスター塗

陳列室

床—フロアリングブロック敷　壁—ラフコートペンキ仕上　天井—プラスター塗

講演室

床—フロアリングブロック敷　壁—ドングロス張ペンキ仕上　天井—テックス張水性ペンキ仕上

附帶設備概要

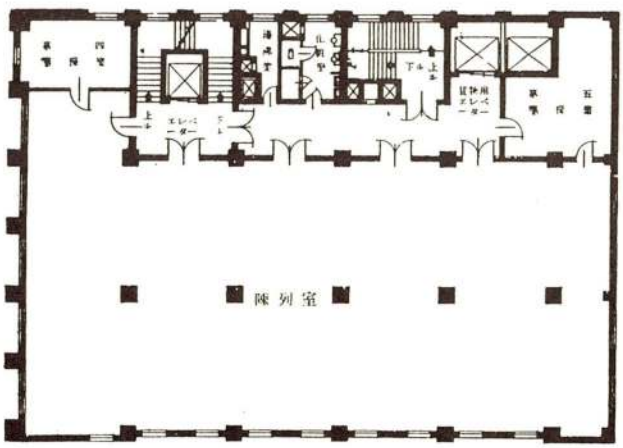
昇降機、給水設備、給湯設備、排水設備、汚水處理裝置、煖房設備、換氣裝置、消火設備、傳票氣送裝置、電氣設備、電話設備、擴聲設備、タイムレコード、電氣時計、塵芥燒却設備

起工　昭和9年4月16日

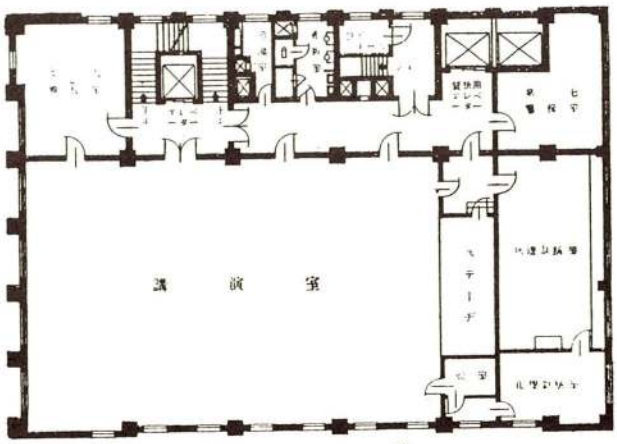
竣工　昭和10年5月28日

設計　合資會社清水組設計部

主體施工　合資會社清水組大阪支店

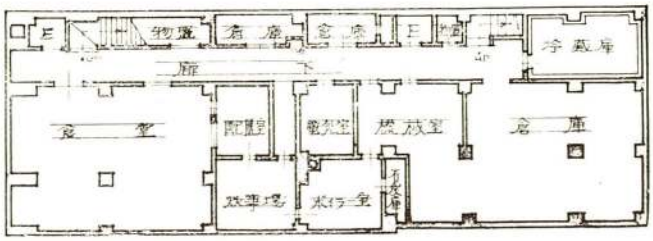


七階

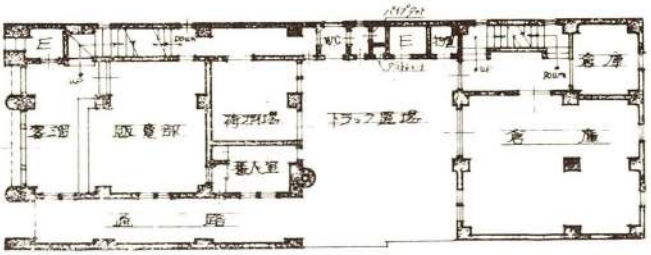


八階

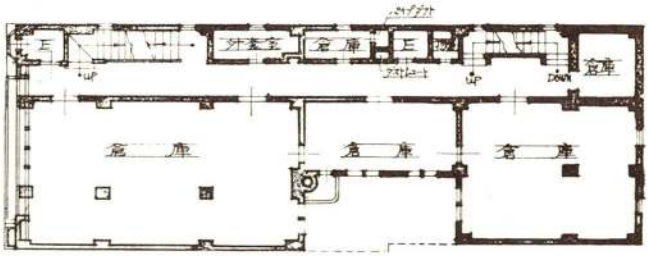
明治商店平面圖



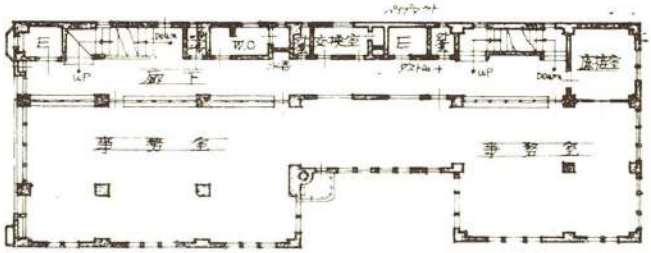
地階平面圖



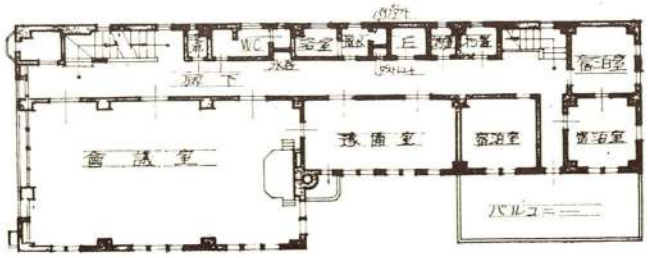
1階平面圖



2階平面圖



3階平面圖



4階平面圖

明治商店大阪支店新築工事概要

構造	鐵筋コンクリート造4階建	
建築面積	地階	348.55 m²
	第1階	311.49 m²
	第2階	311.49 m²
	第3階	311.49 m²
	第4階	279.88 m²
	塔屋	22.94 m²
	合計	1,585.84 m²
設計	東京森山松之助建築事務所	
施工	合名會社竹中工務店	

丸紅商店大阪支店工事概要

位　　置　大阪市東區本町２丁目37番地

敷地面積　742.34 m²

建築面積　516.28 m²

延建築面積　3,263.24 m²

内譯

地　階	604.43 m²
第１階	576.28 m²
第２階	576.23 m²
第３階	572.65 m²
第４階	437.12 m²
第５階	437.12 m²
第６階	45.37 m²
中６階	14 m²

附屬建物　塔壁　鐵骨浪波張

建物高さ　軒高 20 m　塔最高 23.73 m

樣　　式　近世復興式

起　　工　昭和９年３月14日

竣　　工　昭和10年２月20日

設 計 者　岩本基

施　　工　合名會社竹中工務店

構造概要

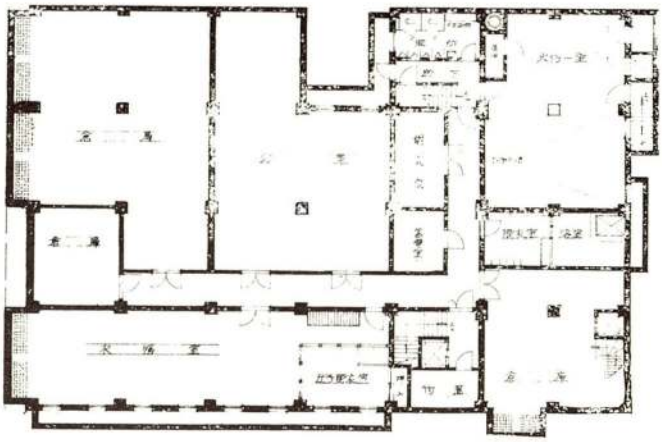
基礎　割栗地形フラットスラブ基礎

主體構造　鐵筋コンクリート造

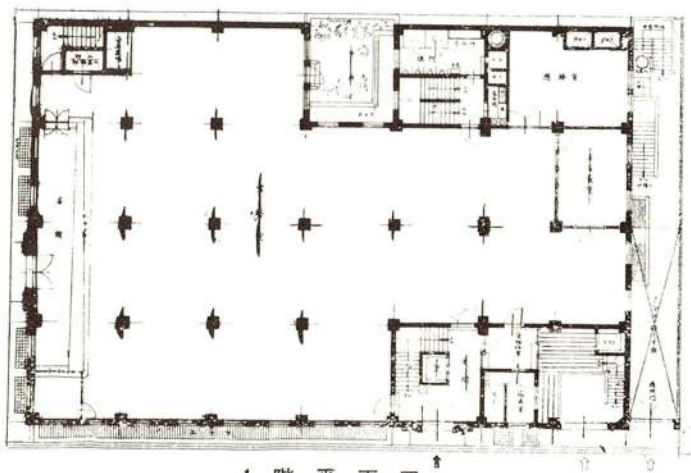
外裝　主要部入口(南面及東面各１ケ所)廻り並に根石は萬成石小叩き仕上

腰(2階窓臺下迄)トラバーチン碎石キヤストストーン据付け、上部壁面は釉藥磁器薄卵色長手タイル張、軒蛇腹並に一部窓廻りテラカツター張りとす

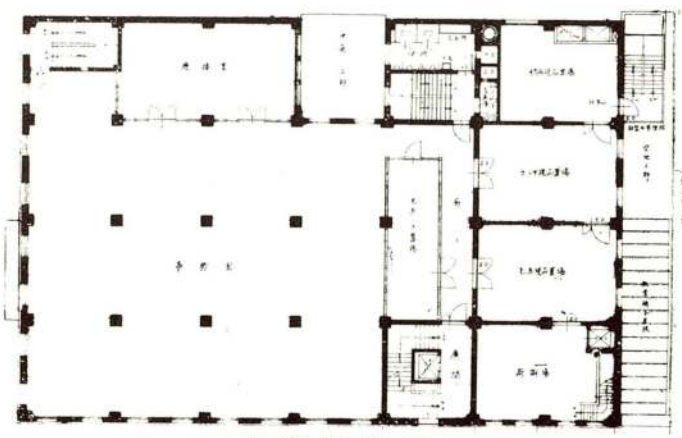
北側には５階迄通ずる鐵製非常階段を設く。



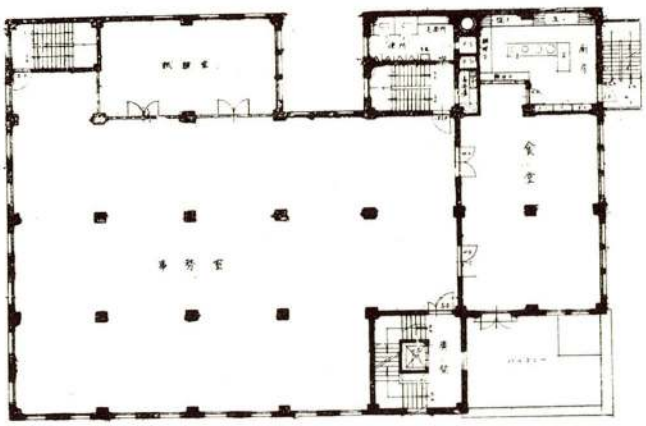
地　階　平　面　圖



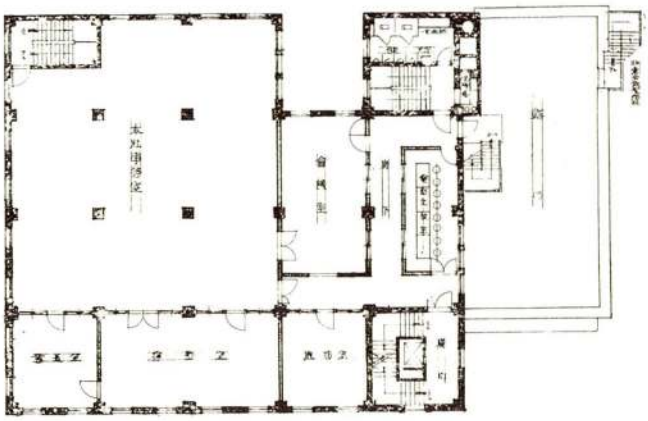
1　階　平　面　圖



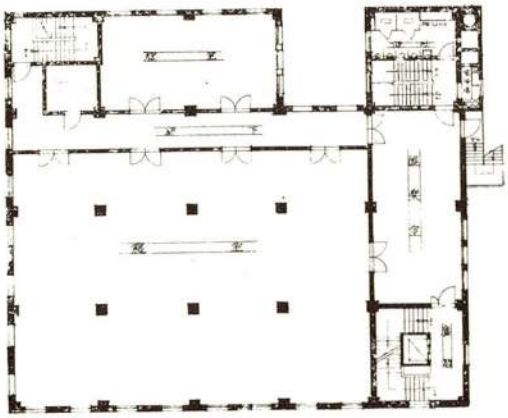
2　階　平　面　圖



3 階 平 面 圖



4 階 平 面 圖



5 階 平 面 圖

内裝　主としてプラスター塗仕上、正面玄關客溜り、廻り大理石並にテラゾー張り1階及び4階事務室は壁面コルク入人造研出し塗仕上其他特殊部分は腰廻り鏡地並に米檜腰羽目を取付け、便所は大理石並にモザイツクタイルを使用し、尙階段室廻りは人造研出し、コルク入人造研出し及び巾木テラゾー腰モザイツクタイルを使用す。

建具　各側窓は全部スチールサツシュを使用し特に南面及び東西は防音の爲二重硝子倣サツシュとす。

尙主要部は殆んどスチールドアーを使用し、本製スクリーンの箇所並に便所、湯沸場、浴室物置等の一小部分のみ木製建具を使用す。

各玄關入口はシヤツターを其他階段室廻りは防火戸を設く。

床仕上　玄關、各階段室、便所、食堂等はモザイツクタイル敷とし各階居室は殆んどフローリングブロツク敷とす、屋上露臺はクリンカータイル敷

天井仕上　各階各室共殆んど漆喰塗仕上

附帶設備

昇　降　機
電　氣　設　備
電　話　電　鈴
煖　　房
換　　氣
給　水　衛　生
消　火　設　備

商家店構への懐古

佐古慶三

商家としての特長は、いふまでもなく店構(みせ)へにある。店(みせ)は見世に宛てた文字であつて、又その見世とは高世棚を省略せるもの。よろづ賣物を商人が棚の上に列らべおき、往來の人々に見せて賣つたことよりして、座商をば見世といひ棚ともいふことになつた。いま京の地に魚ノ棚、衣ノ棚と呼ぶ町名あるは、この謂の棚の名殘りで魚ノ棚は魚屋町、衣ノ棚は、法衣(ころも)屋がもと群居してゐた町である。故に店の字をもつて〝みせ〟或は〝たな〟と讀むは要するに固有の字訓でなく、後生の義訓に過ぎぬことを知つてゐてほしい。倭名類聚抄に坐賣レ物舍也とあり、伊呂波字類抄に坐賣舍也とある店家(てんや)も亦、かゝる座商をば指す見世棚と解すべきもの。尤も店家の店は廛(てん)（隣とも書くが鄽とせば衍字、和訓は肆とおなじく〝いちくら〟であつて、令義解にいふ陳レ物處也の謂）と訛使と認めて差支なからう。四天王寺なり法隆寺に藏する扇面古寫經に見ゆるところの下繪に就いてみれば、いにしへの見世棚がどんなものであつたかをよく教へて呉れる筈。たゞ注意すべきは、これら古寫經が藤原後期の作品であり、どの程度まで寫實性を持つてゐるかといふ疑念である奈良朝の關市令では

凡ヲ市ニ毎レ肆ニ、立レ標ヲ題二行名一ヲ

とあり、延喜の彈正式も同巧異曲で

凡ヲ市ニ皆毎レ廛ニ、立レテ牓ヲ題レ號ヲ

とあつて、就れも標(しるし)のための牓(ふだ)（いまの看板に相當する）を揭げそれになにの見世と必ず書き出

（〝繪本家賀御伽〟所載）





（"名所絵入"難波鑑"所載）

至つて素朴な建て方ではあつたが、商ふ品々は棚の上に展げ或は軒端に吊すなど、人目を惹くやう努めてゐた様子がよく窺はれる。繪巻物に見掛ける見世棚の畫面でも亦おなじことがいはれ、見世の見せ棚たる所以をば知つて貰へよう。

宇都保物語に

棚居賣馬
たなに女をりて物うる（中略）むま

魚鹽積來
車にいを、しほつみてもてきたり、

預讀棚
あづかりどもよみとりて、たなに

賣
すゑてうる、

さねばならなかつた。令義解に曰く

題（スル）行名（ノ）者、假（ヘバ）如（下）題（シ）標（ニ）牒（ノ）云（中）絹（ノ）肆（ト）布（ノ）肆（ト）（上）之類也

と、かゝる規定あるに拘らず、古寫經の下繪では標牓を出してるものが全然ない。平安の西ノ市は既に衰退し、東ノ市のみ僅かに餘喘を保つてゐた藤原末では、制令の嚴しく行はれなかつたものと看做すか、さもなくば繪そらごとに執心するの愚を恥づべきであるか。とにかく扇面古寫經の下繪で、見世棚の景觀は推察できるとおもふ。即ち丸木の柱に屋根は板葺で、床を張らぬ

（"繪本御伽品鏡"所載）



土佐日記に

棚　小櫃　繪
山崎のたななるこびつのゑ

曲　大路　變
もまがりのおほぢのかたもか

賣　心
はらざりけり、うる人のここ

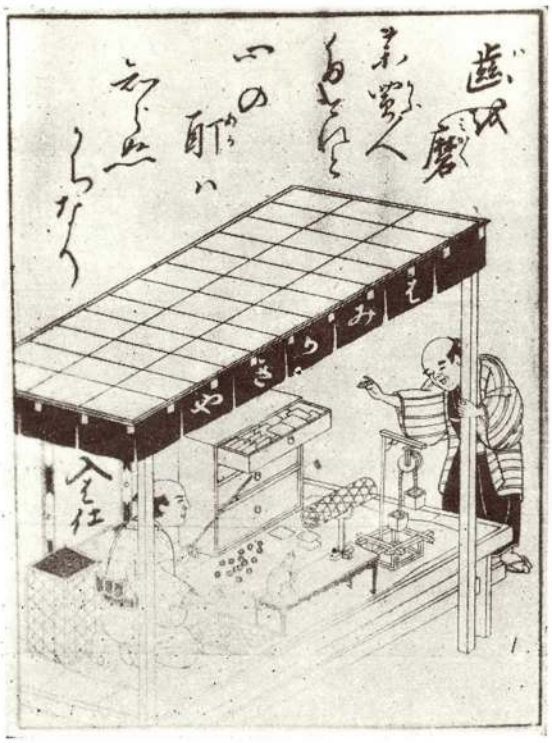
知
ろをぞしらぬとぞいふなる

と、一は平安京の官設市を他は城州の山崎にある地方市をば描く。叙すところ繪畫の如き巨細を盡くさない憾みはあるが、こゝで注意を要するは「小櫃の繪」とあることだ。即ち小櫃を覗さぐ見世に、その繪看板を出せることを示し、繪看板は關市令なり延喜式にいふ標牓の進化せるものである。この土佐日記は紀貫之が承平4年(皇紀1594)任滿

(〝繪本御伽品鏡〟所載)



(〝繪本家賀御伽〟所載)



ちて京に上るときの道中記といはれてゐるから、延喜式(延長5年、皇紀1586の撰定)の成る直後のことであり、繪畫に於ける見世棚の缺くるところをば補ひ、招牌の存すること古きを訓へて異れる筈。しかし店暖簾に至つては、看板のやうに古くはない。別家さすことを暖簾分けといふくらゐ、店の代名詞になつてゐても、かゝる慣はしは德川期に入つてからのこと。暖簾そのものは土佐光長筆の年中行事繪卷(文治年間の作)に既に見えてゐるが、商家の專用物ではなかつたのだ。民家も軒並みに

使つてるし、石山寺緣起では厩にさへ紺無地の暖簾が垂るされてゐる。

發生的考察をもつてせば、市が衰へて市以外の店家である町屋が榮え、見世は獨立性を失ひ民家に結ばれる運びとなつて、商家をば形成するに至つた。言葉を換ゆれば、民家に於ける店の間が字義とほり商ひの見世になり、開放されたら即ち商家になるわけである。されば卸を業とする問屋の店構へが、小賣の見世先と違ひ民家に近い所以も問屋では殊更らに見世を開けて行人に呼びかける必要がないからだ。深い軒先に紺の暖簾を垂



（"繪本御伽品鏡"所載）



（"繪本家賀御伽"所載）

るし、揚げ見世には出し襖を立てゝ、奥床しくおつとり問屋が構へてゐてもこれは店構への除外例であつて本格的な發展ではない。俗に問屋格子と呼ばれてるものも、決して問屋の特有物ではなく、土間をもつ家なら見掛ける格子である。たゞ問屋では荷置場としての土間を、是非もたねばならぬ關係上どの問屋にもあるといふので、そんな名をば貰つたに過ぎない。天水を貯へておく貯水、一つに用水といふ水溜めにしろ、消火のために備へた水彈きの龍吐水にしても、相當間口をもつ家でも慣はしとするところ。かく觀じ來た

れば店構へとしての問屋に、なにが殘るか。藍問屋がその揚げ見世の出し襖に、玉藍の團子絞を染め出せる紙を貼付け、これが看板代りの役目を果たしてゐたにせよ、要は天然藍を檢する廢紙を活かして使つたまでのこと。それに反し小賣店では如何。同業者の競爭愈々甚だしくなるにつれ、單なる賣物の羅列のみでは人が寄付かなくなつたよつて看板に揚げ見世に、種々様々の巧智を凝らして、世の注目をば惹くに努める。時には眉目うるはしき手弱女を、看板の代りになすものさへ出て來た。かゝる傾向は既に桃山の末に兆し德川期となつて躍進を遂げたのである

揚げ縁ともいつた揚げ見世は、晝こ



（錦繪〝浪花名所百景〟之内）

れをおろし夜は揚げてしまふ仕掛けの床机で、當時の建て方としては軒深いところに、すつこんでゐた見世を、街頭に近づける巧みな手段であつた。そこに白粉屋は凸形の箱看板をおく。箱は白の張抜きで、表に屋號と品名を入れる。この凸の恰好こそ、中高で美人の相（東髅子）だとか、白粉のよくのる中高な顔（皇都午睡）だとか、とかく勿體をつけたがるが、むしろ白粉入りの小箱を積み重ねた體裁と見てはどう。積むならば平積よりも山積がよい。事實その凸



（〝噌々八木實の市〟所載）



（〝類聚町詠夜る狂歌夜光玉〟所載）

を括りつけてるは、紙をもつて竹箆といふ來歴に出づ。呉服太物屋では物が物ゆえ、凝つても無駄とあきらめてか、紺木綿に白抜きで直截に

曰く、呉服太物類

曰く、染地木綿類色々

曰く、現銀かけ値なし

と、存分に染め分けた長暖簾で目標にする。仕巧者として尤なるは歯磨屋の賣り子に、人好きのする鼠を使つてゐたことであらう。いま一々に就いて詳述する隙をもたぬから、舊稿「古看板百玩」〆虎屋信託時報連載〆に讓つておく。

形の側面に碁盤縞を出してゐたもの（人倫訓蒙圖彙）もあつたではないか。餅饅頭屋に木馬一頭を出せるは、餅の旨味さを馬で語らせたもので、覆面さすは折角の賣物に馬風情のいぶきが掛つては、どうも恐縮だといふ所存らしくおもふ。

人あまた買に來てみる此面は
もちやのためにお福なりけり
貞　柳

かゝる趣向は大なり小なり、掛看板に立看板に行はれた。表具師の掛看板に達摩の畵像は、法の道に精しい達摩大師とあつて普通する糊の道を利かせたもの帳面屋が青筆たてゝ賓物の帳面

（〝浪花雜誌街遊噂〟所載）



小賣商店の店頭

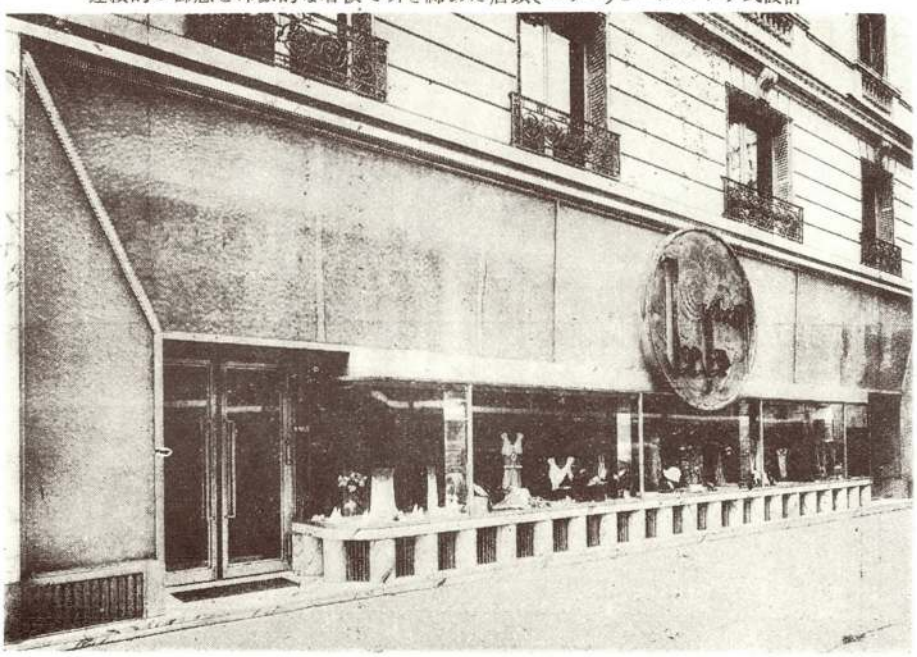
角尾篤彦

商店には其營業科目によつて幾多の種類を數へることが出來るが、こゝには現代發達の絶頂に達し且研究の對照とされて居る百貨店以外の小賣商店の店頭について考へて見度い

從來の我都市の小賣商店は呉服店の様に暖簾を下げて道路と店内との簡單な仕切と爲したものもあるが、大體に於て八百屋や荒物店の様に開放的であつた。それが一旦歐米の建築様式が輸入せられて遽に前面の改造とか飾窓の新設、出入口の考案を口にする様になつて、外國商店の寫眞の燒き直しに浮身をやつして出來上つたものは當時の都市の一部の人々には新らしい形であるとか、ハイカラであるとか云つて評判はされても、肝心の商賣の方は評判程の繁昌を伴はず、却つて改造前の繁榮を偲びつゝ長太息に金融の途をあれこれと苦惱した人々もあつた。これ等は根本的の研究が足らずして、自家の販賣商品と顧客の心理狀態と改造の要旨が相反したのを心附かずして、徒に外國の形式的模倣が禍したものであつた。

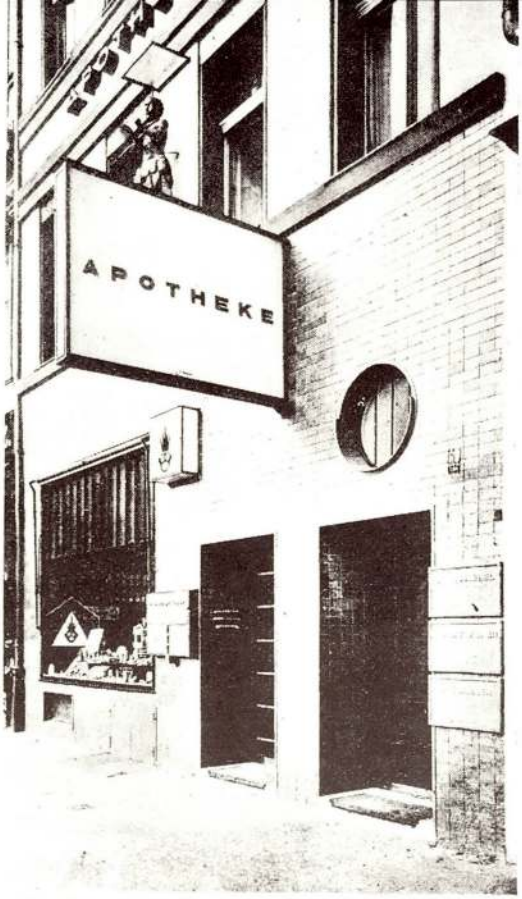
然しこれ等の貴い犧牲によつて吾々の考察は一歩深く進んで自家の直面せる都市の道路の狀態、交通機關の連絡、販賣商品の種類、種々の階級と性質の異る顧客の心理狀態に迄及び、一方新材料の出現と新工作方法の工夫、照明方法の發達と相俟つて異常の進歩を爲し、他方社會の人々の氣分の變化に伴つて近年著しき變化を來した。即ち個人としては商店建築として限られたる面積を如何に有効に使用し、通風、採光、照明等の設備を經濟的

連續的の飾窓を印象的な看板で引き締めた店頭(パリー)ピールバトウ氏設計



に解決するか、顧客を招くべき看板、標識等はじめ飾窓等を如何に有効ならしむるか、更に店頭、店内の陳列臺、戸棚等の配置、店員の配置等を如何にして能率的ならしむるか、顧客を如何にして滿足させ且つ引續いての愛顧を受くる爲めには如何なる施設をなすべきか、を考へさせられると同時に一方に於て自家の屬する都市の美觀の爲には多少の讓歩も忍ばねばならない如斯個人として商店の要求と社會人としての牽制との相反する兩者の要求を妥協し、滿足せしめ得る建築を造ることが出來得れば商店建築として理想に近いものと云ふことが出來る。

「看板」 新聞、雜誌、ポスター、アドバルーン等の廣告は暫らく擱き最も遠距離から視界に入るものは標識看板である。我が國の現在の如く多くの個人商店が大抵1戸を獨占し、1階の庇を唯一の看板の置き場所と考へて居る時は、制限なき形狀、色彩、文字の右書左書等各自各樣の看板を掲げて往々にして都市の美を害ねて無關心の狀態を來し易いが、取扱ひの如何によつては有效にして且つ都市の美を補ひ得ることと信ずる。歐米諸國の樣に大建築の一部の1階を店舖として使用する場合には我が都市の如く庇上の看板の格好の置場所を有せず、1階と2階の窓の中間横長の面と入口上部、前面の壁面の一部を標識の位置として種々の考案を施され或る場合は壁面より突出せしめて其の効果を有效ならしめて居る。（アドルフ・ラアーデイング設計のモーレン藥局の看板とヴアレリオ設計の看板の寫眞を比較せられ度い）建築物と文字の性質上相當取扱ひ方が容易である。我が都市に於ても地代や建築費の經濟上漸次共有の建築を利用する傾向に向ひつゝあるから、此の問題も漸次或る制限の下に置かれる時が來ることゝ思ふ。



壁面から突出した看板（ブレスロー）
アドルフ・ラーデイング氏設計

印象的な看板を持つ店頭（パリー）ヴアレリオ氏設計





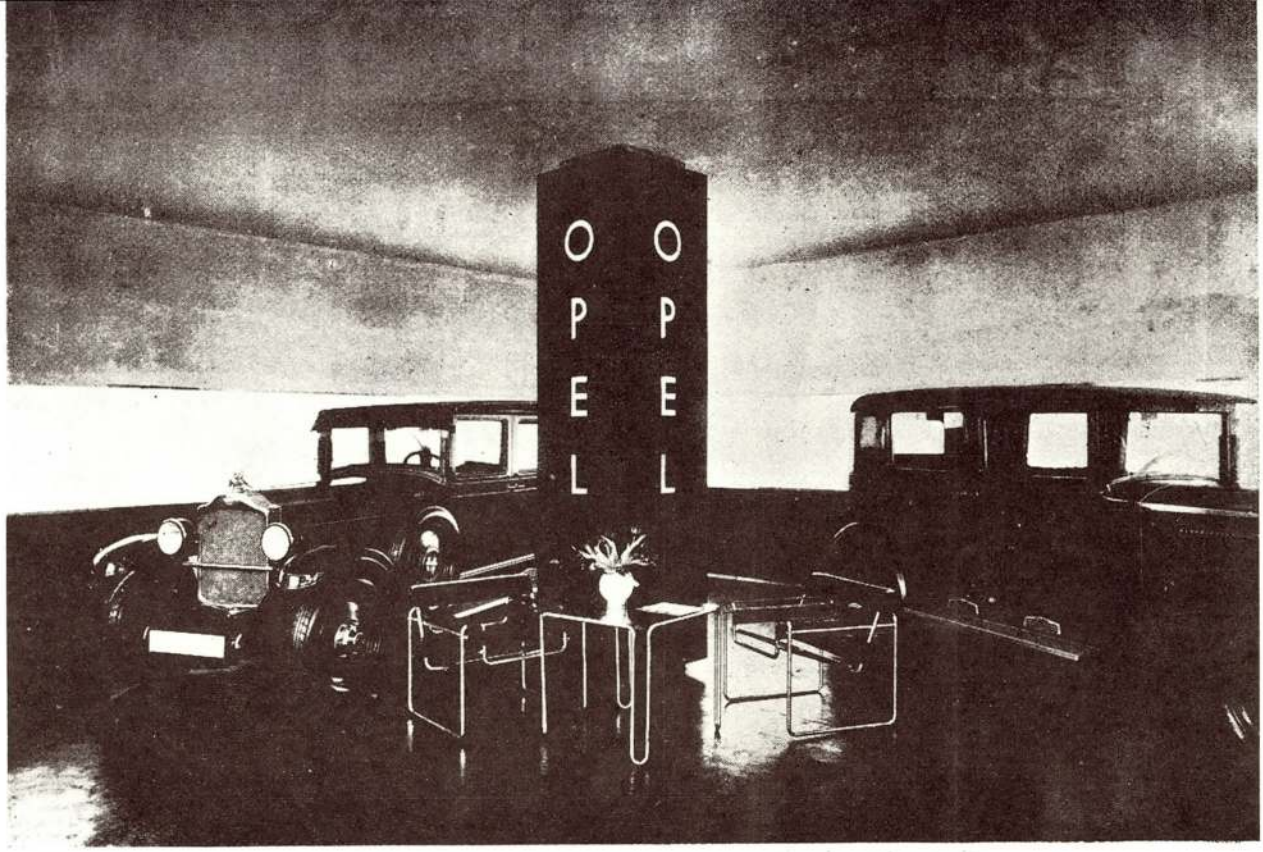
店内及店頭を一つの飾窓として取扱つた例(パリー)ルナヘルブスト氏設計



出版業者の陳列窓　目の高さ、出窓式、窓下の通風に考慮せるもの
フランツ・フイリップ・ジョルダン氏設計

整然とした飾窓とコーナーの兩側に入口を設けた例（ハムブルグ）
カール・シユナイデル氏設計





自動車店の店頭と店内 （ハムブルグ）
カール・シュナイデル氏設計





簡素な形式の飾窓と入口（書と夜）
ピール・バーベ氏設計



店内、出入口、店頭を一つの飾窓として取扱つた例（パリー）
ルナフール氏設計





普通の窓の様に取扱つた・飾窓（パリー）

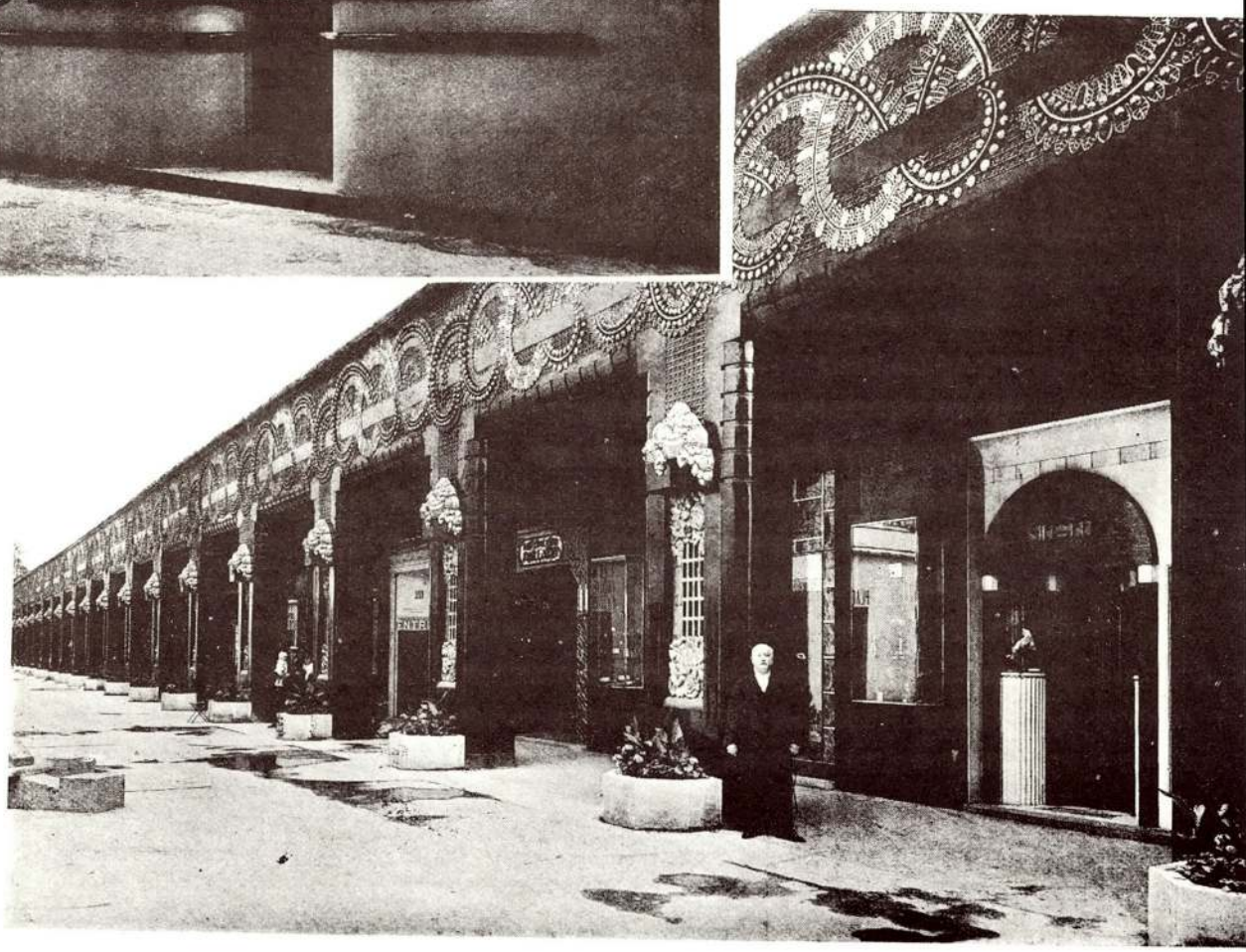


・パサージの一例・

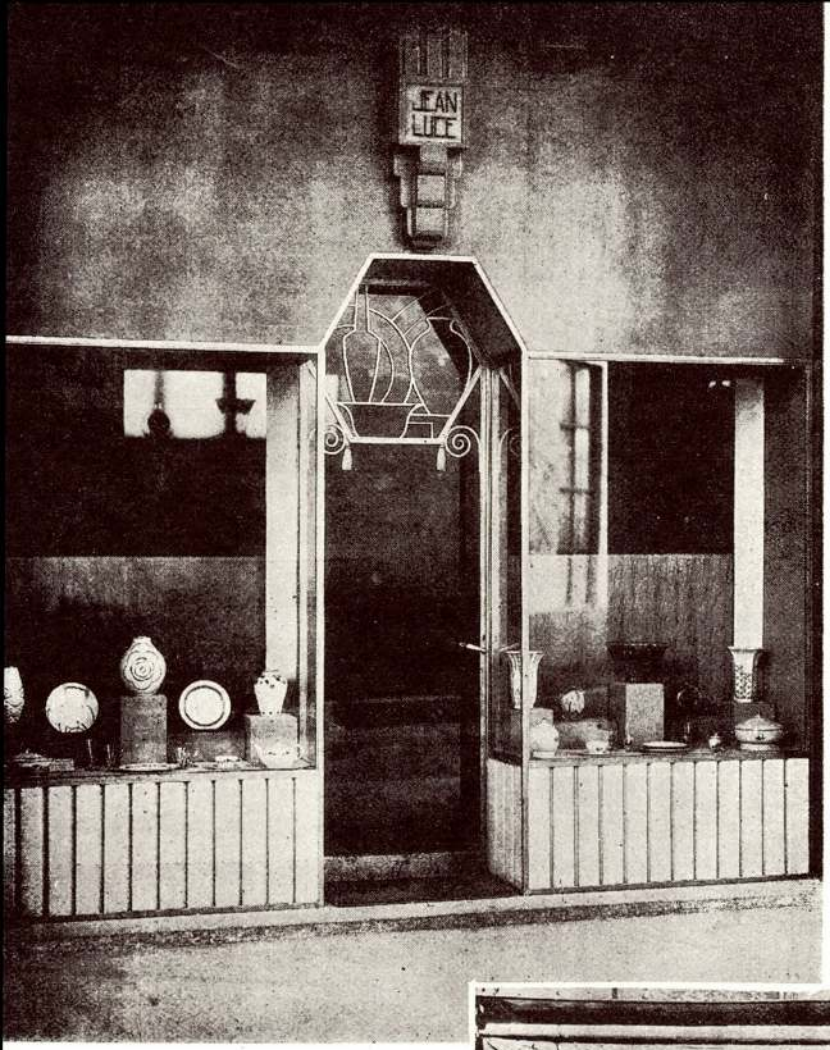




目の高さと細い細工を持つ商品を考へて設計された店頭（パリー）
トラツゼー氏設計

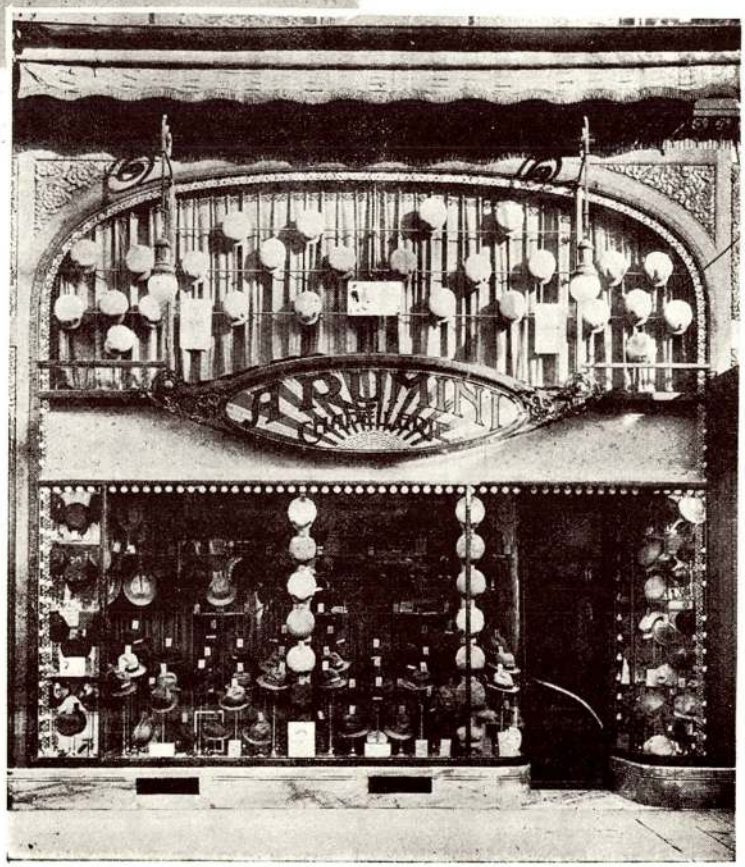


共通の歩廊を有する商店街
1925年パリー工藝博覽會內



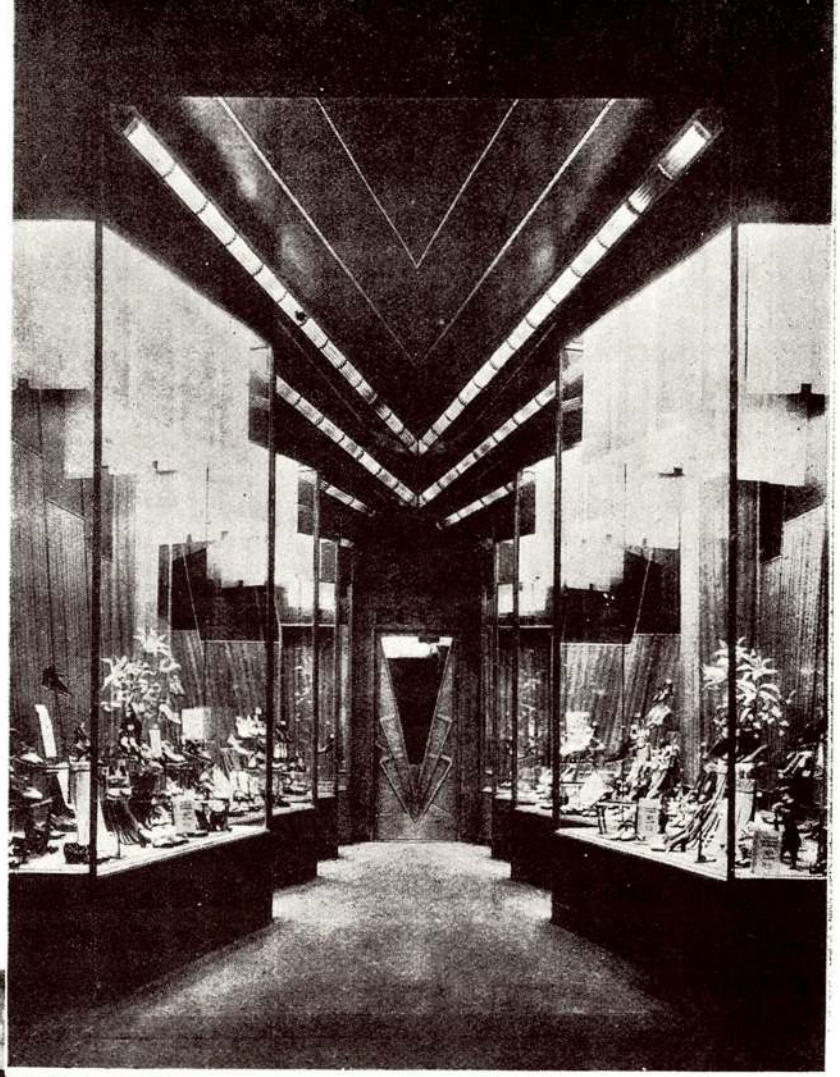
バックの上部を開放して店内の採光を考慮した飾窓

セチーユ氏設計



デザインは餘りよくないが二層式の陳列窓の例

奥深く店内へ誘導する飾窓（ニューヨーク）
ヴアン・アゴピアン氏設計





特殊型の店頭（パリー）



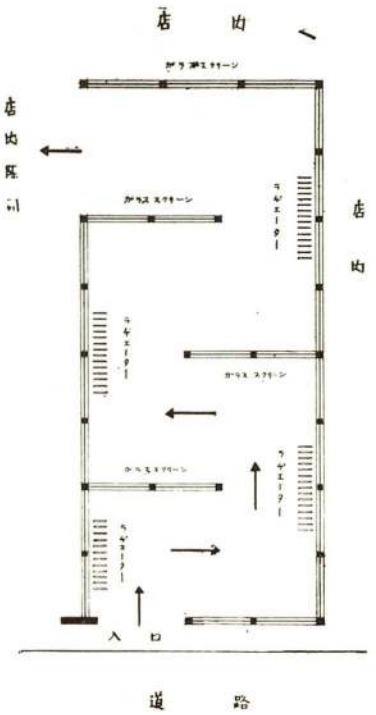
ステインレススチールの持つ明るさ（豊）と



ネオンライトの明るさを標識に用ひた例（夜）（ニューヨーク）ヴアン·アゴピアン氏設計

飾窓　看板の次に我々の視野に入るものは飾窓である。歐米に於ても其の國民性によつてかなりの特徴を見出すことが出來る。英國のサムプルケース式の雜然としたるもの、佛蘭西の瀟洒なる中に一種夢幻的氣分の漂つて居るもの獨乙の整然とした力强さ、米國の簡潔明瞭なるもの等夫々異つた取扱ひ方を見受けるが何れも顧客に先づ呼びかける爲に相當の苦心を拂つて居る。此の設計の如何によつて顧客を店內に誘導し得るか單に通行人の歩みを止むるに過ぎぬかの岐路に立つものである。尙又其の入口に對する位置、バツクの設計如何によつて店內の採光、通風に著しき障害を來すものである。其の他取扱商品の種類に應じて腰高（道路面よりの）間口、高さ、面積を考慮し晝間の太陽光線による効果と、夜間の人工光線による効果とを考究せねばならぬ。從來は飾窓と出入口の建築を主要部分として額緣式に裝飾、構成を施されて、却つて商品の美しさを奪ふ様な結果を來したこともあつたが、硝子及金屬の自由なる使用法によつて近來は極めて單純に何等障害なしに視力を陳列商品に集注せしめ、商品の特徴を顧客の頭に印象づける様に努力せられて居る。（各種挿畫を參照せられ度い）

入口　飾窓の魅力により今一歩を進めて店內へ顧客を導く爲には入口の計畫に重大なる考慮を要する。誘導的飾窓を用ひて不知不識の間に店內に導くことは相當の効果がある（ヴアンアゴピアン設計の寫眞參照）が、店內の配置如何によつては勸商塲式に、或はパサージの如く單に客足を通過せしむるに止まり販賣能率を減少せしむることがある。扉を用ふる時は第一條件として親しみと溫容と氣輕さを以て、氣安く出入の出來る様にする。餘りに嚴に過ぎると出入に躊躇せしむる不利がある。



連鎖店の如き各地各所に同一系統の商品を取扱ふ塲合には店舖の形、飾窓、入口等を同一形式に統一して、其の存在を顧客に訴へ記憶の連鎖によつて其の廣告價値を一層深めることが有利な方法である。高島屋の十錢ストーアやロンドンのライヨン、ニユーヨークのチヤイルドの如き此適例である。

ベルリンのヴエルトハイムの如き多數の顧客の自由出入の爲に冬期開閉を要する防風扉を用ひずして圖に示す方法を以て出入口とし室溫と外氣との調節をはかつて居るが此の硝子のスクリーンの代りに相互凹凸の飾窓を取付け、小賣店に應用することも一つの方法ではないかと思ふ。

記述の足らぬ所が多いが餘は挿圖寫眞の說明で補つて頂き度い。

小商店建築の平面

川喜田煉七郎

吾々の手許の商店建築——ことに小商店建築——の平面の參考として、向ふの參考書を選ぶのは全つたく無謀なことである。最近のアーキテクチユラルレコード誌（7月號）の商店建築號昨年の暮ドイツから出版された LADENBAU 等の各頁を微細にながめて行つても、フアサードの參考以外の何物も見出す事が出來ない。もしこゝにある樣な平面を日本の都會にある小商店建築がとつたとしたら、恐らく3ケ月以內でその商店は沒落してしまふにちがひない。日本の商店建築の平面はかくの如く特殊なのである。それが將來歐米の如く規格化されて、人々の氣持もこうした商店にすつかりなれる樣になつたら別の話であるが、恐らくこゝ當分、それは夢物語りにしかすぎないだらう。

向ふの商店は店頭に先づウキンドが大きく口を開いていて、その間に所謂入口が小さくあいている。しかもそこにはガラスの扉が、必ずしめてある。人々はこの透明な商品の陳列箱（シヤウカーステン）にほとんど習慣的に近づいて、品物を買ふ買はないは別として、平氣で扉を排して中に入つて來る。

ところが日本人にはこれが出來ないのだ。向ふの八百屋と日本の八百屋と比較して見ると面白い。日本の八百屋が純然たる原始的な店頭販賣であるに反して、向ふの八百屋——所謂グロツサリ——にはウキンドが付いてゐる。バスケツトを持つたオカミサン達はガラスの戸を開けて平氣で買物に來る。氣に入るものが無ければそのまゝ平氣で歸つて行く。

それなら、現在店頭と店內が微妙に連絡した商店がたくさんあるかといふとそうでは無い。現在の日本の商店は所謂座賣式から陳列式への過渡期にある。しかもそれは日本の住宅建築が非常に長い間の經驗によつてきはめて洗練された樣式を持つと同樣に、昔の座賣式店舖はあらゆる場所（土地柄）習慣に順應し得るきはめて洗練されたものを持つて居る。しかも時代は進展して商品の內容、商店の外の習慣が相當變化して來た　これに商店もし

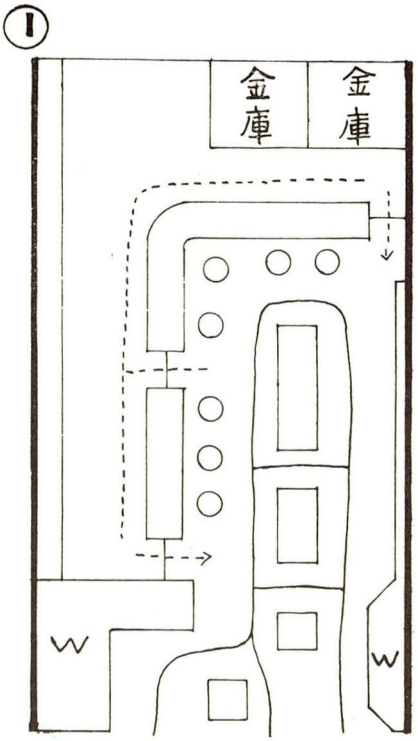
たがはねばならなくなつて、必然と所謂陳列式なるものが要求されて來た。ところがこの様式は各商店にとつて全つたく未知のものである。だからインチキな經營指導者の言葉に諾諾としたがつて歐米の店舗を直寫した陳列式店舗を（今迄の座賣式を急激に抹殺して）作る様になる。これはまことに危險な事であつた。住宅建築が歐米の模寫そのまゝでは次の時代の新しい住宅を創造出來ないと同じ様に、店舗に於ても相當な深い洞察をもつて觀察し解剖し、さらに新しい形式を想像する事によつて次のものを生み出す準備を吾々建築家の努力によつてしなければならない。ことに商店建築は人間の心理的なものが重大に關係して來るから一層一定の形式を決める事が困難である。しかしこの流動して行く形式の內にこそ正しい意味の商店の姿がある事を忘れてはならぬ　將來の社會と將來の住宅（ジードルンク）を紙の上で空想して描くことも建築家の創作であらうが現實に直面して沒落して行く中產階級の一つ一つの生產的工房であるところの小商店建築を如何にすべきかを研究し解決することも又建築家としての創作であり任務でさへある様に思ふ。今のところ實をいふと商店建築の參考書は一つも無いと云つていゝ。だから吾々は各自で又相互に現在あるところの商店を充分調査して、商店建築の新しい平面をそこから創作して行く努力をおしんではならない。

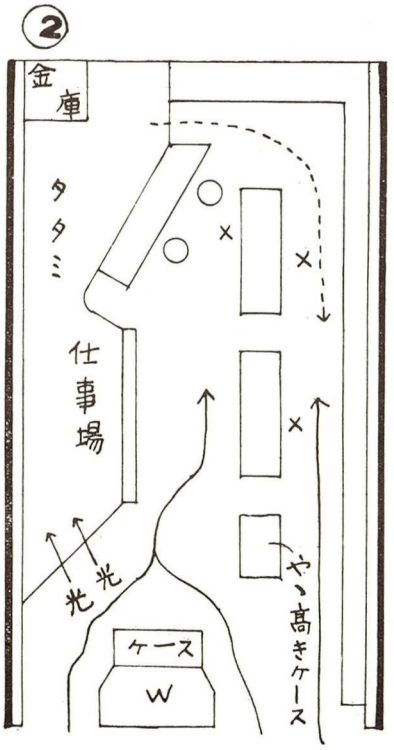
商店の設備の一つ一つを研究してそのデーターをつみ重ねて行つても決してよい商店の平面は生れてこない。だからと云つて新しい設備の研究が大切でないと云ふのではないが、ともかくも建築家として一番先に立つ問題は「平面の創作」である。私はこうした意味でいつでも街々を廻つて歩いては店舗の平面や配備や陳列の隅に迄——商品の一つ一つの性質やその特殊な陳列方迄——觀察する事を忘れないと同時に、それから感する示唆によつて新しい商店のプランを暇をぬすんでは創作する事を忘れないで居る。

次にあげる18の平面は私のノートをそのまゝ公開した貴金屬店の平面の創作集である。簡單に說明をしておかう。

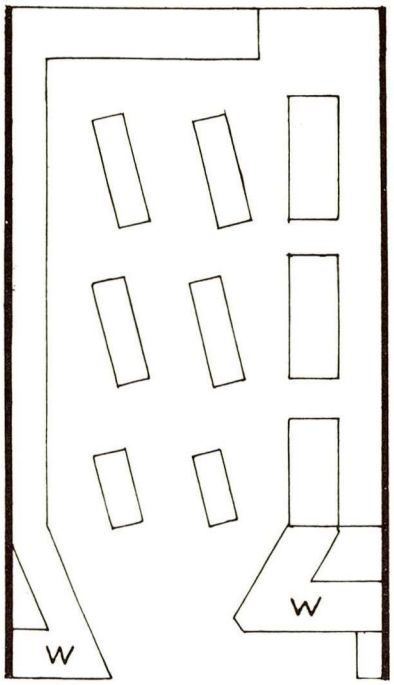
(1)　道を通りながらたゞ見るウキンドとは違つている。向つて左のウキンドがL字型、右のウキンドが縦型である。この種のウキンドは貴金屬店、或は高級な商品を賣る店では相當大切である。客は街路から一歩近づけると云ふ意味で大切である。アメリカで1930年頃から出來始めたのにこれと似たものがあるが我國のとは全く性質が違つてゐる。ケースが店内から店頭に向つて出て來る。ケースの線をたどつて見ると店頭にきて急にカーブしてゐる。實線は客の動線、破線が店員の動線である。客の動線は出來るだけ店内に分布する様に考へる。店員の動線は出來るだけ近道を通つて能率的に。

(2)　中央から僅かに左に寄つてウキンドがある　此れで客を二手に分ける。右の大きな口はブラブラと這入る客の爲めに、左の小さい方は「直し」——修繕の事——や古物の賣買の爲めの客に。實線を參照。仕事場は斜に一面にガラスを張つて仕事場の様子を外から悟らせると同時に採光を完全にする。仕事場の奥にある斜のカウンターは重要な取引台にもなる。普通の客はケースの左側に來て店員と取引する。店員は圖の破線の様に奥から出て來て此の客と取引するのである。手前のケースはやゝ高くなつてゐる。



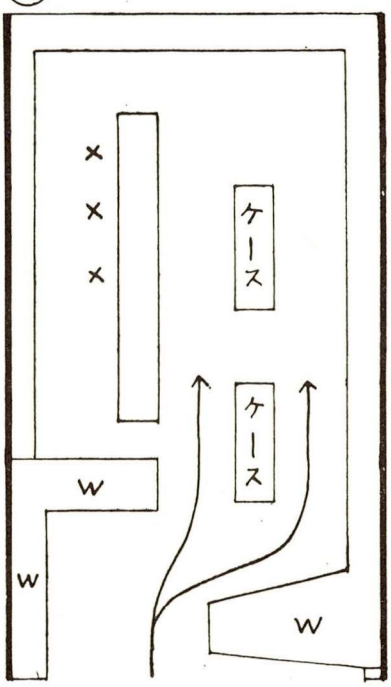


③



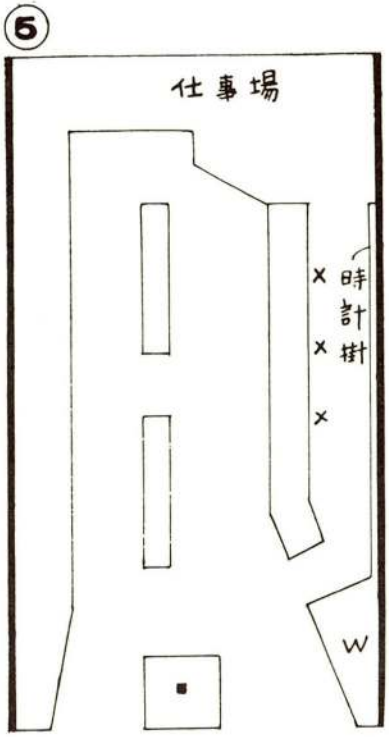
(3)　全部を單位の移動ケース3種に依つて構成する方法である。ウキンドは縦型と横型とを巧みに併用してゐる。中央のわざと斜に曲げたケースは店頭からのぞいた客の眼にちよつとしたイリユージョンを起させる。ケースの上に色々な物を置く事によつて尙ほ此のイリユージョンは面白くなるであらう。ウキンドの內部に引いたウインドのガラスと平行する直線はウキンドの陳列を便利にする爲めウキンドを淺めた棚である

④



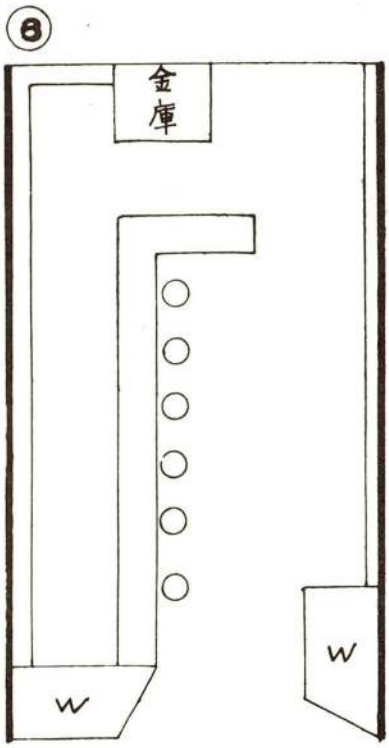
(4)　(1)のウキンドを更に極端にした型である。但しよほど高級品店でないと向かないであらう。客はウキンドの放つ幻惑的な魅力につられて中に這入つて來る。中は寧ろ平凡な構成である。ウキンドと第1番目のケースとの微妙な連絡を考へることだ。

(5)　中央の柱を圍む四角なウキンドと、左側の大きな陳列棚の延長であるウキンドと、時計掛が店頭でふくらんだ形のウキンドと——此の三つのウキンドが微妙に店頭と店内を連ねてゐる。右側のカウンターケースが店頭に來て僅に曲つてゐるのも重大な形の問題である。

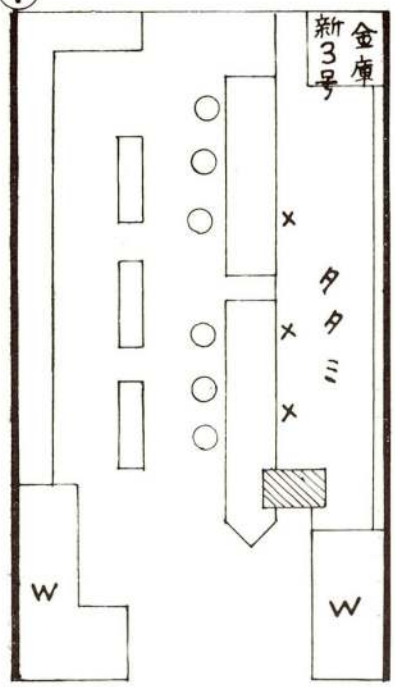


★

(6)　單純な樣ですこぶる意味深長な構成である。縱型、橫型ウキンドの虛實相應する店頭から、業と客を外から見せて一直線に奥まで連續するカウンター兼シーヨーケース。客の後はわざと廣々とあけてあることに注意されたし。突き當りの金庫の店頭に放つ廣告的効果。

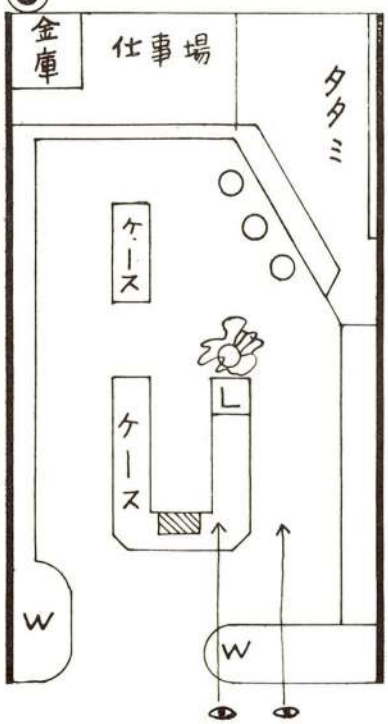


⑦

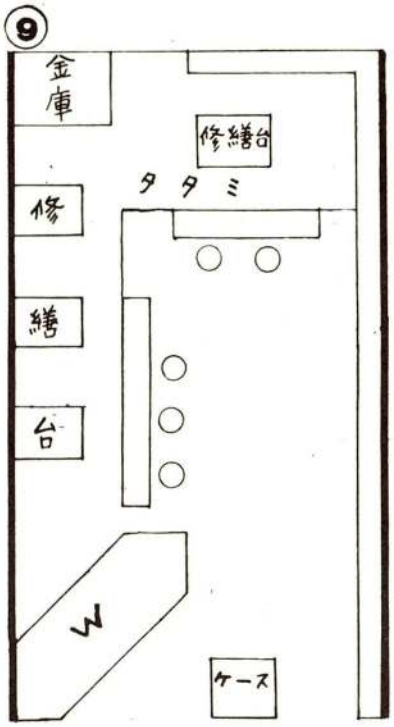


(7) (1) のウキンドと同じ様な形式を持つてゐながらそれとは全く違つた用途を持つたウキンドである。(1) が店頭の客をふところに抱へる役目をする時、此處では懐に入れた客を更に奥へと放たふとする氣持が出てゐる。店頭の最も効果的な廣告はハツチを引いた背の高いケースである。ウキンドで惹きつけられて店頭に來た客の眼は必然此のケースに注がれるか、或ひは此のケースに遠くから惹きつけられて店頭に來るかである。ケースからガラス張りのカウンターが奥へ續く。ケースは店員を隠し客の姿をちらりと店頭から見せる。

⑧



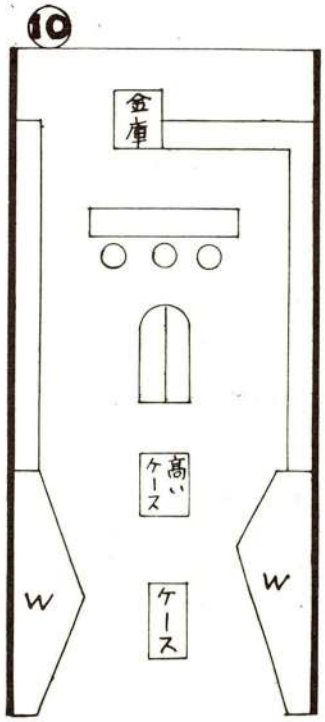
(8) . 透明なウキンドを通じて中のU字型の特殊なケースを見せるやり方。客はウキンドから中のケースに近づいて店員と取引する。もつと重要な客は、中に這入つて、疊の前にある斜のカウンターのところ迄やつて來る。

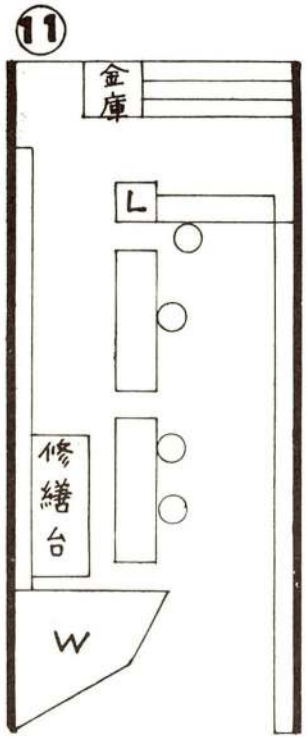


(9)　たつた一つの長い六角形の斜のケース。此が此の店の重大な動かす可からざる構成になつてゐる。ウキンドの前にはケースがある。誘導ケースである。中はちようど(6)の様に廣々とあいてゐる。疊、金庫、修繕台、カウンターの配置に注意。

★

(10)　縦型ウキンドの間を這入つて眞直ぐに店の奥迄這入れるやり方。心齋橋すぢや銀座にも此の種の形式が現れて來た。高級品店なら面白い。ウキンドの面の取り方は客を吸ひ込む様に、吸ひ込んだ客を奥へ放つ様に考へる可きだ。更に左右のウキンドがシンメトリーでないことにも注意。此は各々の面が對稱する向ふ側の面にはぢかれて中へ這入る感じがするので面白い。高いケースの向ふ側には屋根の様な勾配のついたケースを置き、その向ふ側にカウンターを置く。

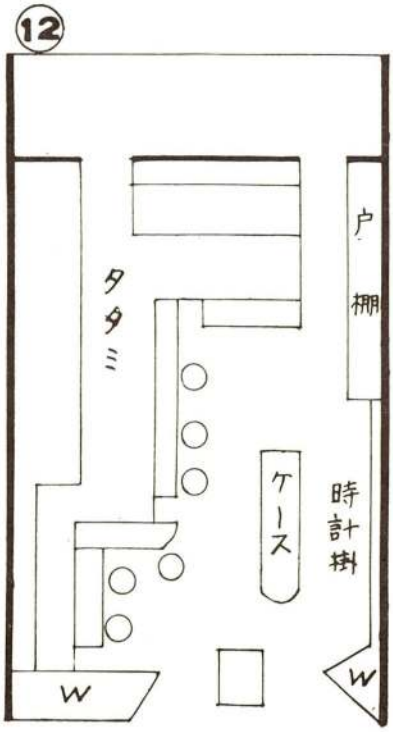




（11） 今迄のやり方と違つて相當在來のやり方を取入れた式である。右側の陳列台を延ばしてウキンドにしてゐること。ウキンドの後に仕事場があつて、ウキンドを透してそれが見える事など。

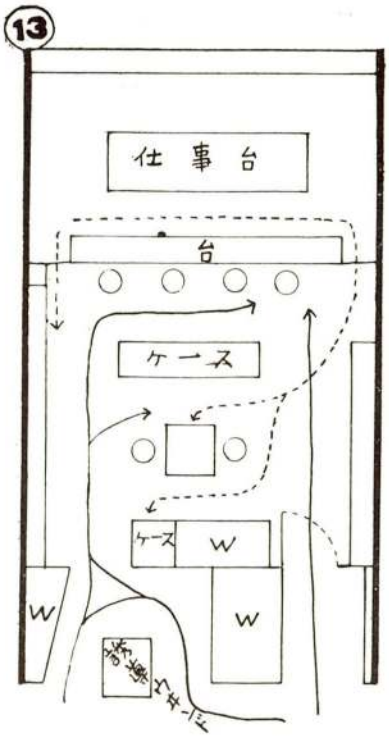
☆

★



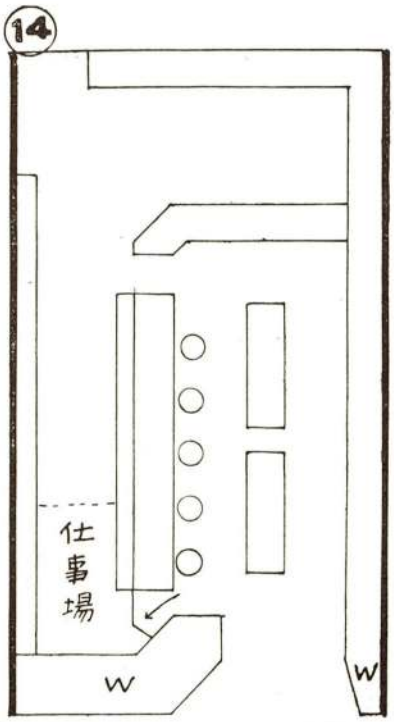
（12） 疊の部分をヂクザクに作つて客のカウンターに面する線を出來るだけ長くすると同時に、全體の構成をにぎやかにした所に注意されたい。時計掛、3角型のウキンド、誘導ケース等にも注意。

（13）　此の平面は複雑な貴金屬店の機能をよく物語つてゐると言へる。例の通り實線は客の動線、破線は店員の動線である。中央のウヰンドの右側の小さな入口は古物賣買の爲めの人達の入口である。入口のウヰンドの側のケース。それから向ふのテーブルを兼ねた4角なショーケース。その又向ふの横に長いケース。最後の疊の上のカウンター。……此れだけ接客の場所が出來てゐる。どこにも陳列が出來、客との應對も出來る。殊に古物商を兼ねた貴金屬店の平面として、推奨したいものである。正面には、カウンターを通して、職人が盛んに仕事をしてゐるのを、見せるのである。

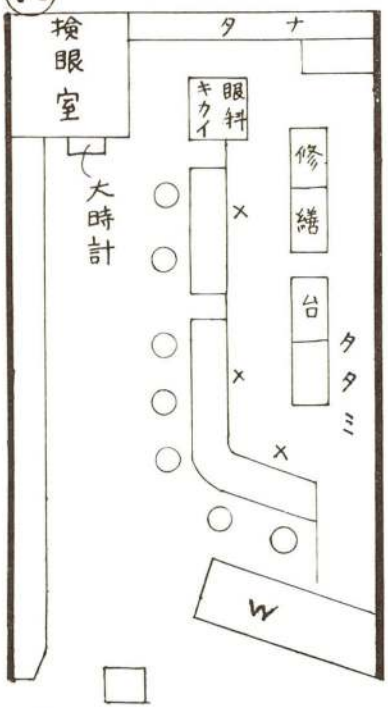


★

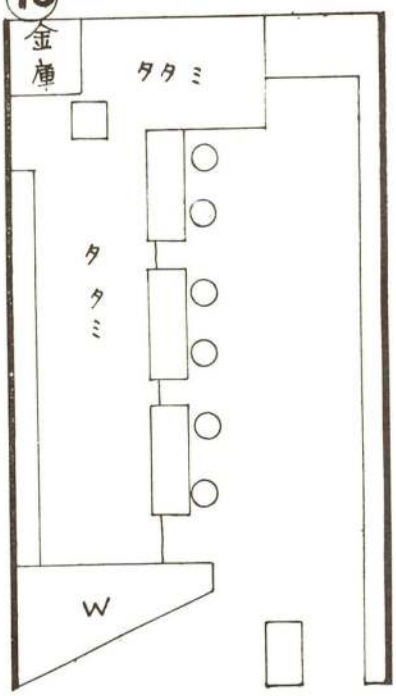
（14）　此のウヰンドを(9)と(11)のウヰンドと比較して見るとよい。此のウヰンドの形によつて奥に出來た空間を仕事場に利用してゐる。ウヰンドを透して仕事場を少しは見せた方がよい。



(15)



(16)



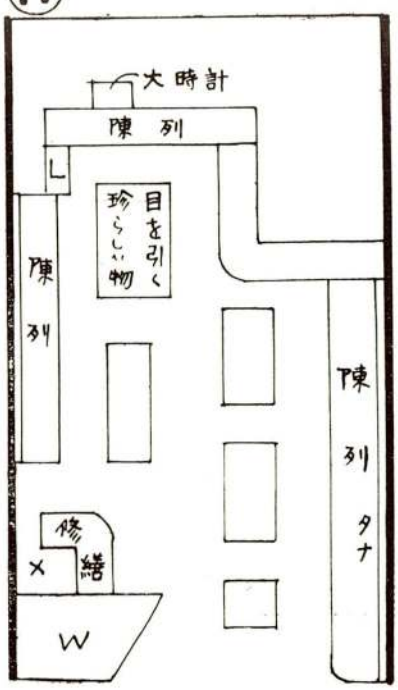
(15) 眼鏡店を兼ねた貴金属店の平面である。僅に斜になつたウヰンド。それと併行にカーブしてゐるカウンター兼ショーケース。此が此の平面の大きな特徴である。検眼室、大時計、眼科器械、修繕台、等の構成に、注意されたい。

☆

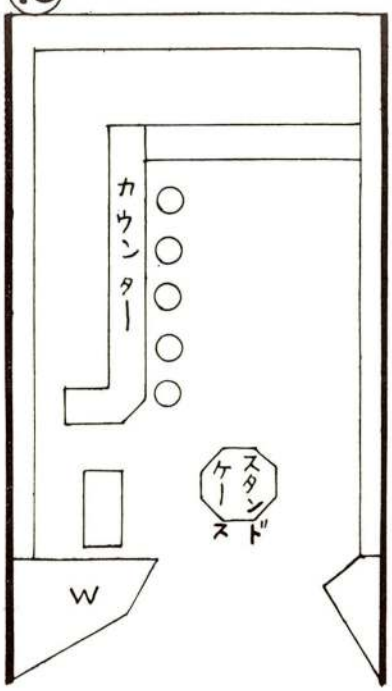
(16) 殆んど(6)(9)(15)の延長である説明は略す。

(17) (18) 説明略。

(17)



(18)



商店建築の家具に就て

小川安一郎

近來商店の近代的建築が著しく增加したのは一部の商人が數年來の爲替景氣やインフレ景氣、滿洲景氣、軍需景氣などに因つて新築或は改築の餘裕を生じたと云ふ理由計りではあるまい、競爭の劇しくなるに伴ひ、又顧客である所の現代人の美に對する感覺が洗練され銳くなつて來るに從つて、在來の上り框に腰をかけて商談したり買手が何か手頃なものが無いか土間に立つてズツト手前から奥の方の商品を眺め廻さなければならなかつた樣な不便な舊式商店が時代の要求から餘りに距り過ぎて居たに因るであらう。小賣商の生存を脅かして居る百貨店の建築が近來益々改善美化されて或は冷煖房の裝置を施し或は集會場や食堂や子供の運動場を持つことにより一種の公園の樣に公共的、享樂的性質を增加し、從來の百貨店の强みであつた「一店で希望の品が容易に調ふ便宜」の外に更に一層の强みを增しつゝあるに對して、之は又在來の古風な小賣商店が如何に大衆に對して魅力の乏しいとか、小賣商が百貨店よりも商品の値段が幾分安いとしたところで是程のサービスの差があつては大衆を値段だけで誘引することは容易ではあるまい。

扨兎に角近來の新しい商店建築が其の建築の外觀と內部設備の改新によつて社會に對し新たな呼びかけをして居ることは確かであるが然らば建築そのもの計りで無く內部の陳列ケース其他の家具に就ても果して同樣の考慮が拂はれて居るかどうかを考へて見ると之は少なからず疑問と云はねばなるまい、例へば通行の顧客の注意を惹いて足を店內に呼び寄せるものは建築よりも店內の陳列ケースと其中に飾られた商品である筈である、陳列商品を良く見せるものは建築よりも店內の陳列ケースである、陳列ケースが何等のアトラクションを持たぬ單なるガラスの函であつては折角の新しい高價な商店建築も其効果を充分に發揮し得ないのみか反つて之を減殺することになるのである。

惟ふに陳列ケースは商店用家具中の最も重要なものであつて、食堂に於ける食器に相當し安いものを高く見せる効果を有する。又住宅建築に於ける家具裝飾工事以上の特殊の目的を有するものであるから建築の樣式に相應しいものが必要である計りでなく、陳列する商品の種類によりデザインにも用材にも色彩にも配列にも充分の考慮が必要であるとは云ふ迄も無い。自分の最近關係した或る紡績會社のサービスステーションの陳列ケースはSA1或はステンレススチールを以てせられたのであるが、ジユラルミンだとかホワイトブロンズだとか、斯る金屬を以てした陳列ケースが婦人達の新しいデリケートな或は時に氣まぐれな感覺に訴へる流行品や新製品を陳列するには洵に成功したものと思はれた。又

或る百貨店の洋品部でゼブラウツドで緣取りをしたケースを用ひたのであるが、顧客は商品が見えない遠方にあつても先づケースの觸感に引き寄せられる様に思へた。或る骨董商ではブラツクウオールナツトを用ひたが其の落着いた色合ひと內部の商品とはシツクリと調和して、何れの商品も頗る高價なものに見えたのである。

近來住宅向きの家具には外國產又は內國產の變つた木材を用ひることが多くなつたが、右の様な特殊の効果を期待しなければならぬ陳列ケースには、使用すべき木材或は金屬の選擇に一層の注意を拂はなければならぬ譯であつて、塗仕上の色合に就ても同樣のことが云へるのである。

それからケースの配列であるが之等は商店が何れも場所を集約的に使用して、成可く多數の商品を陳列し度い爲に無理をしてある場合を屢々見るのであるが、顧客の氣持のよい縱覽を主なる目的とするならば通路が狹過ぎない様に注意することと、通行中の顧客が其の店の取扱商品を容易に知り得る様にして內部へ誘引し易くすることが特に肝要であらう。顧客と商談したり或は數人の店員を集合したりする必要から、陳列室の一隅に應接用家具を置く場合は椅子等の爲に著しく通行を妨げられ、店員の能率を低下する恐れがあるので小商店は成るべく折疊式の椅子を用ひることを御薦めする。然し此場合に注意しなければならぬとは從來折疊椅子の様に大變掛け心地が惡るかつたり直ぐ破損したり全くの安物であつて店全體の氣品を損ずるものであつたりしてはならぬことで、假令來客用でなくても顧客に見られる恐れのある家具は相當高級なものを用ひなければならない。幸に近來の折疊椅子は小椅子でも肘掛椅子でも頗る高級な堅牢なものが出來て居るのである。

要するに兎角舊套を脫し兼ねた商店が、先づ建築に於て新たな様式に移りつゝあるに對して、陳列ケースなどの店內家具に無頓着であつては「頭隱して尻隱さず」になるのである。商品の種類の異常なる增加、品質の向上、顧客の新たな趣味、感覺の急テンポの變化に對して商店は建築のみならず其の店內の裝飾特に家具に關して注意を怠つてはならぬのである。

神戸市公會堂建築設計懸賞競技規程中誤謬訂正

今回神戸市役所臨時公會堂建設係ヨリ本協會へ送附ノ規程中誤謬訂正方御申越アリ即下記ノ通（規程本文ハ「建築と社會」本年8月號130頁揭載）

一、第四章第十九項(一)ノ(イ)「本規程第三章第五項、第九項又ハ第十二項ノ各條項ニ違反シタル者」トアルヲ「本規程第三章第六項第十項又ハ第十三項ノ各條項ニ違反シタル者」ト改ム

一、第四章第二十三項(一行目)「當選者又ハ選外佳作者トシテ決定シタル後本規程第三章第五項ニ該當スルコトヲ」トアルヲ「當選者又ハ選外佳作者トシテ決定シタル後本規程第三章第六項ニ該當スルコトヲ」ト改ム

地　下　商　店　街

伊　藤　和　夫

市內中樞部に於ける地價の昂騰につれて、土地の有効な利用方法として高層建築物の發達する事は既に過去の事實の證明する所で、極端な例としては紐育市の如く40階50階の建物の出現さへ見たものである。然し乍ら我が國に於ける如く、地上100尺を限度として建物高さの制限を受くる場合には、自然の勢ひとして地下に進出する事が考へられなければならぬ。既に現在に於ても、大ビルヂング、大百貨店等に於ては地下2階3階を設ける事は常識とさへ考へられるやうになり、地下4階5階の可能性さへ論ぜられる有様である。從つて之等の地下建築物內に設けられる商店は廣い意味での地下商店街となる譯であるが此處で云ふ地下商店街とは之等建築物の地下室利用のものは除外して、もう少し狹い意味で考へて見たいと思ふ。

即ち、或る一點から或る一點への交通を主として其の交通の序手に買物をする、目的地へ達する爲めに步行しながら商店を見て行けると云ふのが商店街であり、例へば大阪の心齋橋筋の如き、又は東京の銀座通りの如きものが良い例であると思ふ。更に伊太利ミラノ市のビツトリヤ・エマヌエル街の如き、一方の軒から軒へ硝子張りの屋根を架し通行人は雨に濡れる事なく心行くまで兩側商店を見て行ける所謂アーケードの如きは最も理想的の商店街と云ひ得るであらう。

近時都市の急激な交通機關、特に自動車の激增につれて各國都市とも年々街路巾の擴張を行ひ、大都市中央部に於ては土地面積の約3割內外は街路に專有される有様である。之等街路の表面は勿論有効に利用されて居るのであるが、其の地下は殆んど利用されて居らない。勿論街路下の一部は各種埋設物によりて多少利用はされるものゝ、之とても現在の如き亂粗な埋設の仕方でなく將來共同管理溝の如きものに整理收容されるならば尙隨分な空地が無駄に費やされて居るものと云へやう。之等街路乃至廣場の地下を利用して步行用の地下街路を設け其の兩側に商店を設けると云ふ事は誰しも一應考へ及ぶ所で、此處に初めて眞當の意味での地下商店街が出現するのである。以上は土地の經濟的利用と云ふ點から考へての推論であるが、實際問題としては地下の構造物は地上構造物に比して工費が非常に高く尙換氣、照明等の設備及び其の經費を考へるならば單に土地經濟の點から出發しての地下商店街は果して實現性があるかどうか疑問である。

次に都市交通の點から地下商店街の可能性を考へて見たい。紐育、市俄古等の都市中心部に於ては現在街路幅員割合に狹く高層建築櫛庇して將來街路幅員を擴張するには非常な

犧牲を拂はなければならず、一方自動車交通は益々增加して現在街路の全幅員を之に當てても尙足らぬ狀態である。從つて亞米利加の都市計畫技術者の間には二重街路——地下或ひは高架——建設の問題が可成り實際的の問題として論議されつゝある有樣である。從つてかかる都市に於ては都市中心部に相當廣範圍の地下街路並びに商店街が恐らく近き將來に實現されるであらうと云ふ事は充分考へ得らるる所である。併し現在の我が國に於ては路面交通も決してそれ程に行詰つたものでなく、且つ街路の擴張も技術的にも經濟的にも不可能の狀態には達して居らないのであるから廣範圍の地下商店街の出現は尙隨分遠い將來の事でなからうか。唯特殊の場所、例へば大都市の主要停車場の前面等に於ては各種交通機關の整理の爲めに可成り廣大な驛前廣場が必要とせられ、從つて歩行者が此の廣場を面で橫斷すると云ふ事は相當困難な事であり且つ危險をさへ伴ふ狀態にある。かゝる場合路には此の廣場を橫切つて地下橫斷街路が當然設けられる可きもので、かゝる特殊の場所に於ては地下商店街の出現も充分考へ得られる處である。

尙今一つ地下商店街の出現をうながすものに地下鐵道がある。現在各國の主要都市には殆んど地下鐵道が建設されつゝあるが、之等地下停車場の中階を利用して地下商店街とする傾向がある。倫敦地下鐵のバンク驛やピカデリーサーカス驛の如き、或は東京地下鐵の上野驛の如きがそれである。此の場合には旣に地下停車場として掘鑿された上に埋戻しの代りに中階が設けられるのであるから構築費も比較的廉く實現され得るのである。

以上述べた通り紐育、市俄古等の都市に於ては可成り廣範圍に亘つての地下商店街が考へられ、我が國に於ても大停車場前廣場の地下乃至地下鐵停車場の中階等には夫々小範圍の地下商店街の可能性が考慮されるのであるが、然らば地下商店街としては如何なる設備が必要であるか考へて見たい。

地下商店街として第一に考へられる點は採光乃至照明の問題である。廣場又は街路の下に設けられるものであるから普通建築物の地下室のやうにドライエリヤを持つ事は殆んど不可能である。廣場又は街路面に安全地帶又は綠樹帶のある場合には此處から多少のトツプライトを採る事は考へられるが、之とても充分な採光面積は得られず殆んど人工的な照明に依らなければならない。現在建物の地下室は建築物法によつて其の採光面積を規定されて居るものゝ之も殆んど申譯的のもので、實際上有効に働いてゐる採光面積が果してどれ丈あるかは頗る疑問で事實には人工照明によつてのみ補はれて居ると云つても過言ではないと思ふ。從つて地下商店街の場合に於ても形式的な採光面積を取るよりも寧ろ充分な照明方法によつて之に代へられる樣にしたいものである。地下街は構造上天井高さが充分取れない關係から照明の方法も出來るならば間接照明が適當であり、尙普通のタングステン電球によるよりもムーア管の如き放電式光源によるものが最も良いのでは無いかと思はれる。かつて倫敦地下鐵の一停車場中階の照明にムーア管を用ひた事があるが、電氣技術の不完全の爲めか其の後廢止された由である。現在ムーア管は製作の困難の爲めか照明用

として使用されて居らないが、タングステン電球のやうに電力の過半が熱として發散さるゝ事もなく、又高壓ではあるが使用電力は非常に少なくて濟むので地下街の照明としては最適のものでなからうかと思はれる。

次に換氣の問題であるが、之は絕對に機械的設備を必要とする。即ち出來るならば機械的設備によつて新鮮な空氣を吹き込み、更に機械的設備によつて排出する、或ひは少なくもそのいづれか一方の設備を設ける必要がある。特に地下商店街に飲食店が設けらるゝ場合には、之から發する臭氣は一般排氣とは別に各個別に集められて其の臭氣が他店に流れないやうに考へられなければならぬ。

防水防濕排水に就いても充分な考慮が拂はれなければならぬが、特に防濕に關しては壁を二重壁として一方には構築よりの漏水を處理し同時に濕度と構築面の濕度差によつて壁面に露を結ぶのを防ぐ必要がある。同樣の意味で天井も出來る事ならば二重天井としたいものである。尙最近の風水害によつて路面の浸水せる事しばしばであるが、之に對しては出入口に於て特殊のシヤツターなり又角落しの如き設備を設けて萬一に備へる必要がある

正　誤　表　（"最近の電氣鎔接"，淺野新一；第18輯第8號）

頁	行	誤	正
59	上から12	金學的研究）	金學的研究
〃	上から24	Pilpert	Hilpert
61	上から23	Seelendraft	Seelendraht
64	上から20	第7b圖半自動鎔接機	第7a圖自動電弧鎔接機スパン 9m
〃	上から21	第7a圖自動電弧鎔接機スパン 9m	第7b圖半自動鎔接機
65	下から10	voltaeg	voltage
66	下から13	人口 100,00以上	人口 100,000以上
〃	下から 8	Alameda, Colif. P.Berkeley,	Alamede, Calif. P. Berkeley,
67	上から 9	Compon	Compton
〃	上から20	Sebastpol	Sebastopol
〃	下から 1	Grand Junctim	Grand Junction
68	上から12	Cleveland, Chio	Cleveland, Ohio.
〃	上から13	Dever,	Denver,
〃	上から16	ChiCago,	Chicago,
69	下から 2	L boratories,	Laboratories,
70	上から19～20	administiatiou	administration
〃	上から21	Ouadrangel,	Ouadrangle,
〃	上から24	Saral	Sarah
〃	上から25～27	(New Haven Hospital, Yale Medical Center	(New Haven Hospital, Yale Medical Center)
70	上から 9	Wyatt Clinic anl	Wyatt Clinic and
〃	〃	Leland W K. ing	Leland W. King
〃	下から 5	1933	1933
1	上から 1	第12圖電弧鎔接せる14階の事務所建築	第17圖ボストン市立病院
〃	下から 7	本驛のプラツトフオーム	本驛のプラツトフオーム
〃	下から 4	之にこそ	之こそ
73	下から 7	第17圖ボストン市立病院	第12圖電弧鎔接せる14階の事務所建築

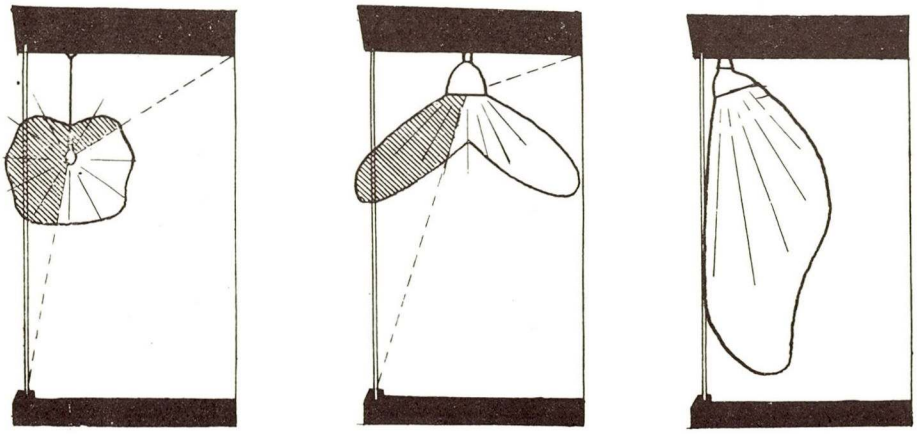
商　店　照　明　の　話

内　田　幸　夫

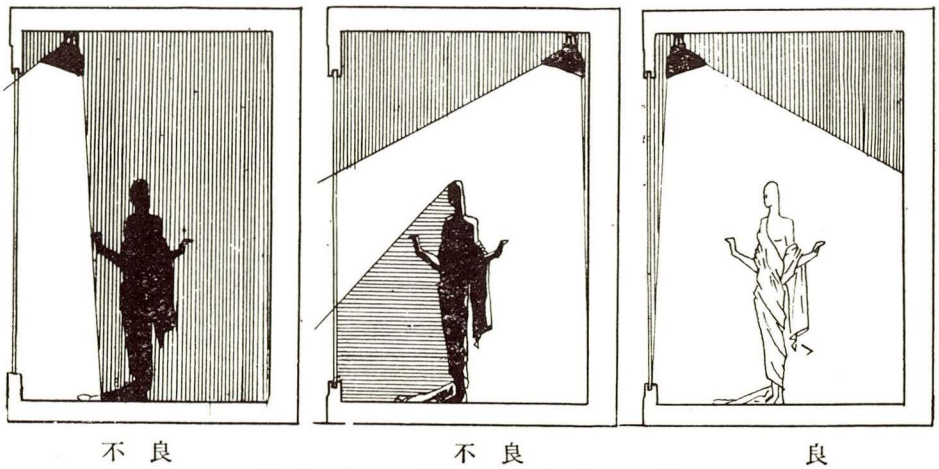
商店照明は、飾窓、店内、及び店頭即ち外廓照明の三つに分けられる。これ等個々についての一二の問題なり、最新の傾向等についてのみ述べる。

1. 飾窓の問題

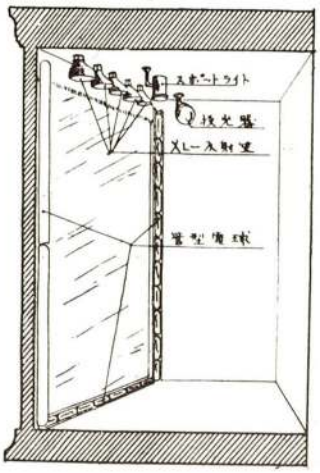
近代的な飾窓では、マネキン人形等を使つて、立體的な裝飾を行ふ場合が多いやうである。斯様な飾窓では光と蔭の效果について考慮すべき點が多く、照明方法にしても、普通



第1圖　飾窓照明の比較（黒い部分は光の浪費となる部分）



第2圖　Xレー反射笠による飾窓照明の比較



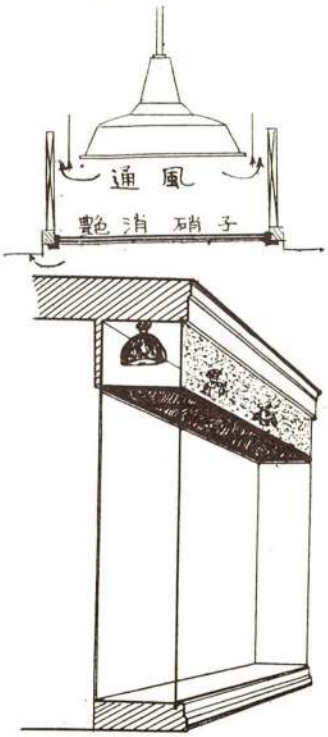
第3圖　舞臺照明方式による飾窓照明

の店で見られる様な陳列品の上部前方からのみ光をとる即ちXレー反射笠のみに依る照明（第1圖及第2圖）では充分な照明效果が望まれない。從つて、Xレー反射笠のほかにフツトライト、スポツトライト、又は飾窓投光器等を併用する、舞臺裝置に於ける構成的形式を基準とする照明方法が認められて來た（第3圖）。

若し細工の寫實的に細かくメーキアツプの派手なマネキン人形の場合は、背景を明るくして飾窓內に陰影を作らぬ程に均等に照度を高くし、くすんだ肌色と形式化された肉付けとを持つ人形の場合は、背景を暗く沈ませ少數のスポツトライトによるのが相應しく、更にエロチツクな味を濃厚に出させるには、いぶしのかゝつた金屬色の丸つこい肉體に度ぎついフツトライトを前方から投射する方法が選ばれる。

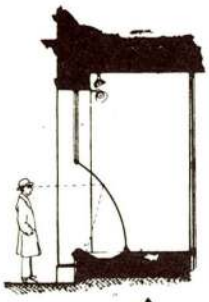
飾窓の天井の全面又は前半面を擴散性の半透明硝子で張り、その裏に光源を隱して照明する、スカイライトによるものが、近代の飾窓に見られる様になつたが、この方法のものは顧客に眩輝を與へる處が少なく、大きい飾窓、又は三方から見る飾窓には好ましいものである（第4圖 。

第4圖　スカイライトによる飾窓照明

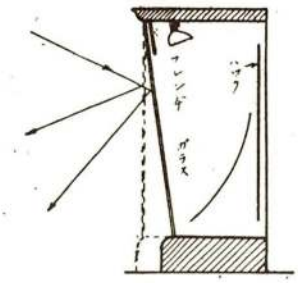


又、飾窓では比較的に容量の大きな電球が用ひられ、俗に燒ける、即ち褪色による陳列商品の損傷が常に問題となる。これは主として電球から出る紫外線の作用によるもので、溫度が高い程著しい。これを防ぐには、理論上飾窓の天井を透明硝子なり、半透明硝子なりで拵らへその上から照明すればよいと思はれる。普通の硝子は紫外線を吸收することが多いからである」この意味でスカイライト照明では、褪色作用が比較的少なくなるものと考へられ、飾窓には推奨してよい照明方法であらう。

併しこの方法では水平面の照度が强い割に、垂直面の照度が弱くなるから、飾窓が餘り大きくない場合は、硝子張りの部分をなるべく多くとること、又一方又は二方から見る飾窓では、前方に少數のXレー反射笠又は飾窓用投光器を併用して、スカイライトを補つてやれば、良



A



B

第5圖　飾窓の硝子面から映像を除去する一例

い照明が得られる。

この方法では硝子を透過する時、光の一部が吸收されるから、同じ明るさに對して、X レー反射笠を使ふ場合よりも3割か5割位大きい電球を用ひる必要がある。

スカイライト照明によると光線が擴散されて柔いものとなるから、陳列品の種類によつては、例へば人形店、寶石店等のやうに光線陰影の必要な飾窓には、總體に活氣が失はれ、不向であらうと思はれる。

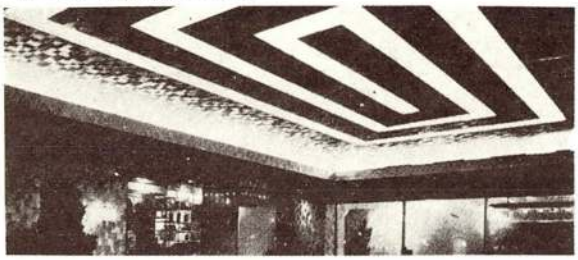
晝間、飾窓の硝子に外景が映つて、內部の商品が見えにくいことは、日常經驗するところで、これが對策として、簡單で效果のある方法がまだ示されて居ない。一般にはテント、カーテン等で强い日光を遮ぎる方法をとつて居るが勿論效果は望めない。この際飾窓內に電燈を點ければ、その影響を少くすることが出來るが、少くも平方米當り 5000 ルーメンを必要とし、經濟上許されぬ場合が多い。第5圖 A. B は、これの防止策として紹介されたものゝ一例で、飾窓の硝子を彎曲するか、平面の儘傾斜させて、映像の返射光線を下方に逃す樣、考慮されて居る。併し彎曲度なり、傾斜角度なりに相當の研究を要し、構造方法等についても建築方面の人々の一考を煩はしたい問題である。

2. 店內照明の話

店內の照明は普通の事務所等の照明と別に變つたところはなく、眩輝を與へない照明を施すことは勿論、品物に影が出來ぬ樣、店內を均一に明るくすることが肝要である。これに關聯して電燈器具の選擇、取付位置等が問題となるが場合に應じて適當に研究すべきである。

照明器具は一般に、晝間は邪魔物扱ひにされるものであるが、殊

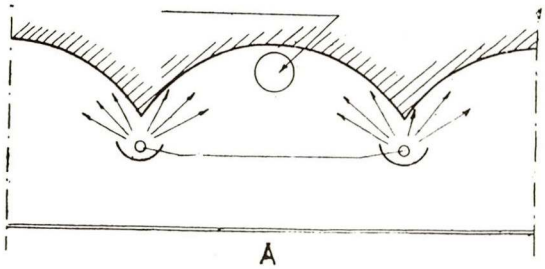
第6圖　間接照明の實例

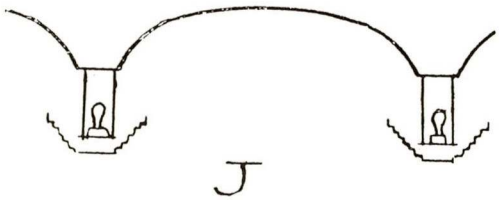


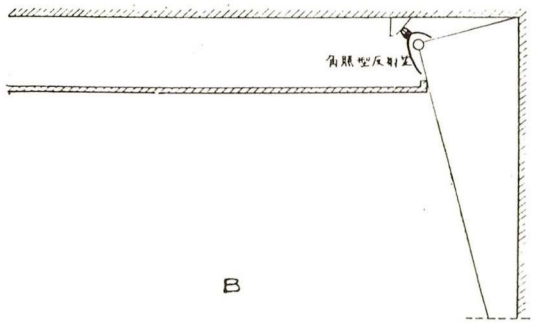
第7圖　建築化照明の實例

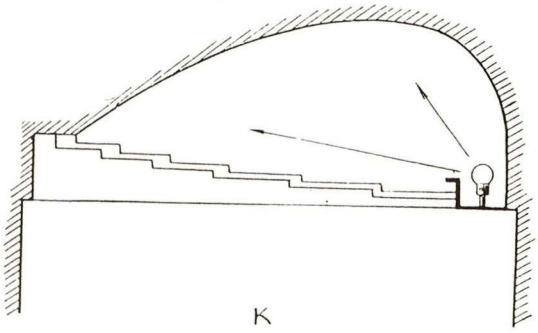


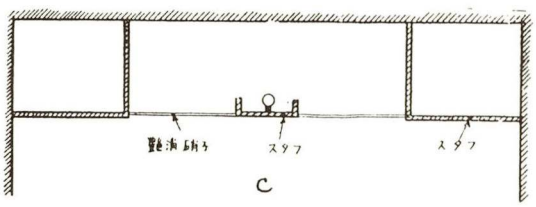
第8圖　間接照明の技術的資料

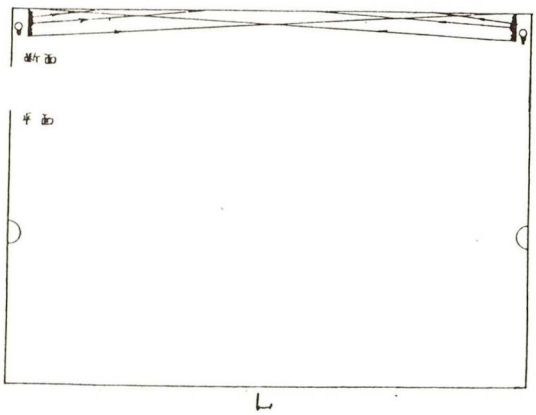


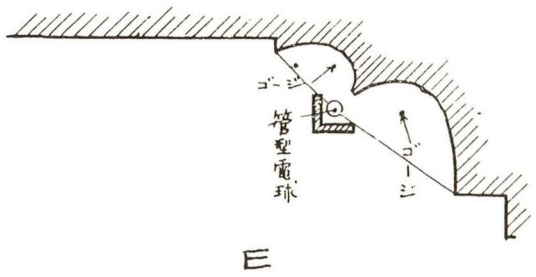


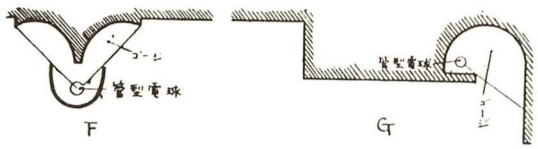


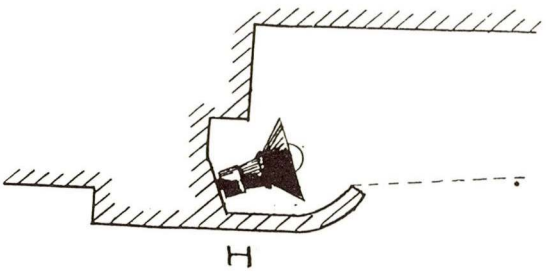


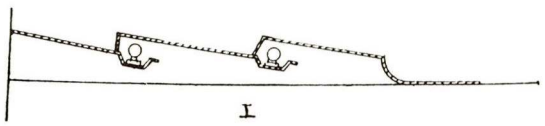


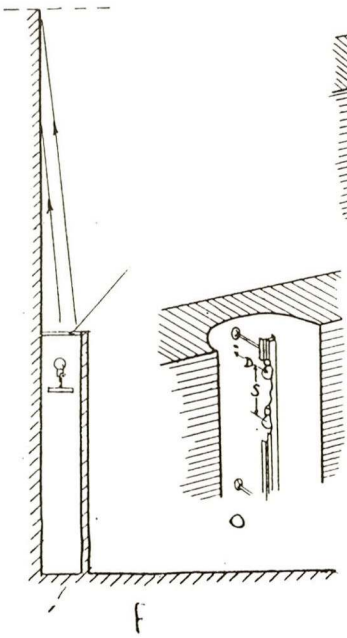


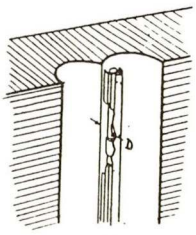




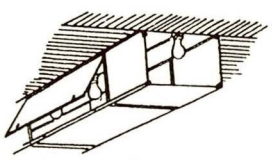


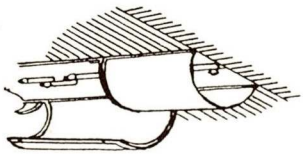


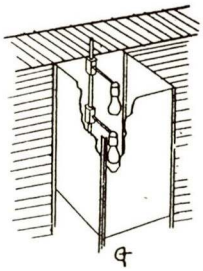


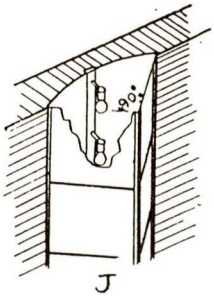


第9圖　天井又は壁に光の函を取付けて建築化照明をする場合の技術的資料

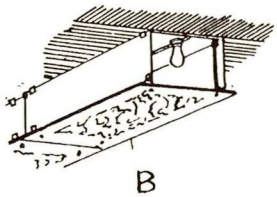

A

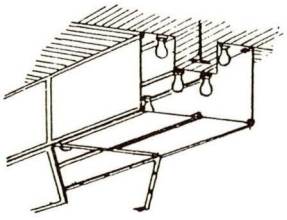

D

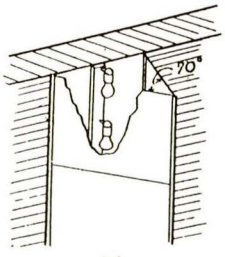

G



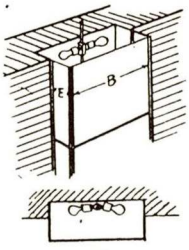
J


B

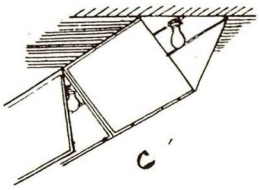

E

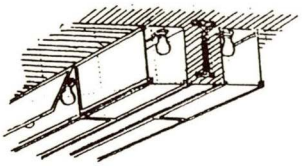


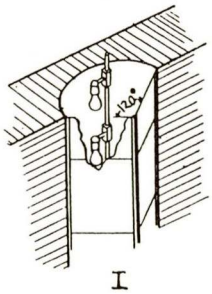
H



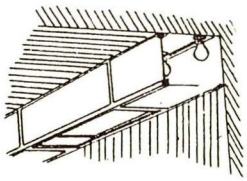
K

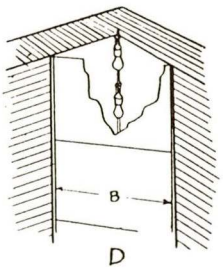

C


F

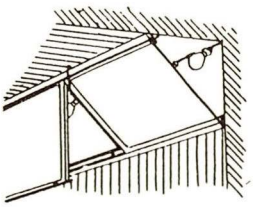


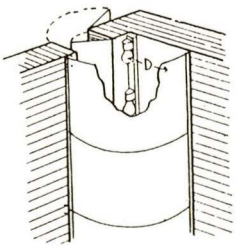
I


A

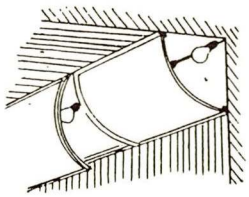


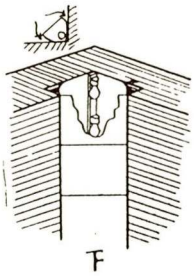
D


B



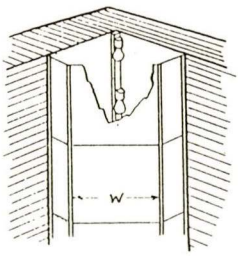
E


C

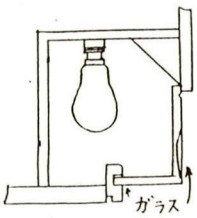


F

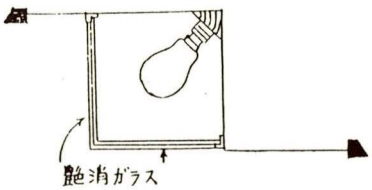
第10圖　天井、壁、梁等の隅を利用して建築化照明をする時の技術的資料



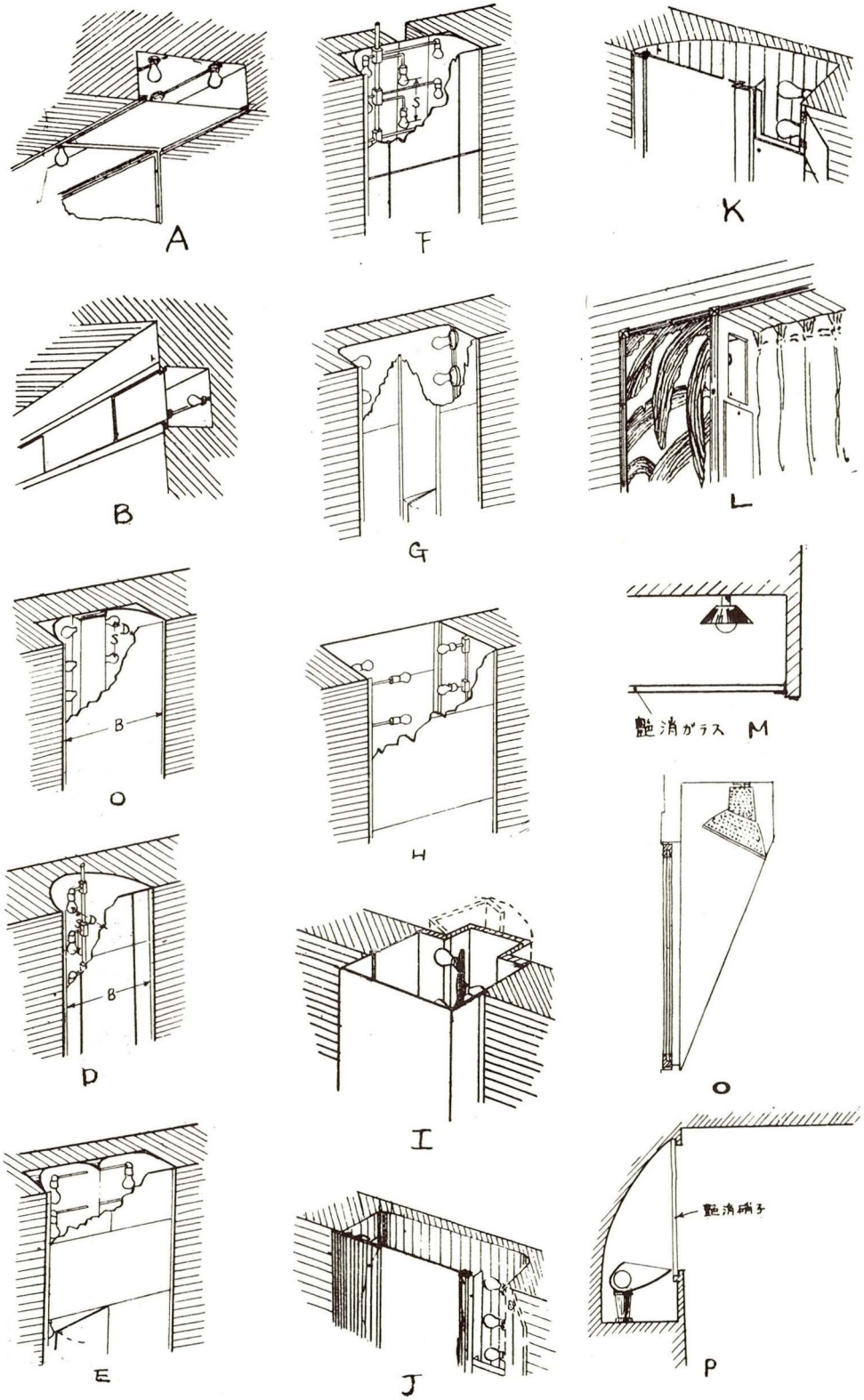
G



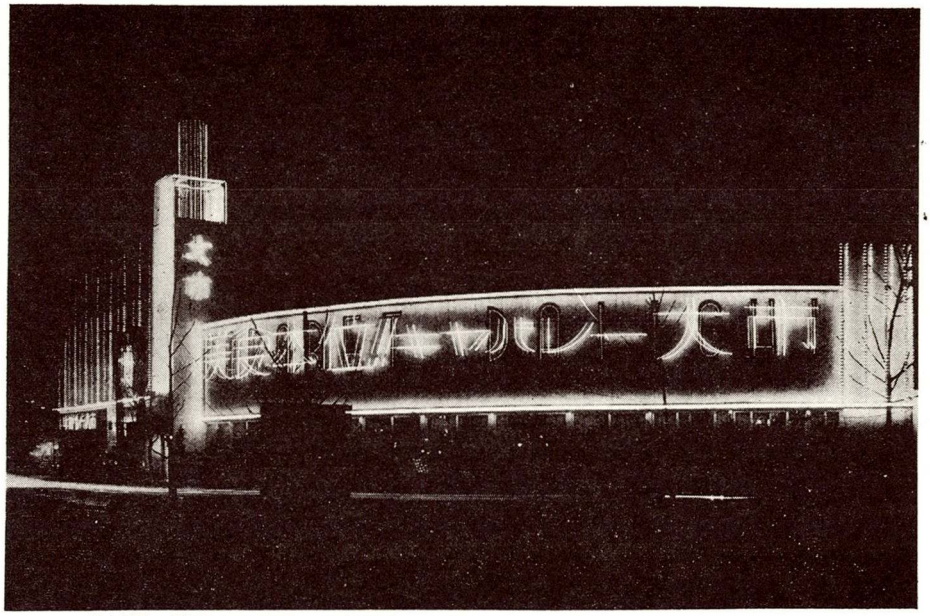
光ノ棚
H



光ノ涙　I



第11圖　天井又は壁に凹所を作り硝子面をこれ等の面と同じ平面にして建築化照明をする場合の技術的資料



第12圖　露出式の最近の外廓照明の一例

に店內で澤山の器具が下つて居ることは感心しない。此立場から建物と別個になつた照明器具を吊り下げないで建築構造物を發光體として照明する方法が近時の商店、喫茶店に見られる。視界を妨げる器具がないから、感じが簡潔で、明るい光の面は朗らかな空間の感覺を構成して、近代人の感覺によく合致し、商店內の照明として多分の將來性がある。この方法に間接照明(第6圖)と建築化照明(第7圖)の二つがある。

第13圖　アド・ビル（大阪戎橋々畔）



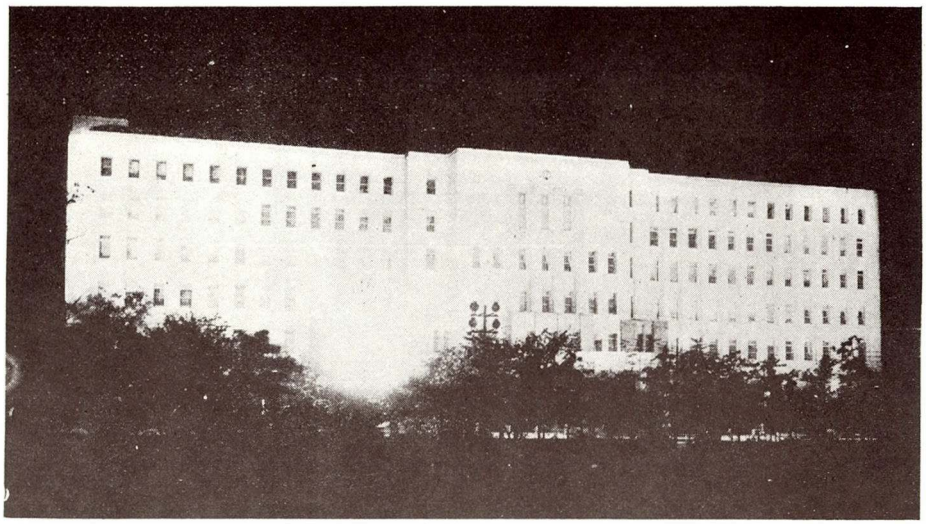
間接照明では、光源から出る直接光線を天井及び壁に當て、この光は天井、壁等の廣い部分を第二の光線として發散せられるから、極めて穩かな照明が得られる。電力費は多少大きくなるが、美術品店、高級な書籍店、帽子店其の他氣分を重んずる商店等に適當と思はれる。

第8圖はその方法の技術的な二三の例を示したものである。

建築化照明は、天井を半透明の硝子で張り、その裏側に電燈を點け、柱又は梁の周りに更に乳色硝子で圍ひを作つて、その間に電燈

を點火して、それ等の透過光によつて、建築構造部分をその儘一種の發光體として照明方する方法である。

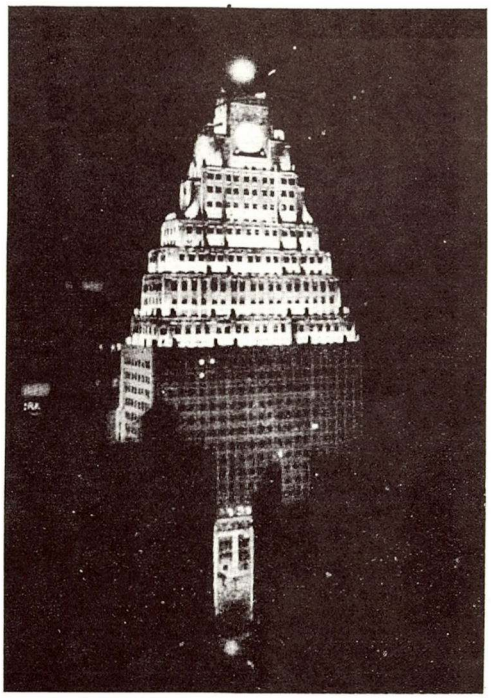
第9圖、第10圖及び第11圖はその方法の技術的な數例を示したものである。



第14圖　外面の平面な場合の投光照明の一例

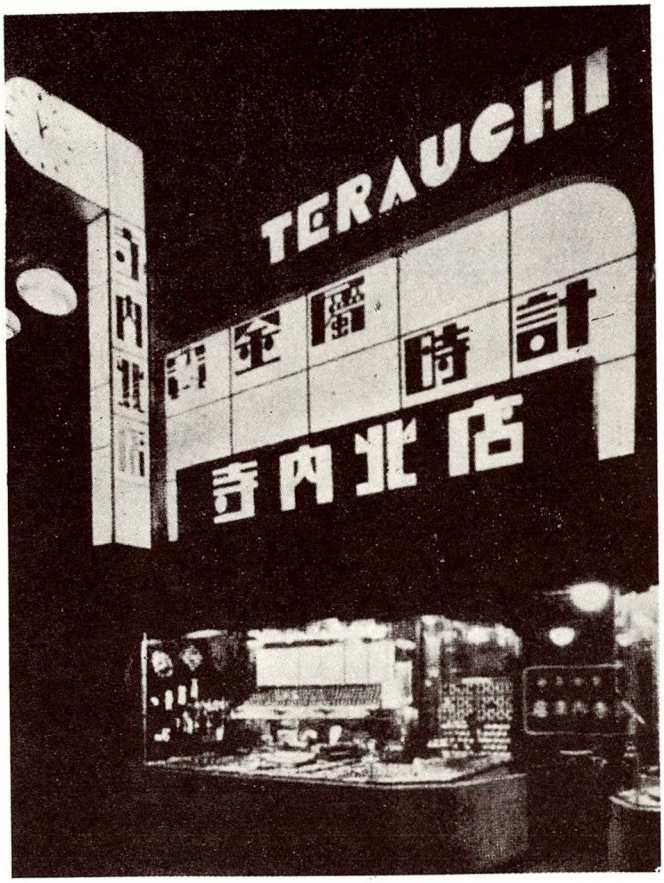
建築化照明を實施するについて、大切なことは硝子の質を適當に選ぶことである。これに用ひる硝子の條件としては、成るべく透過率が良好で、明るさが硝子面全部に平均して、一部のみが特に强く輝くことのないものであることが望ましい。市場にあるものでは、艶消硝子、型硝子、乳色硝子、ステンド硝子、乳色スキガケ硝子等が主である。

第15圖　不均一な投光照明の一例



我が國では艶消硝子と乳色硝子とが最も多く用ひられて居るが、前者は透過率（80%位）が高く安價であるが、光斑の出來る欠點があり、後者は光の擴散度が高い代りに、透過率(15%位)が低くて、兩者何れも充分と言へない。乳色スキガケ硝子は透明な硝子の上に薄く乳色硝子を重ねたもので他の硝子に比べて相當高價となるが、乳色硝子に近い光の擴散度を持ち、透過率（50%位）も比較的高く、厚さに不同がないから、輝度の不均一が起らなくて、建築化照明用の硝子としては、現在最も推奨されて居る。

硝子の質と共に、輝度に不均一を起さぬやう、電燈の配置についても考慮を要するこれは勿論、用ふる電球の大きさと、硝子の內面の色合、即ち壁等の反射率等によつ



第16圖　建築化照明による外廓照明の一例

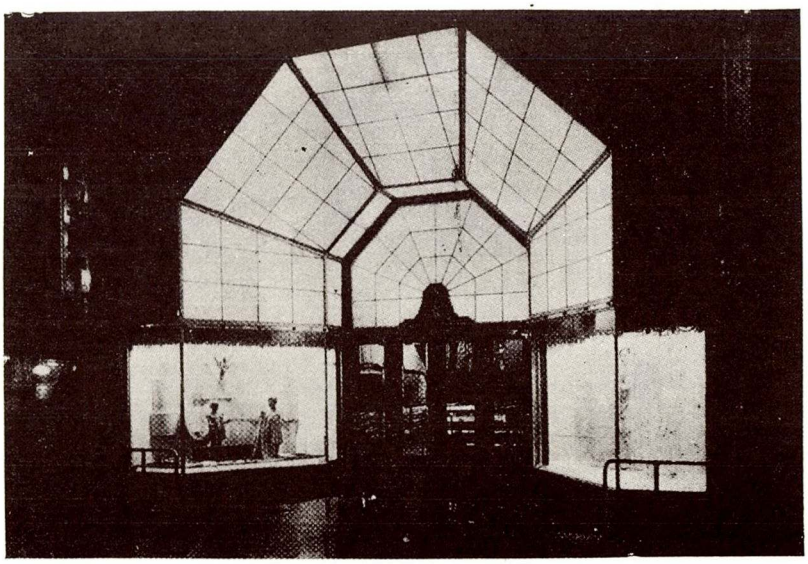
が著しく高價となるが、近代的である。

て一概には言へないが、大體の標準として電球と電球との間隔を電球と硝子との距離の約一倍半以内に止めるのが、適當だと言はれてゐる。倘設計の際に通風と電球の取換容易と言ふことも忘れてはならぬ。

3. 外廓照明の傾向

商業建築の外面を照明して、その存在を印象づけ、廣告的效果を擧げやうとするのに電球、ネオン管等の光源を露出して建物に取付けるものと、建築化照明によるものと、投光器を用ひる投光照明によるものとの三つの方法がある。廣告價値、美的効果、建物への順應性、設備費、經常費、耐久性に於て各々その得失を異にし、例へばネオン管によるものは、經常費が低廉で色彩が强い代りに耐久性に乏しく、建築化照明によるものは建築費

第17圖　建築化照明による外廓照明の一例



電球、ネオン管等の光源の線によつて、外面に廣告的な裝飾を施す方法は、外廓照明としてはその起源が最も古く、且最も一般的である。電球のみ、ネオ

ン管のみによることも多いが、電球とネオン管とを組合せて、各々の持つ欠點を互に補ひ合ひ、意匠と着想とに自由を求めて行かうとするのが、近來の傾向で、その意義乃至使命の上からも、建物の輪廓なり外面を光の線によつて、單に裝飾してその存在を廣告すると言ふ程度のものから離れて、建物自體を一つの電氣サインに利用し、その廣大な建物の外面に、光源の線の連續によつて廣告文字、又は繪を描いて、積極的に廣告上の使命を果たさせ様とする傾向に變つて來た（第12圖）。

その最も著しい例は、大阪のアド・ビルに見られる（第13圖）。

この場合「動き」と色とを混じ、種々の色を適當に按配して、それを連續的に變化させる方式をとつて居るが、「動きの變化」と「色の配合」について、都市美的な立場から、或は建物への順應、周圍の事情との調和と言ふ點から、或はこの方法の持つ大きな欠點ではあるが晝間の體裁等の點から、改善の餘地のあるものが多い。

ネオン管と電燈とを組合す場合は、電燈で點滅を行つて動きを與へ、ネオン管は靜止させて置く方がよい。

商業建築の外面に、放光器で豐富な光の量を放射して、照明する方法は、光と影の效果によつて、夜の空を背景に建築美を發揮して、印象的ならしめるには有效であるが、建物の色が地味でそれに適しないのと、建築様式そのものが照明效果を出すに相應しい性質を持たねばならぬことと、高層建築の少なかつた等の原因で、早くから紹介されて居たに拘らず、餘り多く利用されなかつた。

建築の様式によつて、二つの照明方法が考へられる。

1. 建物の外面に凹凸がなく平面的である場合は、陰影を避けて照度が均一になる様照明することが望ましい（第14圖）。

2. 建物が上階になるに從つて周圍が段々縮少し、被照明面が段々になつて居る場合は不均一な照明、即ち各階毎には均一な照明を施すが、下方の階の照度を上方の階の二流乃至四流位にとつて、階を違へる毎に照度を變へて、各階の照度の對比によつて、照明効果を擧げる様に照明する（第15圖）方法が選ばれる。

放光照明をするとき、建物の外面をどの位の明るさに照明すればよいかは、建物の外面を構成する材料、その色、周圍の明るさ及び背景の狀況によつて一定でない標準。として次表が擧げられる。

投光照明による建築外面の照度

建築物外面の材料と色	反射率%	都市人口別の照度（ルクス）		
		50,000人以上	50,000人—5,000人	5,000人以下
白色大理石・クリーム色テラコッタ等	60—80	100	80	60
灰白色石灰色・黃色煉瓦等	40—60	150	120	30
灰色煉瓦及之に類するもの	20—40	200	150	100
普通赤煉瓦及之に類するもの	10—20	300	200	150

近來、投光照明にしても、建物が商業建築の場合は特に色光を用ひる様になつたが、この場合は次表によつて、白光の場合よりも電球を大きくせねばならない。

色濾光板の透過率と電力增加率表

色の種類	透過率（%）	電力（%）
透明	100	100
琥珀	46—60	150
赤	15—20	200
綠	5—10	300
青	3—5	500

4. 建築と照明

建築にとつて照明が、煖房給水換氣等以上に、欠く可らざるものであることは言ふまでもない。

一般に建物の形、窓の大きさ、位置等は主として天然採光を基準として、決定されるが電燈照明は建築の設計の當初に少しも問題とされない。多くは建物の完成後に考慮される傾向にある。

現今のやうに、電燈照明の發達によつて建築化照明が發展し、投光照明が利用されることゝなれば、その設計には電燈照明の條件を織り込まなくてはならないから建築關係者と雖も照明に無關心で居る譯にはいかぬ。照明の設計に關しても、器具の形等の枝葉の問題に沒頭して居る譯にいかない。電燈照明の利用、光と影の效果に對する考察によつて、よりよい建築を造り上げることを研究せねばならぬ。

建築關係者と照明關係者、この兩者の理論と協調とは、今後の建築界に最も必要な問題ではなからうか。

本號執筆者紹介

（五十音順）

伊藤和夫　京都帝國大學建築學科卒、大阪市技師

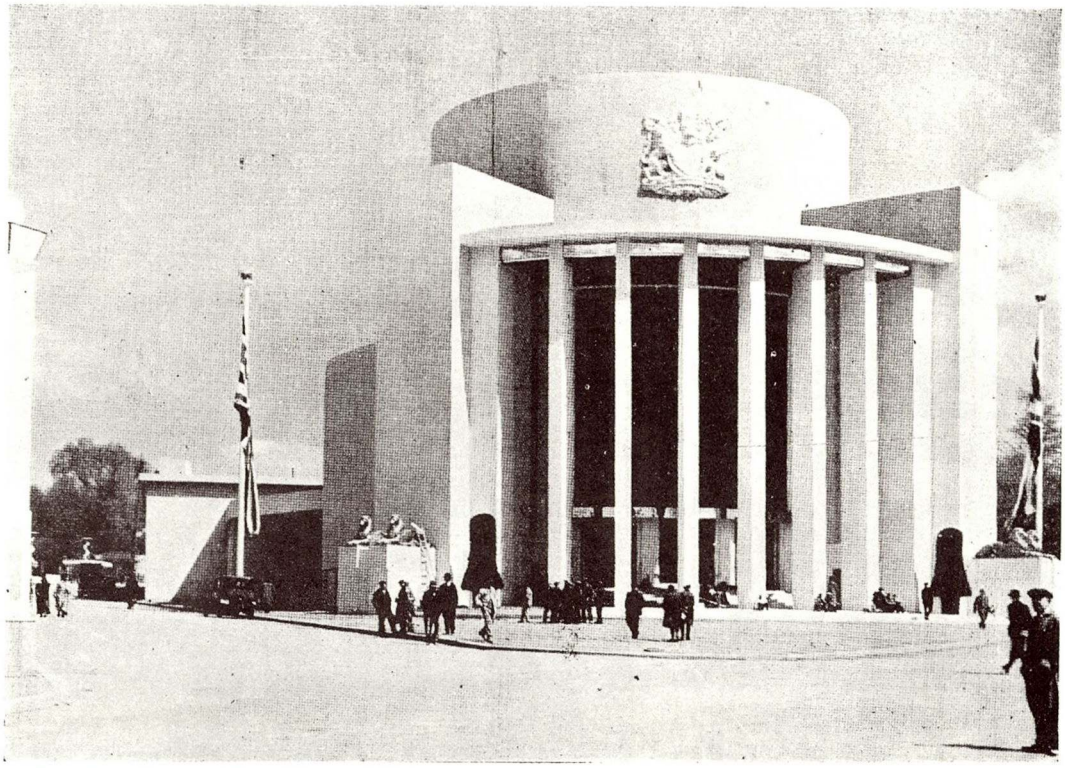
內田幸夫　京都帝國大學電氣科卒、大阪市技師

小川安一郎　京都高等工藝學校卒、內外木材工藝會社技師長

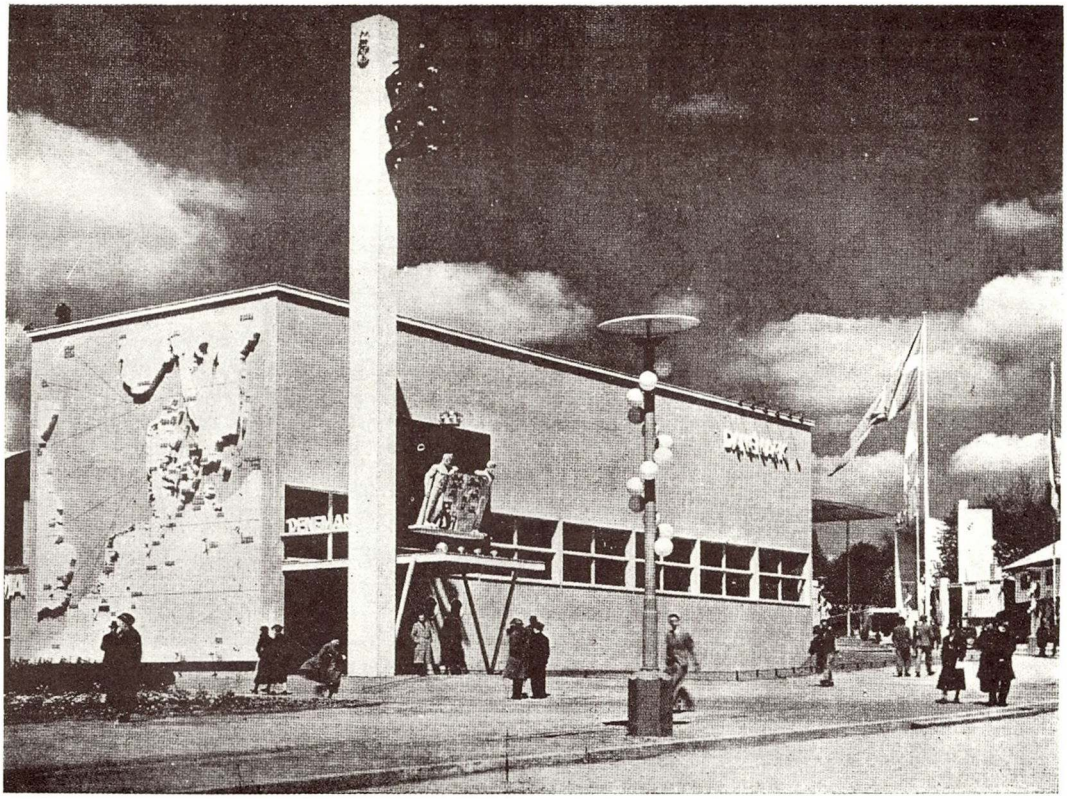
川喜田煉七郎　東京高等工業學校卒、新建築工藝學院長

佐古慶三　希有文庫主、前大阪商科大學講師

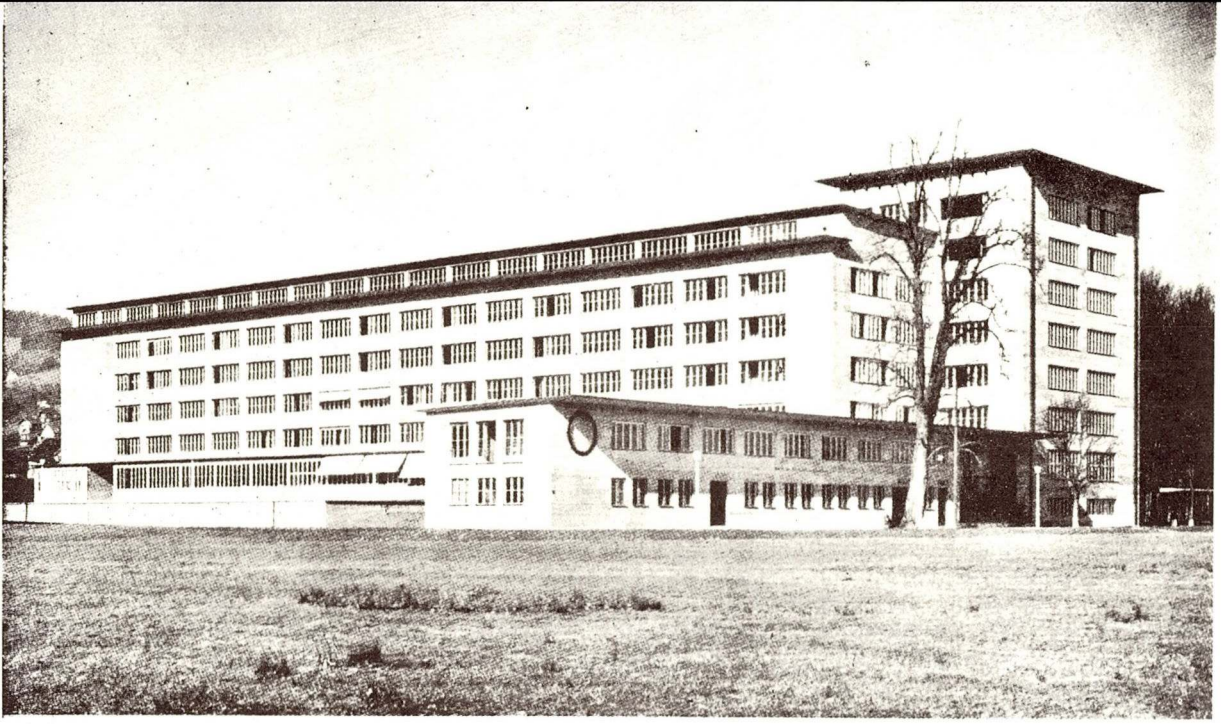
角尾篤彥　京都高等工藝學校卒、三越大阪支店裝飾部長



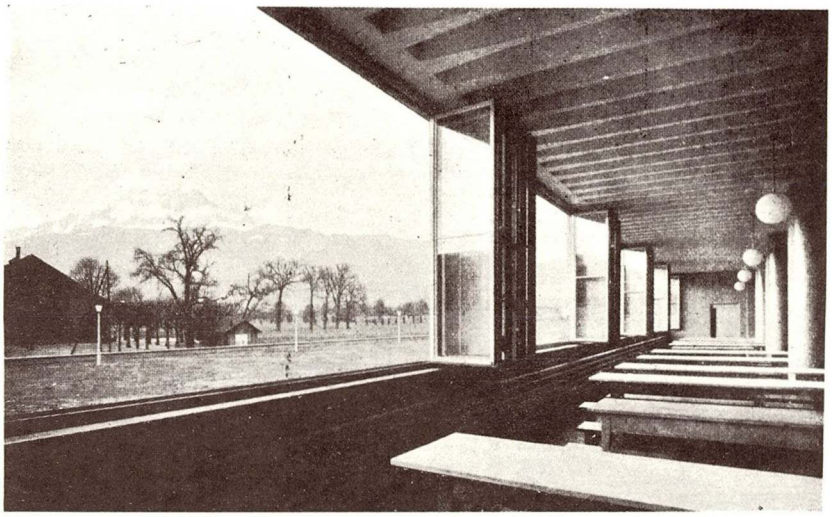
英　國　館　　建築家 Howard Robertson



デンマーク館

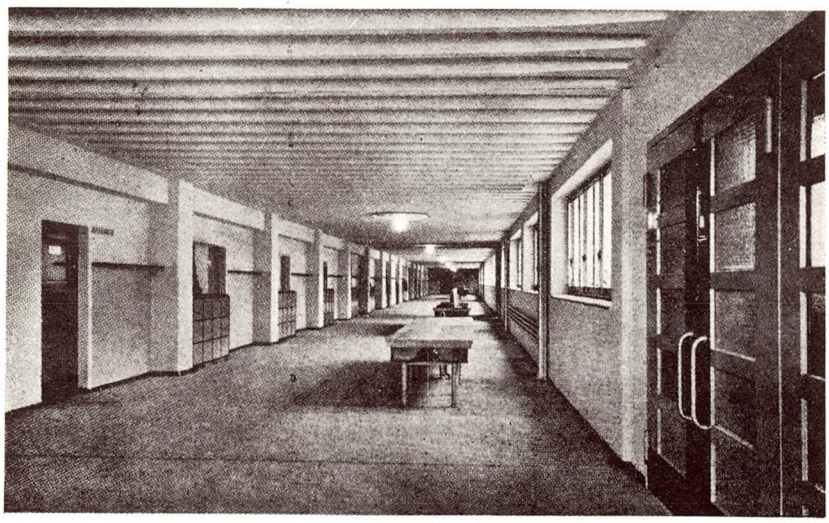


寢室居室側の南面外觀



兵舍食堂2つの內1つ

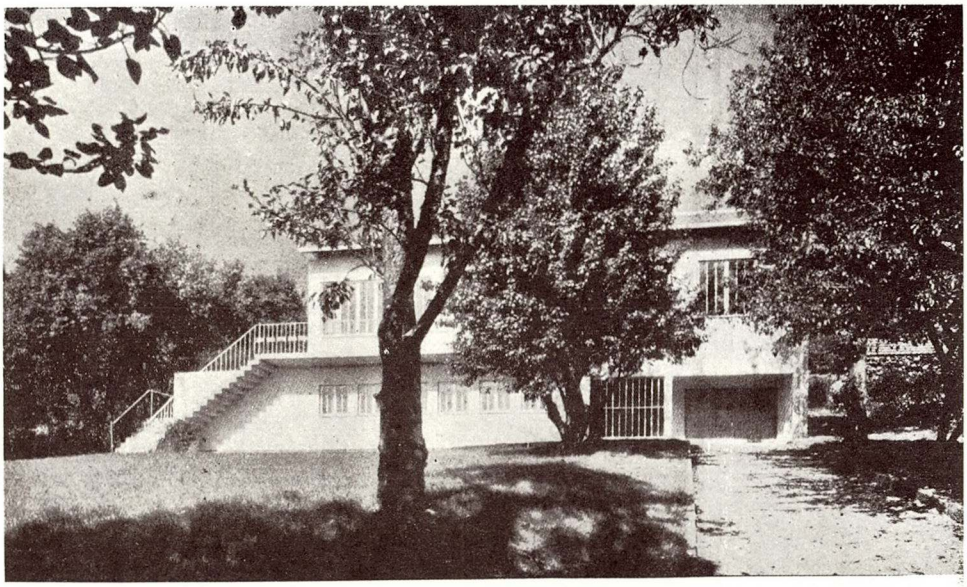
新しい生活感覺はこの自然の風景に對して廣く開放されたこの陽あたりのいゝ食堂にて感じるよりもより効果あることは出來ないだらう。



兵舍廊下

寢室は1部屋にベツド20個づゝあつて廊下には兵士用の洗濯臺、戸棚、銃掛用鈎等が整備されてある。

（Baumeister 誌より　桐本楠雅）

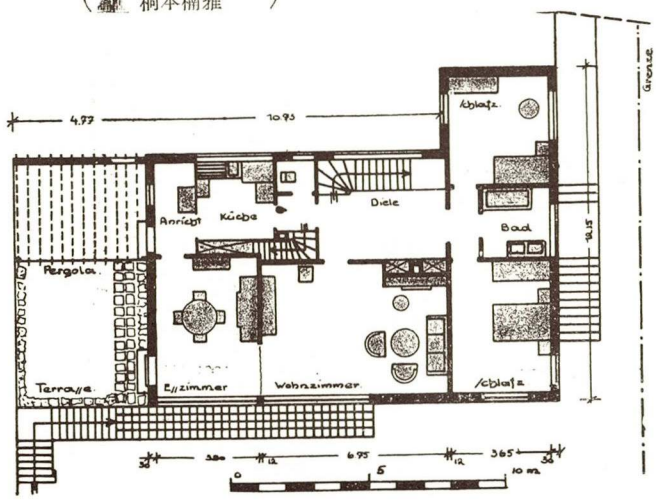


外　　観



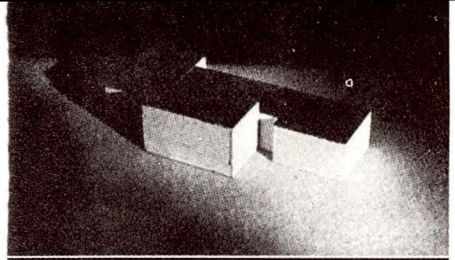
主要階に通ずる外からの階段、左に見えるは入口の上のパーゴラ

(Baumeister 誌より　桐本楠雅)

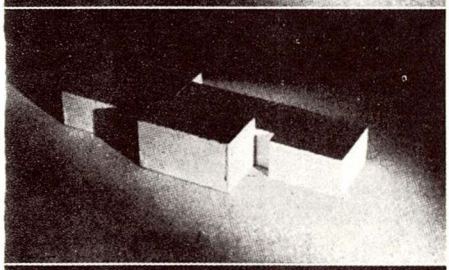


(ドイツ) スツツトガルト近郊の住宅

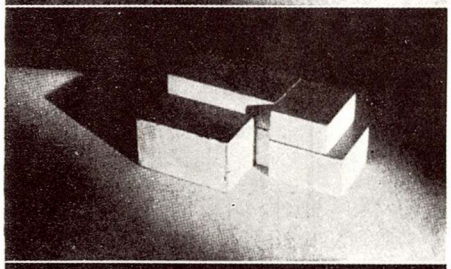
建築家 Haus Schmohl



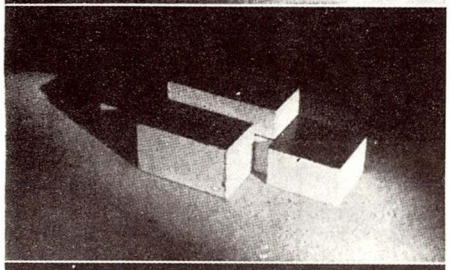
1+2



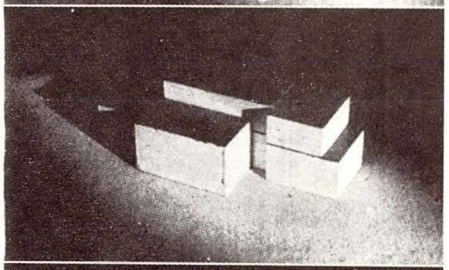
1+3



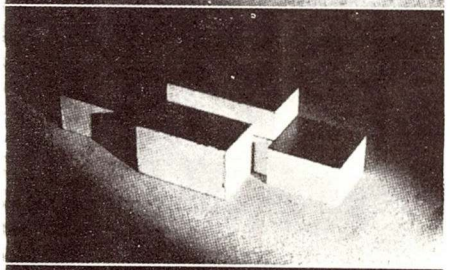
1+5



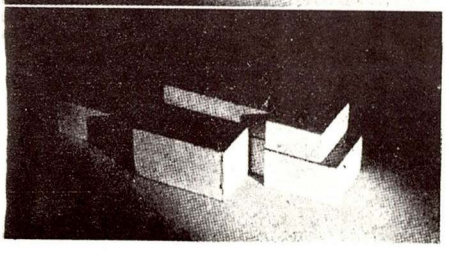
1+2+4



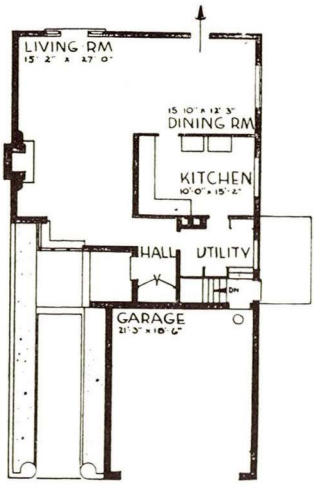
1+2+5



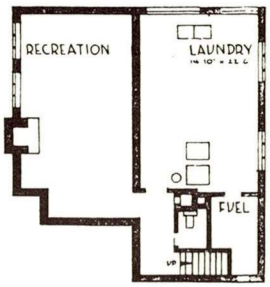
1+3+4



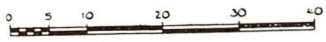
1+3+5

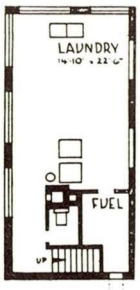


1

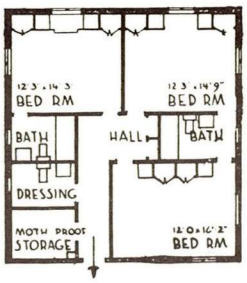


6

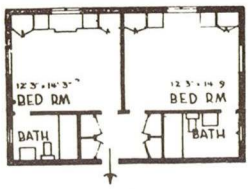




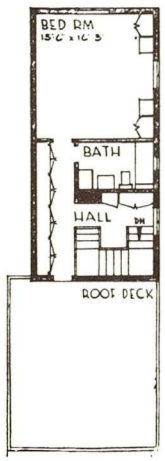
7



3



2



4

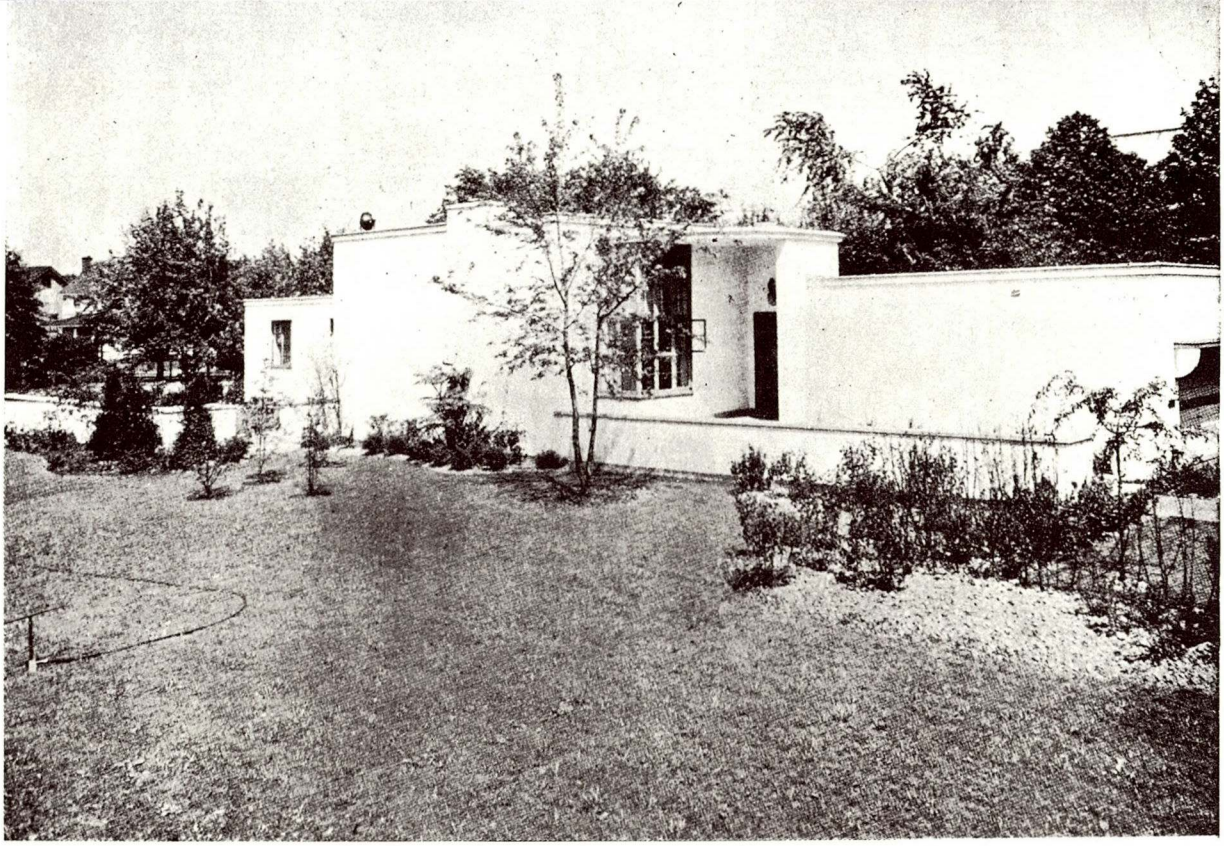


5

第 1 圖

IX 68　（アメリカ）ネラ・パーク試験住宅

建築家　Hays 及 Simpson



第 2 圖

ゼネラル・エレクトリツク會社の副社長であつたフレツチ氏は、平常服裝を整へるに當つてシヤツ、ネクタイ、靴下等の選擇に惱まされることから救はれる爲に、それ等のものの標準を定めその組合せをきめて居たが、退職後その行方を住宅に應用したものがこの試驗住宅で、クリーブランドのネラ公園にその數戸の實例が實施せられて居る。建築技術上の事はヘイス及シムプソンの２人の建築家が相談に與つて居る。

平面圖の 1. 2 及 3 は 1 階 4. 5 は 2 階、6. 7 は地階のプランのユニツトである。それ等を適當に組合すことに依つて例へば第 1 圖に示す如き多數の場合が生ずる。

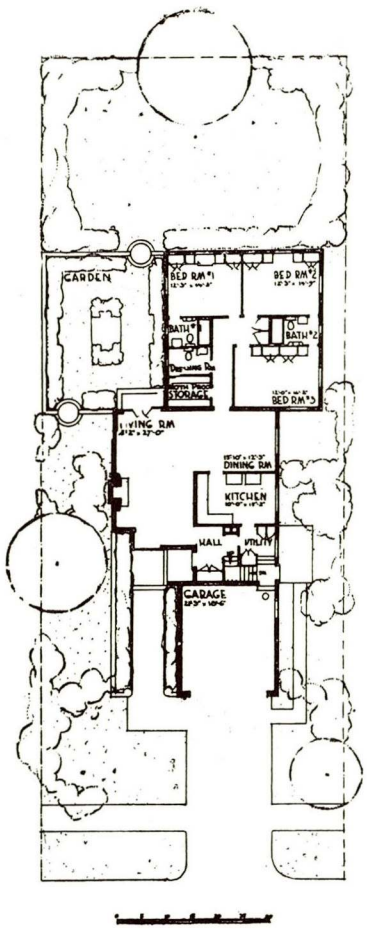
第２圖はネラ公園に建築せられた實例で、第３圖はその平面圖であるが、１と３と７との各ユニツトを組合せたものである。

第１圖の７つの組合せ以外にも、例へば１と４と７とを組合せた如き簡單な住宅を造ることも出來る。

工費は大略次の通である。

1. $ 6,094.24 （容積 20,433 cu. ft.）
2. $ 3,053.38
3. $ 4,671.85
4. $ 2,042
5. $ 2,825
6. $ 1,540
7. $ 923.66

（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



第 3 圖

（アメリカ）ネラ・パークの試驗住宅

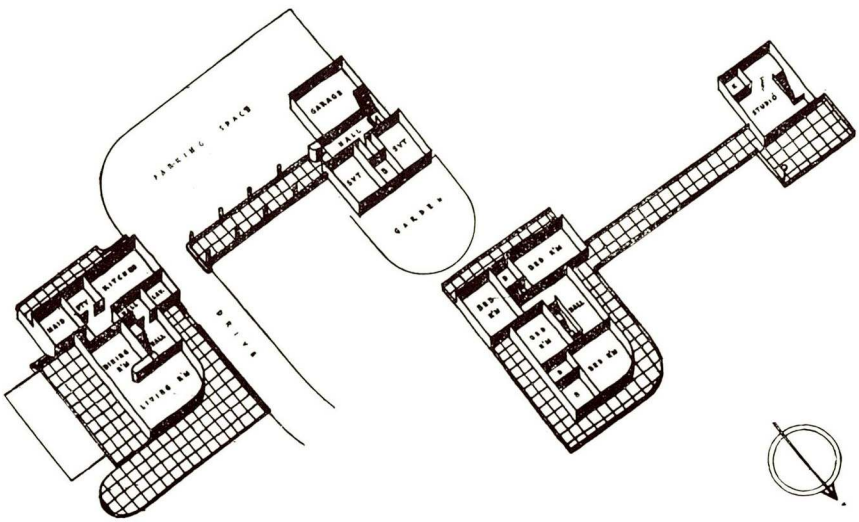
建築家 Hays 及 Simpson

家具裝飾の取附の部分を主調として、それに適當に移動可能の裝飾家具等を配し充分に調和を保たしめた所が此設計の特長だと强張して居る。絨緞や床、壁等の色調も日中と夜間間接照明を受けた場合と兩方の場合を考へて選擇せられて居る。照明は全て間接照明で天井や壁への反射光線を利用して居る外部は細粒のスタツコ仕上、屋上パラペツト上端にはアルミニウムのバンドを廻し、2 階露臺は木造の手摺をアルミニウムの支柱で支へて居る。

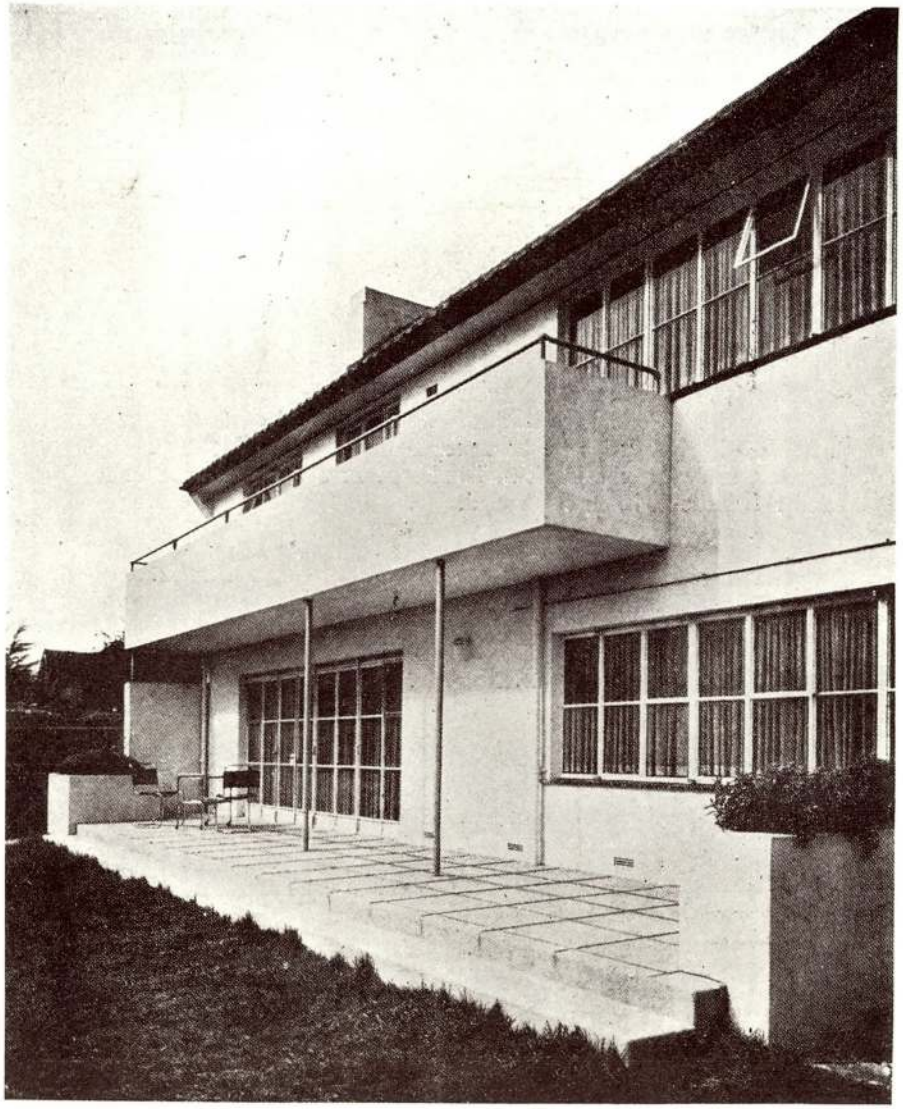
陸屋根は兩端部から中央に向つて勾配を附け、雨水は全く建物の中央の壁體の中に埋込まれた竪樋に依つて排出せられる。

主家とスタデイオと呼ばれる建物とは吹抜の廊下で連絡せられて居る。後者には、2 つの寢室、臺所と 24′×32′ のスタデイオから成り、スタデイオ中には主家の重油汽罐に聯絡したサーモスタツト・コントロールが取付けられて居る。主家と合して全體で14の室と 4 つの寢室とを有し、各室何れもテラスに面して居る。

（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



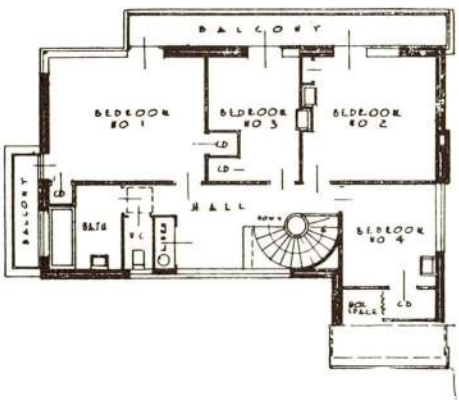
IX 70　（アメリカ） Contempora House, Reckland.　　建築家 Paul Lester Wiener

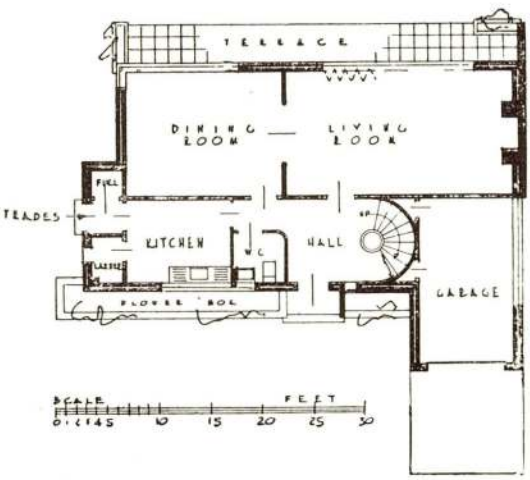


店園側外觀

主體は煉瓦造で角の窓の部分が鐵骨突出梁、バルコニーが鐵の圓柱に支へられてゐる。居間と食堂の間は大きな折疊戸で仕切られ、寢室は4室ある。煖房も、臺所浴室等に使用する湯も電熱ボイラーにより、其他料理、冷凍、時計等も電氣による。

(Architectural Review 誌より　本多正道)



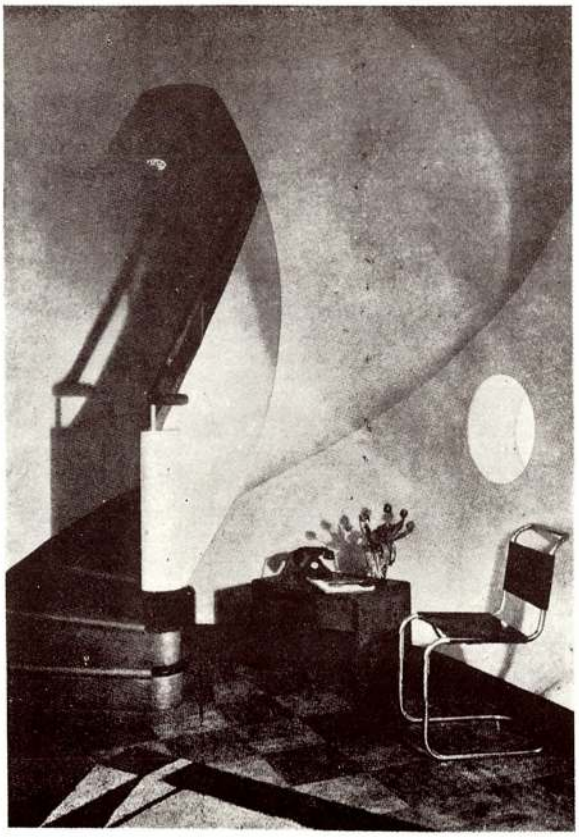


(イギリス) 住　宅

建築家 Cameron Kirby



居間より食堂を望む



階段上り口

ix 72　（イギリス）住　宅　　建築家 Camercn Kirby

建築法規に關する質疑應答欄

應答　本會法制委員會

下記問題に關し大阪府、京都府、兵庫縣の各建築課に付意見を照會致しました處夫々御回答を下記の通得ました。

構　造

1. 地　階　鐵筋コンクリート造

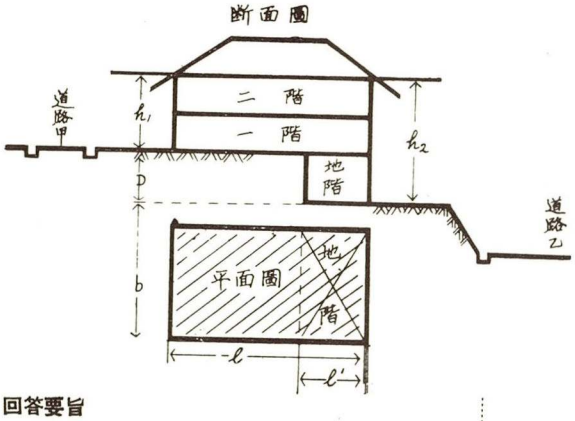
1. 1. 2. 階　木　造

問 1. 上の場合に於て木造建築では其高（h）は9メートルと制限されて居る然るとき h_1 h_2 の何れを其制限高とするや h_2 は9メートルを超過してもよきや。

問 2. 地盤認定に對し地階面積の總面積に對する歩合を考慮するや

問 3. 地階面積が總面積に對する歩合に依りては地階の部分を其建物の高さより除外して適用せらるるや。

問 4. 此建物の用途が「アパート」なるときには3階の木造と認めらるるや。



回答要旨

大阪府の分

答 1. h_1 トス

答 2. 3. 地盤認定に關しては地階の面積並に構造强度を考慮す。

答 4. 階數2の「アパート」と看做す但し前面道路に依る避難設備を完全にする要あり。

京都府の分

答 1. 圖の如き場合間2及建物の平面竝に四圍の狀況により鐵筋コンクリート造の部分が地階と認めらるるものなるときは高き方の地面を地盤面と認定す從て h_1 を制限高とす。

答 2. 前項により知らるる如く考慮する場合あり。

答 3. 認定地盤面より高を測定するものなるにより特に地階の部分を高より除外することなし但し圖の場合の如きは地盤面下にあるものなれば除外すること勿論なり

答 4. 鐵筋コンクリート造の部分が地階と認められたる場合は木造2階建と認む。

兵庫縣の分

答 1. 市街地建精物法細則（兵庫縣）第9條に依り建築物の地盤面を認定し其の地盤面を基準として建築物の高さを決定す。

當該建築物の外壁は令第5條第4項に依り木造建築物と看做さる故に高 13 メートル軒高9メートルを超過することを得ずと解す。

答 2. 考慮す。

答 3. 除外せずして適用す。

答 4. 附圖に地階とある階が規則第1條第2號に該當するものならば階數2該當せざる場合には階數3の建築物と認め（規則第1條第21號參照）用途が「アパート」なる時と然らざる時とに於て異れる認定を爲さず。

規則第1條第2號に謂ふ「地盤面」の認定も亦答1に於けると同樣の取扱をなす。

小川陽吉

問 1. 次の樣な場合には「申請手續にするか單に届出とするか」在來の住宅（京間坪にて1階建坪 47.75 坪、2階 29.75 坪）の一部を取除き一部を改築し、一部に增築して（1階建坪）60.75 坪 2 階 28.875 坪）とします。

問 2. 上記の工事中2階坪數は在來より減じて居ますが階段の數は在來の如く1ケ所にて差閊ありませぬか。

問 3. 或人の申さるゝには是は改築としても大修繕としても届出を着手前（10日？）に出せばよいとか之は何に因りますか。

答 1. 届出になります。

答 2. 工事要旨が具體的でないため的確な事を申し難いのでありますが場合によつては階段を2ヶ所にしなければならないでせう。

答 3. 大修繕ではありますまい、施行規則第144條及施行細則第31條に因ります。

安孫子三雄
大下順三郎

問 法第18條、前段
施行令第15條
……1メートルを超ゆる場合に於ては其の外端より1メートルを……外端とは瓦の端か樋の端か鼻隠かそれとも……

答 令第15條の外端とは建物の部分をなす外端を謂ふ
例示の如きものは全部含まれるものと思ひます

岡本新次郎

問 大阪府令の建築取締規則は今も尚ほ施行されているので御座いますか。

答 施行されて居ります。
然し市街地建築物法の適用區域内では構造制限の大部分手續規定、其他が適用されない事になつて居ります。
是は市街地建築物法施行細則と重複するが故であります。

岡村忠一

問 賣地建築用地等實地に關する板圍類は餘りにも都市の美觀を害ふものが有りますが一定の取締り規則は行はれませんか。

答 美觀地區内では多少の取締がありますが其他のものは今の處何もない樣です。

辻鼻暲七

問 建築線指定關係
現在私道（幅員9尺既設）に面する建築物にして裏側第2階增築せんとする場合に於ても細則第6條本文を適用せらるゝものなりや表側は在來の儘とすれば同條但書により裏側增改築等の場合は現在幅員の儘建築出來得るものなりや否や聊か疑義相生じ候條御調査と御回答相煩はし度願上候

答 法26條の道路と首肯出來るものとして答えますれば此の場合には細則第6條の適用はありませぬ、細則第6條は「行政廳の管理に屬する道路又は通路」に限られて居ます、從つて裏側の建築は可能の樣です。

簸本久三郎

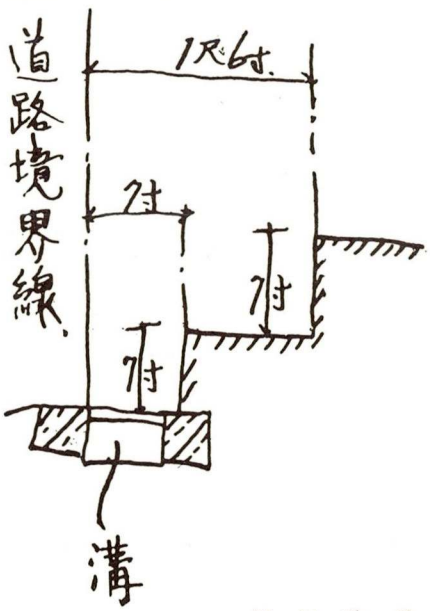
問 來る7月地域、地區變更、設定、ある由。北區鶴野町、茶屋町、濱崎町、は從來住居地域なるも、變更ありや、如何を御調査願度。
若し廣範圍に渉り變更、設定、指定あるなれば其發表の時期。

答 本質疑は公示される迄判りません。

質問者不明

問 御賴申上ます過日御講演の節手續が簡易になつたと云ふ事耳に致しますが實地は今までと同一にて建築に掛る迄建築課に圖面を以て御伺すると兎に角定規の願書を提出したる上との事にて御講演の時簡易になりて先に着手する迄に建築課へ相談に行て（假圖面にても）差支なき事ですか願書提出して考てからとの事では何にもならんと云ふ事です何とか假圖にても之にても宜敷とか假御掛りの方の印にても再び圖面訂正せぬ樣にする爲御印をなし被下たら宜敷考へます何分四六四九。

答 大阪府では實際相當に簡易化された樣です願届書取扱の疑義についてはその都度各府縣の建築相談課でよく御研究になつては如何ですか。



保田稔男

問 以上の如き場合には許可されますか、御手數ながら御一報を御願申上ます。

答 大體宜からうと思はれます。

會　　報

都市計畫委員會　（第９回）

時　　7月16日午後6時30分—9時
所　　建築倶樂部別室
出席者　委員長　鳥井
　　幹　事　加藤
　　委　員　國藤　福知

1 大阪の都市美に關する座談會を開き協會會員の之に對する意見を纏める必要あるを認め協議の結果右座談會開催のことに決し會長に提案することに決す

1 大阪の都市美に關し大阪に於ける諸名士を招待して之が意見を聞く爲め座談會開催に付諸準備に付協議をなす

映畫作製特別委員會　（第３回）

時　　7月18日午後6時30分—10時
所　　建築倶樂部別室
出席者　幹事　龜井　新名　鳥井
　　委員　浦　小笠原　小川　清水　中澤
　　内藤　本多　吉田　渡部

1 午後６時40分協會發一同自動車に分乘して梅田驛前プリミヤハウスに至り同２階メトロ映畫社に入り同社試寫室にて下記映畫の試寫を試む
(1)　建築の東京(トーキー)
(2)　チヨコレート製造實況(トーキー)

1 午後８時建築倶樂部別室に歸り委員會を開き脚本懸賞募集に付協議す

災害强度委員會　（第９回）

時　　7月19日午後6時30分—8時3 分
所　　建築倶樂部別室
出席者　委員長　波江
　　幹　事　黒田
　　委　員　谷　矢田　渡部　堀田　山田
　　中井

1 午後6時30分波江委員長座長となり開會

1 靜岡地方に於ける地震調査のため出張したる山田、中井兩委員より視察情況を詳細報告あり各委員よりの質問に對し夫れ夫れ應答をなす

映畫作製特別委員會幹事會　（第４回）

時　　7月22日午後6時－10時
所　　建築倶業部
出席者　委員長　池田
　　幹　事　龜井　新名
　　專門家　松崎啓次氏

1 映畫作製に關し松崎氏より專門的に種々意見を聞き後製作上に關する諸要項に付協議す

木材市場品規格調査委員會　（第６回）

時　　7月23日午後7時—9時30分
所　　建築倶樂部
出席者　幹事　池田
　　委員　黒澤　阪井　島田　後川　高岡
　　丹藤　道田　山田

1 午後7時池田幹事座長となり開會

1 委員山田寅一氏初めて出席につき池田座長より一同に紹介あり次で前回迄に決定したる規格案につき逐條的に再檢討をなし種々協議研究の上別紙案の通決定(別紙案省略)

1 次回を７月29日開會審議未了の案に付引續き研究の上最後案を完成することとなる

1 午後9時30分散會

各映畫會社招致打合會(第５回)

時　　7月25日午後1時30分—2時20分
所　　建築倶樂部別室
出席者　松竹キネマ　岩崎　治良氏
　　同　　石田　龍司氏
　　P. C. L　高崎　省三氏
　　日　　活　山本彌太郎氏
　　新聞活動社　蔦井　英地氏
　　JO スタヂオ　小山　一夫氏
　　幹　　事　龜井

1 午後1時30分一同着席

1 龜井幹事より先づ本日の來所を謝し次で映畫製作要旨に付朗讀說明をなし見積書の提出方に付要求したり

1 上記に對し質問應答あり協議の結果各社共見積書を提出することに決定午後2時20分散會

7 月 例 會 （見學）

時　　7月27日午後1時
所　　鳴尾競馬場及阪神水族館
出席者　武田副會長外65名

1 當日快晴絶好の見學日和なりされど炎暑酷烈にして鳴尾停留場―競馬場間、競馬場　水族館間の炎天徒歩は一寸苦しめられたり
1 競馬場に於ける集合場所を3階のスタンドの一部を選び此處を休憩所に充て來會者には大林組の斡旋により冷風の下にアイスクリーム及コーヒ等の饗應を受け見學開始を待つ
1 午後1時30分武田副會長見學開始を宣し案内者池谷千太郎氏(倶樂部側)牧毅氏(大林組側)を紹介し見學の概略に付池谷氏より簡單なる說明ありて右兩氏の案内により順次見學をなし午後2時40分終了同競馬場を辭し水族館に向ふ
1 午後3時阪神水族館に到着直に館内を一巡見學を了り館内の廣場に一同集合
1 池田主記の紹介により會員今林彦太郎氏より本館の建築に付說明あり次で同館技師堀家邦男氏の專門的水族に付て說明あり
1 午後3時40分池田主記より閉會を宣し解散せり

木材市塲品規格調査委員會 （第7回）

時　　7月29日午後7時―9時
所　　建築倶樂部別室
出席者　幹事　池田
　　委員　黒澤　島田　高岡　谷　山田　道田　吉本

1 池田幹事座長となり前回審議未了の案につき協議研究の上案を作成
1 上記成案を各委員に再送付し意見の有無を照會の上常務會に廻付することに決定

映畵作製特別委員會幹事會 （第6回）

時　　7月31日午後7時―9時
所　　建築倶樂部
出席者　幹事　龜井　新名

1 下記事項につき協議す
(1) 映畵作製見積書審査の件
(2) 映畵作製豫算の件
(3) 映畵作製に利用し得る關係フイルム調査の件
(4) ラヂオ放送に關する件
(5) 脚本懸賞募集の件

都市武裝各部長會議 （第5回）

時　　8月1日午後6時30分―8時30分
所　　建築倶樂部別室
出席者　副委員長　波　江
　　總務部長　中　澤
　　宣傳部長　小笠原
　　展覽部長　村　野
　　記錄部長　高　橋
　　會計部長　清　水
　　映畵作製幹事　龜　井
　　總務部幹事　内　藤

議　事

1 映畵作製に關し支出金增加の件……可決
1 脚本懸賞募集に付會告の件……可決
1 都市武裝に關し當局へ建議案の件……保留
1 研究部より研究費支出要求の件……保留
1 大阪都市協會より依頼に係る原稿作成の件可決

報　告

1 映畵作製豫算の件
1 映畵作製見積書提出に付注文先の件
1 都市武裝促進委員會記錄配布報告
1 映畵作製特別委員會經過報告
1 映畵に關するラヂオ放送に關する件

常 務 會 （第15回）

時　　8月5日午後5時50分―7時20分
所　　建築倶樂部別室
出席者　理事　片岡會長
　　常務　伊藤主記　北垣主記
　　中澤主記　伊東主計
　　清水主計　谷　主計
　　岡田編輯　新名編輯
　　島田編輯

議　事

1 臺灣建築會外3建築會第2回聯合大會開催に關する件……照會
2 名古屋汎太平洋平和博覽會開催に付援助方依頼の件……承諾
3 神戸市公會堂、教育塔、土木建築事業殉職者慰

靈塔設計圖懸賞募集に付會誌に無料紹介の件…
……可決
4 映畵作製豫算に關する件……可決
5 映畵脚本懸賞募集に付會告(8月號)の件…可決
6 映畵作製特別委員會幹事2名東京へ出張の件…
……可決
7 定款一部改正の件……可決
8 會員詮衡
報 告
1 東海建築資料協會發會式擧行報告
1 滿洲大博覽會開設延期に關する件報告
1 7月例會終了報告

法制委員會 (第10回)

時 8月7日午後7時30分 10時
所 建築俱樂部
出席者 委員長 津田
委 員 石川 山口 矢崎
1 午後7時30分津田委員長座長となり開會
1 委員增員に付ては下記會員を委囑することに決定常務會に要求すること
會員 本田林八氏
同 板井公威氏
1 建築法規に關する質疑問題の件は常務會に提案の上9月號會誌に發表の豫定のこと

都市武裝記錄部會 (第1回)

時 8月10日午後0時30分—1時
所 協會事務室
出席者 部長 高橋
幹事 新名
1 都市武裝委員長より下記の通照會あり之が回答に付協議す
(1) 今秋の防空演習に對し委員會として之が對策の件
(2) 今後に於ける當部の計畫內容及其經費の件
1 上記協議回答することに決定

都市武裝宣傳部會 (第1回)

時 8月16日午後6時30分—7時30分
所 建築材料陳列場別室
出席者 部長 小笠原
幹事 本 多
委員 岡田 篠原
1 午後6時30分小笠原部長より當部長に就任の挨拶あり各委員より是迄の經過を聽取したる後協議に入る
1 都市武裝委員長より下記2件に付照會あり之に對する回答に付協議す
(1) 今秋の防空演習に對する委員會としての對策の件
(2) 今後に於ける當部の計畫內容及其經費の件
1 上記の件協議回答することに決定
1 其他の宣傳方法等に關し意見交換の後散會す

常務會 (第16回)

時 8月19日午後6時—8時
所 建築俱樂部別室
出席者 理事 武田副會長 松井副會長
常務 伊藤 主記 池田 主記
北垣 主記 中澤 主記
清水 主計 谷 主計
岡田 編輯 島田 編輯
議 事
1 9月例會に關する件……見學
2 評議員會開催日及議事決定の件……可決
3 實業教育振興委員會より實業教育振興に關し所見照會の件……附託
4 法制委員會より委員一名增員依囑要求の件可決
5 建築法規に關する質疑回答發表の件……可決
6 大阪の都市美座談會に於ける要求問題の件
7 建築俱樂部室を當協會談話室として經營に關し回答の件
8 會員詮衡
報 告
1 7月分會計報告

會員動靜

入會者

會員
安藤 邦男君 兵庫縣武庫郡本山村中野435
安藤 隆正君 市外京阪沿線古川橋
明石常三郎君 浪速區新川3ノ620
板井 公威君 京都市左京區田中飛鳥井町7(京都府建築工場課)

井田　茂夫君　西淀川區佃町441(大種工務店)
上野　馨君　住吉區北田邊町77野々村方
上野　逸夫君　住吉區田邊本町6ノ48
榎本　淳一君　兵庫縣武庫郡住吉村大藏1417
大野　順君　京都市中京區河原町通蛸藥師下ル京都電灯株式會社工務課内
小川　政男君　北區與力町2ノ3
笠谷　定夫君　兵庫縣武庫郡精道村打出字中野49ノ2
喜田庄一郎君　京都府宇治郡宇治村木幡字大瀬戸42ノ2
小林　源七君　天王寺區堂ケ芝町34
兒島春太郎君　西區土佐堀通3ノ24　錢高組内
寺山　新造君　東淀川區元今里町北通2ノ26(清水組大阪支店)
中野　勉君　天王寺區松ケ鼻町53(大阪木村組)
中村　政一君　東成區片江町405
福本　貞吉君　港區市岡元町4ノ5(建築工務店自營)
本田　長治君　住吉區住吉町1149(大阪市土木部)
松本　英雄君　西淀川區海老江中1ノ52(建築設計自營)
增岡　熊三君　京都市左京區南禪寺草川町73(建築事務所自營)
三宅　福藏君　天王寺區上汐町5ノ27
滿田　秋義君　西成區千本通3ノ31(都市計畫大阪地方委員會)
山内　茂君　此花區江成町80(建築設計事務所自營)
尾辻　正巳君　普通賛助員より變格
植田　勇男君　此花區四貫島葭町5
元吉勇太郎君　旭區新森小路中2ノ16公園莊(大阪府建築課)
今津　忠幸君　府下守口町土居136(守口第2小學校建築工事監督)
宮内　義男君　住吉區阿倍野筋1ノ84　常盤アパート(守口町小學校復興建築監督)
佐納　盛登君　天王寺區國分町43(建築事務所自營)
芝崎　家興君　住吉區平野元町6ノ14(建築設計事務所自營)
森田　重男君　神戸市灘區上野通4ノ651(左雲工務店)
高橋　伊幸君　府下豐中町岡町37ノ3

地方會員

磯田　辰雄君　京都府綾部町川糸通リ
上島　八助君　東京市麻布區東鳥居坂6(小田邸建築場建築係)
大谷　龍雄君　東京市目黒區中目黒3ノ1054
椎原　克巳君　呉市阿賀町大坪谷309ノ11
進木　義雄君　靜岡市日出町20勝呂組
田原　博見君　愛媛縣西宇和郡宮内村
寺川　三郎君　廣島市猿樂町97
手代木善根君　岡山市四番町42ノ2(合資會社清水組)
中村　健二君　東京市豐島區西巢鴨3ノ1909
西脇秀太郎君　東京市澁谷區代々木初臺町520
野本　正巳君　宇治山田市常磐町下ノ切錢高組宮川寮
三澤　龍起君　東京市大森區馬込町東1ノ1262
御澤　英三君　岡山市内山下30
宮本市之亟君　和歌山市東旅籠町10(長谷部竹腰建築事務所住友銀行和歌山支店現場詰)
山本　良一君　東京市澁谷區上通2ノ12　濱野方
吉村　幾藏君　八幡市荒生田町1丁目　間組内
仰木　藤七君　福岡市社家町21　清水組博多支店(合資會社清水組)
内田　方助君　佐世保市東大久保町117(合資會社清水組)
江島　正則君　唐津市城内二ノ門(合資會社清水組)
大山　昇君　岐阜縣垂井町大林組出張所(株式會社大林組)
城戸　彦七君　福岡市大字三宅天神前(合資會社清水組)
栗田　春治君　福岡市社家町清水組博多支店(合資會社清水組)
柴川　傳槌君　大牟田市本町6ノ148(合資會社清水組)
城下　政登君　岐阜縣下破郡宮代村(株式會社大林組)
中陣千代吉君　小倉市宮町1ノ42　清水組小倉出張所(合資會社清水組)
原野　惠助君　福岡市荒戸町26(合資會社清水組博多支店)
久松　富治君　福岡市社家町清水組博多支店(合資會社清水組)

深澤　勝久君　大牟田市不知火町2ノ60(合資會社清水組博多支店)
前田　宗安君　唐津市城內二ノ門(合資會社清水組博多支店)
宮本　健一君　福岡市社家町21清水組博多支店(合資會社清水組)
吉原佑三郎君　大牟田市不知火町3ノ62(合資會社清水組)
渡邊　金作君　鹿兒島市鴻池町664(合資會社清水組)

特別贊助員

泉　　完君　此花區上福島北1ノ1(日本建材工業所)
行吉　角治君　兵庫縣武庫郡濱甲子園(日本建材工業所)
上野次郎男君　北區宗是町1日本窒素肥料會社內(日本窒素肥料株式會社營業課)
嘉數　　初君　此花區上福島北1ノ3(日本建材工業所)

普通贊助員

會津　松藏君　西宮市今津字浦風73(會津組本店)
市原喜代二君　京都市上京區紫野御所田町29
井奥　　進君　東成區猪飼野大通1ノ80
金岡　清吉君　西區立賣堀北通2ノ6
加納　重男君　南區難波新地5番町42
西崎　富男君　岡山市森下町61
藤田　忠夫君　岡山縣玉島町太陽レーヨン玉島工場新築場內
藤重土希雄君　堺市中之町西2丁13
山崎　武市君　北區相生町23桑山辰方
和久井千吉君　兵庫縣武庫郡鳴尾村中津積水寮(日本窒素肥料株式會社)
脇田　繁雄君　東成區南生野町1ノ67
廣戶　昌三君　福岡市社家町21　清水組博多支店(合資會社清水組)

退　會　者

會　　員

野村一郎君　宮野守君　矢崎高儀君

特別贊助員

岩田年弘君　馬場精治君　梁瀨悟君

普通贊助員

生駒忠彥君　井上彌太郎君　樋渡純良君　山田千代松君　太田秀太郎君　川添貞一郎君　松本正香君

轉　居　轉　勤

會　　員

竹內　　綠君　(町名改稱)尼崎市西御園町51
砂　　尙一君　北區善源寺町5ノ8
小林　　清君　港區八幡屋松之町2ノ81
塚本　猛次君　兵庫縣川邊郡塚口1037　慶長園名和方
川上　　要君　京都市上京區紫野門前町123
鈴木　孫市君　東淀川區三國本町57　美富久莊內
水原　大造君　大津市東浦46
新野京次郎君　住吉區駒川町8丁目18ノ10
池田彌之助君　神戶市平野雪御所町88ノ1
篠原　清孝君　府下中河內郡八尾町佐堂238(大阪市臨時校園建設所)
池田　　實君　(自宅)住吉區聖天下2ノ1

地方會員

小川政次郎君　住吉區千鉢町2
森定　幹夫君　臺北市榮町1ノ7大林組臺北出張所
酒井藤一郎君　港區東田中町1ノ129

終身贊助員

竹中藤右衛門君　東京市芝區下高輪町57

特別贊助員

林　繁之助君　東區龍造寺町19(林電器製作所電東45[illegible]8)

普通贊助員

奥保　忠次君　(設計監督自營)
倉田　裕邦君　神戶市神戶區元町5ノ275
山本　英夫君　神戶市林田區宮川町5ノ73
五條　宗次君　京都市上京區寺町通リ白梅圖子下ル本禪寺境內詮量院(京都府土木部營繕課)
山口　吾郎君　東區今橋4ノ1　三菱信託ビル東畑建築事務所
岡本　文之君　廣島市白島西中町67ノ5(廣島鐵道局工務課改良掛建築)
石原佐津喜君　石川縣江沼郡山中町山中觀光ホテル建築場大林組出張所
川久保梅次郎君　金澤市小將町1ノ29(石川縣建築工場課)

改　　名

地方會員　森定　幹夫君　(舊名松之助)
普通贊助員　倉田　裕邦君　(舊名忠　雄)

役員

常務會（定例日 第一第三月曜日）

會長	安一郎
會長	則郎
長事記	夫彥介
長事記	郎郎
副會長	二夫
副會長	男夫
監事記	馨史
監事記	雄郎
主事記	一三
主事記	咸男
主事計	一八
主事計	茂美郎
主事計	雄郎
編輯	一三
編輯	咸男
編輯	一八

會員評議員會

評議員	茂一喜郎
同	夫助世三
同	文夫藏
同	悌之
同	貞俊泰
同	清
同	隆捨
同	井
同	柳野部
同	谷鳥
同	二
同	黒淺中中
同	新智一
同	新
同	井
同	野
同	堀
同	甚
同	口
同	吉
同	武
同	一郎
同	作
同	郎郎
同	吉
同	郎郎
同	郎
同	三次
同	治次
同	三太
同	興平泰政
同	岡松田本
同	高高道吉
同	出
同	日正
同	間
同	瀬
同	久保
同	楠作境
同	橋
同	榮之
同	英敬
同	高浦
同	松
同	治助三
同	澈生一
同	吉郎郎郎

會員委員會

法制委員會（定例日 第一第三水曜日）

長事員	雄郎一三
委員	咸男一八
幹同	茂美郎
委同	敏次
同	豊
同	誠寛公喜
同	井
同	登亮林
同	川
同	井
同	晴五
同	石藤田浦
同	板白內本三宮山
同	脇口久

教化委員會（定例日 第二木曜日）

長事員	實郎治郎郎作一郎武吉
委員	田
幹委	太恒三五
同	原東
同	井勇忠太毅次
同	木木澤
同	野順
同	野
同	口
同	篠伊酒鈴高永中姫堀

材料委員會（定例日 第一第三水曜日）

長事員	治助三澈生一吉郎郎郎
委員	高
幹委	橋榮之
同	英敬
同	浦
同	松
同	出
同	日正
同	三太治次
同	興平泰政
同	岡松田本
同	久保瀬
同	楠作境
同	間
同	高高道吉

災害强度委員會（定例日 第三金曜日）

長事員	夫助世三文夫藏 茂一喜郎
委員	悌之
幹委	貞俊泰
同	清
同	隆捨
同	井
同	柳野部
同	谷鳥
同	二
同	黒淺中中
同	新智一
同	新
同	井
同	野
同	堀
同	甚
同	口
同	吉
同	武
同	一郎
同	作
同	郎郎
同	吉
同	郎郎
同	郎
同	三次
同	治次
同	三太
同	興平泰政
同	岡松田本
同	高高道吉

第一分科

長事員	信吉武郎雄武市夫治郎
委員	井
幹委	善信次
同	藤田幸義兵秀正太
同	井村
同	多
同	原知富國
同	喜國椎福福山
同	鳥加吉龜
同	下

第二分科

長事員	則郎助介郎吾
委員	顯
幹委	太之之
同	部東宗英熊六圭
同	岡伊浦北中渡
同	垣西部

會事幹場列陳料材建築

（定例日 第二木曜日）

長事幹	助史藏誠郎郎吾幸
幹同	之尙鐵五太圭實
同	清
同	井浦田久虎部
同	松三矢山山保渡渡
同	田口田

會部輯編「建築と社會」

（定例日 第一木曜日）

編輯部員	雅三郎一道武登
同	楠謙六亮正信
同	本畑西藤多田田
同	桐東中內本吉和

會員委輯編「建築學研究」

委員	治夫一弓諒雄二武雄一
同	恒種五眞
同	東名田澤橋
同	靜厚信尊慶
同	伊新武瀧棚坂藤吉橫森
同	井田山田

委員

都市計畫委員會（定例日 第一第三火曜日）

長事員	信吉武郎雄武市夫治郎
委員	井
幹委	善信次
同	藤田幸義兵秀正太
同	井村
同	多
同	原知富國
同	喜國椎福福山
同	鳥加吉龜
同	下

史美造藏郎誠吾治郎
尙晴大鐵三
浦脇原田儀
三宮水矢山山渡竹野
同同同同同同同同同囑同

託

建築會館會委員會
（定例日第四月曜日）

長事員　竹鈴木谷阪阪中松山　健末民芳米悌一重友　造尾藏郎吉夫郎光郎
委幹同委同同同同同同　腰木　三口井江澤室脇

會員委員會
（定例日第二月曜日）

長事員　富今酒池大倉口田宇谷中松宮山　岡林井田川田原本本脇　重彦勇久三一定實五誠儀長友　一郎郎吉郎二憲郎郎八治郎
委幹同委同同同同同同同同同同

木材市場品規格調査委員會
（定例日第二、第四火曜日）

長事員　高池松大北楠黒境阪島白後高谷丹野山道吉　橋田久阪垣瀬澤　正米良雄隆興平良義寅政吉　榮宮保材熊之　治彥三敬木商同業組合介澈研一吉馨一一吉郎雄雄一郎郎
委幹同委同同同同同同同同同同同同同同同同同同

藏雄　銅道男郎郎
捨詹　原正孝三
井山　笠多田口原
鳥橫　小本岡阪篠

傳部

同同　部幹委同同　宣長事員

吾吉郎　藤善次
野藤置　豐

展覽部

部幹委　長事員　村加玉

造助彥　健之宮清
腰井田

演習部

部幹委　長事員　竹松池

治治夫二　榮代喜稱
橋田名

錄記部

部幹同　長事　高秋新

水　清

計會部

部　長

都市製作畫映裝武特別委員會

實夫郎夫信助銅郎吉二造治郎一吉潰助吾雄武吾
悌次種之一善榮健榮一亮銓正之藤武信圭
田江幸井名井英原安笠川藤水腰橋澤誠藤塚多井野井田部
池波翁新鳥浦小小加清竹高中內平本松村安吉渡
長長員事　員委
委副幹同委同同同同同同同同同同同同同同同同同同

災害調查委員會

長事員　悌新楠俊太隆次捨智亮之正清多
江田野本野原　豐置井島藤井
波黒淺桐佐篠谷玉鳥中內松本
委幹委同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

郎史藏誠吾
次尙儀圭
猷田浦田部
堀三矢山渡

同同同同同

設備委員會
（第二、第四金曜日例日）

銅克一次夫造彥信
長事員　原笠井田澤內中村　敏小周成直安
委幹同委同同同同　小增村末竹田西塙

住宅委員會
（定例日第一、三木曜日）

郎吉郎修郎一研造次吉彥平八三吾
長事員　一野葛小赤岡木黒小塚長本增松三本　陽川谷小原安松新本村澤林本部間山本木野　壯安次寬三猛銳乙新儀來精　一松本部谷
委幹同委同同同同同同同同同同同同同同同同同

都市裝促進委員會

實夫　悌江　池波　田　長員委
委副　長員委

總務部

郎一郎史城　一亮六尙正　誠澤藤西浦口　中內中三山

財務部

雄助藏　武之福　井英　安浦井　上　長事員
部幹委　長事員

調查部

信武夫二雅　井田藤口本　信和一楠　鳥吉伊川桐
部幹委同同　長事員

研究部

造助彥治弓　健之宮恒眞　腰井田東澤　竹松池伊瀧
部幹委同同　長事員

編輯後記

○酷暑の折柄本號のために玉稿を賜つた方々、並びに寫眞、圖面、說明書のために御配慮を賜つた竹中工務店其他の方々に對して深甚の謝意を表すると共に、大方の多大の御援助にもかゝはらず編輯は御期待にそひ得なかつた事を恐縮してゐる次第である。

○產業日本を代表する大大阪市ならびにその二大衛星たる神戶市及び京都市の商店建築を本特輯號の對稱としたのであるが捜査網の不備もさる事ながら、注目に値するやうな商店建築があまり新築されないのはむしろ驚くべき事實である。が顧みれば百貨店と市場で我々の購買力が飽和されてゐるやうな現狀に於て日每に通り過ぎる多くの商店は實に甚だ緣遠い存在でしかなく、小賣商店の不活潑も又止むを得ないかもしれない。

○又丸紅、湯淺、佐々木、明治等の各商店は商店と名づけられながら我々の商店に對する概念の中には包含されにくいもので、建築の形態はむしろ事務所建築に近いやうに思はれる。しかしその發生をたどり、營業を見、經營と名稱に敬意を表するならば、誰か之を商店でないと斷言し得やう。で、こゝには一種の商店として取扱ひ、併せて新建築の紹介を兼ねた次第である。

○次號の茶室建築特輯號に御期待あらん事を。（本多正道）

建築と社會

第18輯第9號

每月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅2錢)　12册 6.00圓(同 24 錢)

昭和10年8月25日印刷　昭和10年9月1日發行

發行・編輯印刷人　小板常男
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　大阪活版所
大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　財團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長本局(23)4500番(6)
振替口座大阪 39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀 2440番
振替口座大阪 2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	½頁	1回	8.00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45.00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40.00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25.00
アート（中挿）	½頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5.00

廣告掲載御申込は本會直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築材料陳列場出品者

棚番號	材料種別	出品者
1・6	鋼製建具建築材料	三機工業株式會社
2～4	ギルソイドルーフキング	田島應用化學工業所
2～4	エターナイト	木下謹三商店
5	合板寄木フローリング	富士建築工藝株式會社
7	リノリユーム其他附屬品	東洋リノリユーム株式會社
8～9	六甲スレート日本石綿盤六甲タイル	野澤幸三郎商店
10	トラバーチン	金王石工所
11	ロールプラッグストップリーグ	ユニオントレーヂングコンパニー
12	チツソライト板	日本窒素肥料株式會社
13～14	銅眞鍮アルミニウム	古河電氣工業株式會社
15	特許能美式自働火災警報裝置及消火裝置其他	合資會社能美商會
16	衛生器具	大阪城口研究所
17	衛生器具	株式會社須賀商會
18	衛生器具	西原衛生工業所
19	テックス、コルク板、ルーフイング、スレート	佐藤合名會社
20～21	衛生陶器附屬品	東洋陶器株式會社大阪出張所
22	鋼鐵製窓枠	榮進社大阪出張所
23	內裝用藥掛タイル	淡陶株式會社大阪支店
24	カールプラグ及カールエキスパンションボールト	合名會社小野邉三商店
25	タイル	山本窯業商店
26	各種タイルテラカツター	大阪窯業株式會社
27～28	テラカツター衛生陶器	大阪陶業株式會社
29	タイル	有田製陶所
30	洋家具裝飾	船木由松商店
31	テラカツタータイル等	伊奈製陶株式會社
32	金庫寫眞カタログ	大谷金庫店
33	硝子製品、旭ラッカー	旭硝子株式會社
34	ドアーチエック、フロアーヒンヂ、スプリングヒンヂ	日本ドアーチエック製作所
35	町野式水道消防器具	ヂョイント商會大阪支店
36	ドアーハンガー	平松釣戶車製造所
37	建具金物	近江セールズ株式會社
38	大理石及人造石	矢橋大理石商店
39	大理石	大理石工業株式會社
40	建築參考塗料見本	關西ペイント株式會社
41	木工品	日本樂器製造株式會社大阪支店
42～43	建築用金屬材料ホワイトブロンズ水道銅管	住友伸銅鋼管株式會社
44		
45～46	ラス類一式	奥村重兵衛商店
47	スチールサッシュ、シヤッター見本	合名會社汎建製作所
48	板硝子	日本板硝子株式會社
49	ケンテキス	淺野物産株式會社建材部
50	建建金物	大塚定治郎商店
51	ベニヤ板及加工品	ベニヤ商會
52	金屬天井板	佐渡島西店建材部
53	各種マーブリック	守谷建材株式會社大阪支店
54	一般石材	關西石材株式會社
55	石綿スレート	淺野スレート株式會社
56		
57	オリエンタルメタル浪板	オリエンタルメタル製造所
58	ベニヤ板見本ドアーセクシヨン	內外木材工藝株式會社
59	專賣特許特殊ゴム床敷物	ライトラバー工業合資會社
60	田中式カストストーン	合名會社田中タイリング商會
61	アスファルト	榎商店
62	屋根瓦各種	高松菊治郎商店
63	ルーフキング	佐久間パブコ工業株式會社
64～65	キングブロックアスファルト鐵鋼類	マルエス工業株式會社
66	纖維製絕緣板、エールテックス	株式會社大同洋紙店
67	建築諸材料	合資會社建材社
68	セメント防水劑モリノイト保溫盤ウオータイト	日本セメント防水劑製造所
69	防水劑ロータス	關城化學工業株式會社大阪營業所
70	スカイライト、エービーメタル	內外土木建築材料合資會社
71	日之出アスファルト加工品	日本建築紙工大支店阪
72	硝子製品	株式會社島田硝子製造所
73	洋瓦各種	宇野洋瓦株式會社
A	裝飾織物	高島屋裝飾部
B. 1	コルク板	梁瀨商店
B. 2	美　素	美素工業所
B. 3	清光塗料　其他	清光社
B. 4	人造大理石	旭マーブル研究所
C	KU式自働復式火難求助器	一柳商店機械部

建築と社會第18輯第9號　廣告索引

ア　阿部鐵工所……25
　　旭硝子株式會社……9
　　朝日建材株式會社……前附 1
　　淺野スレート株式會社……17
　　淺海商會……40
イ　岩元商店建材部……40
エ　榮進社……30
　　英進商會建材部……46
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……12
　　大阪組立コンクリート製作所……34
　　大野製作所……前附 3
　　奥村重兵衛商店……37
　　大阪アスファルト商會……49
　　大嶺無煙炭鑛株式會社大理石部……4
　　岡田建材店……24
カ　勝田風呂製作所……表紙 4
キ　木下謹三商店……18
　　桐田商會……41
　　協和製作所營業部……34
ク　黒川化學工業所……19
　　久保商店……32
ケ　建盛商會……10
コ　後藤商店……12
　　國民工業學院……8
サ　佐渡島西店……22
　　三機工業株式會社……表紙 2
　　坂本商會大阪支店……15
ス　須賀商會……13
セ　政正合資會社……23
　　清光社……32
タ　田村商會……43
　　田中昌司商店……44
　　大同洋紙店……7
　　田島應用化學工業所大阪支店……6
　　大洋組建材部……38
　　ダンロップ護謨株式會社……中挿
　　タカラ商會……27
チ　チヨイント商會大阪支店……14
ト　東洋リノリユーム株式會社……26
　　德永板硝子製造株式會社……21
ナ　內外土木建築材料合資會社……42
　　南滿鑛業株式會社……38
　　中井商店大阪支店……47
ニ　日本建築紙工株式會社……23
　　日本金具株式會社……中挿
　　日本窒素肥料株式會社……表紙 3
　　日本建材工業所……50
　　日本洋瓦株式會社……11
　　西原衛生工業所……31
　　西孫南店建築金物部……27
ノ　野澤幸三郎商店……28
ヒ　日立製作所……16
　　平松釣戸車製作所……24
フ　福島合名會社……29
　　藤田庄藏商店……48
ホ　ボルネオ物產商會……10
マ　マルエス工業株式會社……20
　　松井商店……19
　　松信工業社……15
ミ　三井物產株式會社……35
ヤ　矢橋大理石商店……36
　　大和護謨製作所……33
　　山本東作商店……44
ヨ　横河橋梁製作所……39
　　米本榮商店……36
ラ　ライトラバー工業合資會社……45
レ　玲光社(木內眞太郎)……29